

意識の論理的構造

Michael Starks

意思決定研究から

	処分*	感情	メモリ	知覚	欲望	PI**	IA***	アクション/ 単語
サブリミナル効果	いいえ	はい/いいえ	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ	はい/いいえ
協会/ ルールベース	ルールベース	協会/ ルールベース	協会	協会	協会/ ルールベース	ルールベース	ルールベース	ルールベース
コンテキスト依存/ 抽象	抽象	コンテキスト依存/ 抽象	コンテキスト依存	コンテキスト依存	コンテキスト依存/ 抽象	抽象	コンテキスト依存/ 抽象	コンテキスト依存/ 抽象
シリアル/パラレル	シリーズで	シリアル/ パラレル	パラレル	パラレル	シリアル/ パラレル	シリーズで	シリーズで	シリーズで
ヒューリスティック または分析	分析的	ヒューリスティック または分析	ヒューリスティック	ヒューリスティック	ヒューリスティック または分析	分析的	分析的	分析的
作業メモリが必要	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	はい
一般的な知能依存	はい	いいえ	いいえ	いいえ	はい/いいえ	はい	はい	はい
認知負荷 それを抑制する	はい	はい/いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	はい
覚刺激 促進または 阻害	阻害	阻害 促進する	促進する	促進する	阻害	阻害	阻害	阻害

Reality Press Las Vegas

©アプライト © マイケル・スタークス (2019)

Isbn : [978-1-951440-64-0](https://www.isbn-international.org/details/9781951440640)

第1版2020

すべての権利が予約されています。本書の一部は、著者の明示的な同意なしに複製、配布、または送信することはできません。
印刷され、アメリカ合衆国でバインドされています。

「しかし、私はその正しさを満たすことによって世界の私の写真を得ませんでした:また、私はその正しさに満足しているので、私はそれを持っていません。いいえ:それは私が真と偽を区別する継承された背景です。 ヴィトゲンシュタイン OC 94

「今、それが私たちが関係している因果関係でなければ、心の活動は私たちの前にあります。 ヴィトゲンシュタイン 「青い書」 p6 (1933年)

「ナンセンス、ナンセンス、あなたは単に記述するのではなく、仮定をしているからです。ここでの説明に頭が悩まされているのなら、最も重要な事実を思い出すことを怠っているのです。 ヴィトゲンシュタイン Z 220

「哲学は単に私たちの前にすべてを置き、何も説明も推測もしていません。すべての新しい発見や発明の前に可能な事に「哲学」という名前を付けるかもしれません。 ヴィトゲンシュタイン PI 126

「私たちが提供しているのは、好奇心ではなく、人間の自然史に関する本当の発言です。しかし、誰も疑っていない事実に対する観察ではなく、常に目の前にあるため、無言の事実に過ぎないのです。 ヴィトゲンシュタイン RFM I p142

「哲学の目的は、言語が止まるところに壁を建てることです。 ヴィトゲンシュタイン哲学的機会 p187

「言語の限界は、文を単に繰り返さずに文に対応する事実(翻訳)を記述することは不可能であることによって示されています(これは哲学の問題に対する関天的な解決策と関係があります)。 ヴィトゲンシュタイン CV p10 (1931年)

「ここでの最大の危険は、自分自身を観察したいです。 LWPP1, 459

「機械プロセスは思考プロセスを引き起こす可能性がありますか?答えは:はい。実際、思考プロセスを引き起こすのは機械プロセスのみであり、「計算」はマシンプロセスに名前を付けず、通常はマシンに実装できるプロセスを挙げません。 サール PNC p73

"...計算としてのプロセスの特性は、外部からの物理システムの特性です。そして、計算としてのプロセスの識別は、物理学の本質的な特徴を特定するものではなく、本質的に観察者の相対的特徴である。 サール PNC p95

「中国語の部屋の議論は、セマンティクスが構文に固有ではないことを示しました。私は今、構文が物理学に固有ではないことを別々に異なる点にして

います。サール PNC p94

「物理学に固有の構文を得る唯一の方法は物理学にホムンクルスを入れるだけなので、再帰分解によるホムンキュラスの誤りを排除する試みは失敗します。サール PNC p97

しかし、型作者や脳などの物理システムは、その計算シミュレーションと共有するパターンを特定することによって説明することはできません。...要するに、構文の帰属はそれ以上の因果関係を特定しないという事実は、プログラムが認知の因果関係の説明を提供するという主張に致命的である。物理的なメカニズム、脳、その記述の様々な実際の物理的および物理的/精神的な因果関係があります。サール PNC p101-103

「要するに、認知科学で使用される『情報処理』の感覚は、本質的な意図的性の具体的な生物学的現実を捉えるには抽象化のレベルが高すぎます。私たちは、「私は私に向かって来る車を見る」という同じ文が視覚の意図的性とビジョンの計算モデルの出力の両方を記録するために使用することができるという事実によって、この違いに目がくらんでいます。認知科学で使われている「情報」という意味では、脳が情報処理装置であると言うのは単に誤りです。サール PNC p104-105

「理由文で報告された事実の性質と、エージェントの欲望、価値観、態度、およびエージェントとは無関係に合理的なエージェントに拘束力のある行動の理由はありますか？

評価。...伝統的な議論の本当のパラドックスは、ヒュームのギロチン、厳格な事実価値の区別を語彙で提起しようとするということです。サール PNC p165-171

"...すべてのステータス機能、したがって、言語を除くすべての制度的現実、宣言の論理的な形式を持つスピーチ行為によって作成されます。問題のステータス機能の形態は、ほとんど常に脱イオン力の問題です。何かを権利、義務、義務、要件として認識することは、行動の理由を認識することです。これらの脱イオン構造は、可能な欲望に依存しない行動の理由を作ります。一般的なポイントは非常に明確です:行動のための欲望ベースの理由の一般的な分野の作成は、行動のための欲望に依存しない理由のシステムの受け入れを想定しました。サール PNC p34-49

「意図的性の最も重要な論理的特徴のいくつかは、即時のフェノメノロジーの現実を持っていないので、フェノメノロジーの手の届かないところにあります。なぜなら、無意味さから意味を作るとは意識的に経験されていないからです。存在しません。これは。。。」「と、表見上の錯覚を見る。サール PNC p115-117

「意識は脳のプロセスに対して因果関係を低下させる。そして意識は、基礎となる神経生物学の因果関係に加えて、それ自身の因果関係を持っていません。しかし、因果関係の還元性は存在論的還元性につながりません。意識は経験としてのみ存在する。したがって、第三者のオントロジーを持つもの、経験とは独立して存在するものに減らすことはできません。サール PNC 155-6

"...心と世界の基本的な意図的な関係は、満足の条件と関係があります。そして、命題は、世界との意図的な関係に立つことができるものであり、それらの意図的な関係は常に満足の条件を決定し、命題は、条件を決定するのに十分なものとして定義されます。満足している、すべての意図的な性は命題の問題であることが判明しました。サール PNC p193

序文

「ヒヒを理解している者は、ロックよりも形而上学に向かって多くのことをするだろう」チャールズ・ダーウィン1838ノートブックM

この本は、人間の行動(何に関する誰もが書いたものと同様に)に関するもので、最近のサル(視点に応じて800万年以下)と、意図的な表に示されているように、私たちの生来の心理学の枠組みの中で明らかな言葉や行為を持つことの限界について書かれています。有名な進化論者リチャード・リーキーが言うように、私たちが類人猿から進化したのではなく、あらゆる重要な方法で類人猿であることを心に留めておくことが重要です。誰もがこのことを本当に理解していたら(人間の生態学と心理学が実際に自分自身をコントロールする)、文明にはチャンスがあるかもしれない。しかし、物事がそうであるように、社会の指導者は、その構成要素よりも物事を把握していないので、無政府状態と独裁政権に崩壊することは避けられません。

人間の行動の高次の論理構造の概要を提供するために、それは、高次思考(心、言語、合理性、人格、意図的性)の記述心理学、または言語ゲームのヴィトゲンシュタインに続いて、私はルートヴィヒ・ヴィトゲンシュタインとジョン・サールの主要な発見のいくつかを批判的に調査し、私の出発点であるヴィトゲンシュタインの根本的な発見を取る - すべての本当に「哲学的」(すなわち、より高い秩序の心理的)問題は同じ混乱です特定のコンテキストで言語を使用する方法、およびすべてのソリューションが同じである - その真実の条件(満足度またはCOSの条件)が明確になるように、問題のコンテキストで言語を使用する方法を見て。基本的な問題は、何でも言うことができますが、任意の発話と意味が非常に特定の文脈でのみ可能であることを意味することはできません(明確なCOSを明確にする)。私は、意図的性と新しいデュアルシステム命名法の新しいテーブルを採用して、思考の2つのシステムの最近の近代的な視点から分析を与えます。

私たちがなぜ私たちが振る舞うのかを理解することが重要なので、私は(ヴィトゲンシュタインが主張したように説明しない)行動を記述しようとしています。私は、言語(心、合理性、人格)の記述のためのいくつかのヒューリスティックを提供し、これが社会的行動の進化にどのように関連しているかについていくつかの提案を与える合理性の論理的構造の簡単なレビューから始めます。これは、私がこの点で最も重要だと思った2人の作家、ルートヴィヒ・ヴィトゲンシュタインとジョン・サールを中心に、私は最近の理解に非常に有用であることが証明されているデュアルシステム(思考の2つのシステム)フレームワーク内で組み合わせて拡張するアイデア行動や思考や推論の研究で。

私が指摘しているように、私の見解には、学問分野に関する永続的な質問の厳密な意味と、より高次思考(行動)の記述心理学との間に本質的に完全な重複があります。言語ゲームがどのようにプレイされるかという問題しかあり得ないというヴィトゲンシュタインの洞察を把握したら、満足の条件(声明を真実または満足させるものなど)を決定し、それが議論の終わりです。

哲学的な問題は、私たちの生来の心理学の結果であるので、またはウィトゲンシュタインが言ったように、言語の汗の欠如のために、彼らは人間の言説や行動全体を通して実行されるので、哲学的分析の必要性は無限にあります。哲学、社会学、人類学、政治学、心理学、歴史、文学、宗教等の科学ですが、物理学、数学、生物学の「ハードサイエンス」に。経験的事実が何であるかについて、言語ゲームの質問と実際の科学的な質問を混ぜることは普遍的です。サイエンティズムは今までに存在し、マスターはずっと前に、すなわち、1930年代初頭の青と茶色の本から始まるヴィトゲンシュタイン(以下W)を私たちの前に置いています。

哲学者は常に科学の方法を目の前で見えており、科学のように質問をして答え、たまらなく誘惑されています。この傾向は形而上学の本当の源であり、哲学者を完全な闇に導く」(BBB p18)

それにもかかわらず、ウィトゲンシュタインの作品の真の理解、そして私たちの心理学の機能の本当の理解は、特にP.M.S.ハッカー(以下H)とダニエレ・モヤール・シャーロック(以下DMS)だけでなく、他の多くの人に、私が記事で言及しているより顕著な人のために、21世紀の20年に広がり始めています。

ホーウィッチは、ウィトゲンシュタインの理解が私たちをどこに残すのか、私が今まで見た中で最も美しい要約を与えます。

「フレージの論理への算術の削減のように、言語的/概念的な活動(PI 126)を説明する試みがあってはならない。それを認識論的基盤(PI 124)に与える試みはありません。意味論理のように理想化された形式(PI 130)を特徴付けようとする試みはありません。それを改革する試みはありません(PI 124、132)マッキーの誤り理論やダメットの直感主義のように、クインの存在の説明のようにそれを合理化する試み(PI 133)はなく、嘘つきのパラドックスに対するタルスキーの反応のように(PI 132)より一貫性を保つ試みはなく、より完全な(PI 133)を作ろうとする試みはない。

ヴィトゲンシュタインに関する本や記事は数え切れないほどありますが、私の見解では、ごく最近のもの(DMS、H、Colivaなど)だけが彼の完全な感謝に近づいていますが、誰もジョン・サール(以下S)の行動の他の現代の天才の1

つに彼の作品を関連付けようと真剣な試みを行いません。私はここでこれをしようとします。

私は、ヴィトゲンシュタインとサールの意図的性の論理的構造(心、言語、行動)に関する主要な調査結果の一部を批判的に調査し、私の出発点であるヴィトゲンシュタインの根本的な発見は、真に「哲学的」な問題はすべて同じであり、特定の文脈で言語を使用する方法についての混乱であり、すべての解決策は同じであり、言語が条件(COSの条件)である文脈でどのように使用できるかを見ています。基本的な問題は、任意のanything発話と意味が非常に特定の文脈でのみ可能であることを意味することはできません(明確なCOSを明確にする)ことを意味することはできません。私は、2つの思考システムの観点から、意図的性と新しい二重システム命名法の新しいテーブルを採用して、それらによる様々な著作を分析します。

私が数年前に「確信について」を読んだとき、私は哲学と心理学の基礎石と行動を理解するための最も基本的な文書としてレビューでそれを特徴付け、DMSが何千年もの古い認識論的問題を解決したことを書いていました。私は、Wが2つのシステムまたは思考の二重システムとして特徴付けられているものを最初に把握したことに気づき、私は二重システム(S1とS2)の用語を生成し、私は行動を記述する上で非常に強力であることがわかりました。私はジョン・サール(以下S)が使用していた小さなテーブルを取り、それを大幅に拡大し、後で思考と推論の研究で様々な現在の労働者によって使用されているフレームワークと完全に統合されていることを発見しました。

彼らは個別に出版されたので、私は書評や記事を可能な限り単独で立たせようとしたのですが、これは様々なセクション、特にテーブルとその説明の繰り返しを説明しています。まず、意図の表を示し、その用語と背景を簡単に説明する短い記事から始めます。次に、表に関連するWとSの仕事の調査を試みる最長の記事であり、行動の理解や説明(Wが主張したように説明しない)に対して試みる。

ここで顕著に特徴付ける意図的性(合理性、心、思考、言語、人格など)のテーブルは、多かれ少なかれ正確に記述されているか、少なくともヒューリスティックとして機能し、私たちがどのように考え、振る舞うか、そしてそれは包含されないという私の主張です。単なる哲学と心理学、しかし、他のすべて(歴史、文学、数学、政治など)。特に、私が(サール、ヴィトゲンシュタインなどと共に)それを見るように、意図的性と合理性には、意識的な審議システム2と無意識の自動システム1の行動または反射神経の両方が含まれていることに注意してください。

アストゥートは、なぜ私たちが仕事でシステム1を見ることができないのか疑問に思うかもしれませんが、動物がすべての行動について考えたり、第二に

推測したりすることは明らかに逆効果であり、いずれにせよ、ゆっくりと統合されたシステム2が一定に関与する時間はありません私たちが行わなければならないスプリット秒の「決定」の流れ。Wが指摘したように、私たちの「思考」(T1またはシステム1の「思考」)は、直接行動につながる必要があります。

私たちについてのすべてに関する鍵は生物学であり、オバマ、チョムスキー、クリントン、教皇のような何百万人もの賢い教育を受けた人々が、地球上の地獄に無尽蔵にまっすぐにつながる自殺ユートピアの理想を配偶者に導くのは、それに気づかない。Wが指摘したように、見るのが最も難しいのは、常に私たちの目の前にあるものです。私たちは意識的な審議言語システム2の世界に住んでいますが、無意識の自動反射システム1がルールを定めています。これは、サールが表現法錯覚(TPI)、ブランクスレートとしてピンカー、標準社会科学モデルとしてトゥービーとコスミデスによって記述された普遍的な失明の源です。

私が指摘するように、表現型錯覚(自動化システム1への忘却)は普遍的であり、哲学を通してだけでなく、生涯を通じて広がっています。私はチョムスキーが、オバマ、ザッカーバーグ、教皇は、ヘーゲル、フッサール、ハイデガーと同じ問題に苦しんでいると言われた場合(または、腹側テグメントムと核を介してドーパミン(および100以上の他の化学物質)の送達によって前頭間皮質の刺激によって動機づけられることで、薬物中毒者や性中毒者とは程度だけが異なると言われた場合、信じられないでしょう。月論者は多くの人々の時間を無駄にただけであるが、彼らは地球とその子孫の未来を無駄にしている。

現代の「デジタル妄想」は、システム2の言語ゲームとシステム1の自動化を混同するため、生物学的機械(すなわち、人々)を他の種類の機械(すなわちコンピュータ)と区別することはできません。「還元主義者」の主張は、行動を「より低い」レベルで「説明」することができるということですが、実際に起こることは、人間の行動を説明するのではなく、それに対する「立ち上がり」ということです。したがって、セアレのデネットの本の古典的なレビュー(「意識は説明された」)のタイトルは、「意識は説明した」。ほとんどの文脈では、脳機能、生化学、または物理学に対するより高いレベルの創発行動の「減少」は支離滅裂である。また、化学や物理学の「減少」のために、パスは混乱と不確実性によってブロックされています(そして、カオス理論はゴデルの感覚では不完全であり、デシッドできない)。何でも方程式で「表現」することができますが、高い順序の挙動を「表す」場合、「結果」が何を意味するのかが明らかではありません(そして明確にすることはできません)。還元派の形而上学は冗談ですが、ほとんどの科学者や哲学者はユーモアのセンスを欠いています。

私は意識を「難しい問題」(デビッド・チャルマースを参照)と見なす多くの科学者や哲学者の仕事の研究してきましたが、ルパート・リードや他の人たちと一緒に、彼らの議論は説得力がありません。 ヴィトゲンシュタインが指摘したように、ハエ(同じ遺伝子の多くを持ち、ドーパミン系が行動操作を可能にする), andでも足がかりを持っていることがわかります。

トノーニに続く文学の海Tegmark(例えば、彼のYouTubeビデオを参照)からの最近の例では、意識は、これらが単なる言語ゲームの家族であることを認識しない高次の「情報処理」の「経験」であると考えています。だから、彼らはどんな「情報処理」デバイスもそれを持っているかと思っっているようです。 サールは、ビール缶の適切に配置されたスタックが行うかもしれないことを有名に示唆doしているが、彼はまた、それがニューロンの湿った生物学的配置に固有であるかもしれないと指摘する。 言語ゲームを些細な(そして面白くない)にしない限り、感覚や身体のないコンピュータが感情や意識を持つことは明らかではありません。

私は自分のコメントを統一された全体に溶け込みたいと思っていましたが、ヴィトゲンシュタインとAIの研究者がそうしたように、心(ヴィトゲンシュタインが示したのと同じ言語)は、多くの文脈で進化した異なる作品のモトリーであり、そのような全体が存在していないことに気づきました。または包括的なフィットネスを除く理論、すなわち、自然選択による進化。

最後に、私の90の記事と9つの他の本と同様に、そして50年以上にわたる私のすべての手紙や電子メールや会話の中で、私はいつも「彼/彼女」、または「彼女/彼」の愚かな逆性差別の代わりに「彼ら」または「彼女ら」を使用してきました。 これらの普遍的に適用される悪質な声線の奴隷的な使用は、もちろん、学術哲学、民主主義、産業文明の崩壊を生み出す私たちの心理学の欠陥と密接に関連しており、私はこれらのつながりのさらなる説明を読者のための練習として残しています。

私の他の著作に興味がある人は、トーキング・モンキーズ3rd ed(2019)、ルートヴィヒ・ヴィトゲンシュタインとジョン・サール3rd ed.の哲学、心理学、心と言語の論理的構造^d、民主主義による自殺第4版(2019)、21st世紀5thの自殺ユートピア妄想を見ることが出来ます。

私は仕事の不完全さと限界を認識し、継続的に改訂していますが、私は65で3年前に哲学1を取り上げたので、それは奇跡的であり、システム1の自動化の力に対する雄弁な証言であり、私は何でもすることができました。それは絶え間ない闘争の13年であり、私は読者が何らかの使用を見つけることを願っています。

vyupzz@gmail.com

意識の論理的構造

「これが私の手かどうか疑問に思ったら、どのように私は'手'という言葉が何らかの意味を持っているかどうかを疑うことを避けることができるでしょうか?だから、結局のところ、それは私が知っているように見えるものです。ウィトゲンシュタイン'オン・クレンティ' p48

「これはどのような進歩であり、魅力的な謎は取り除かれましたが、慰めに深いものは取り除かれていません。何も説明されたり、発見されたり、再考されたりしていません。いかに飼い慣らされ、感動的でない人が考えるかもしれません。しかし、おそらく、ウィトゲンシュタインが示唆するように、明快さ、解剖学、真実の美德は十分に満足していると思われるべきです」 -- ホーウィッチ「ウィトゲンシュタインのメタ哲学」。

まず、ウィトゲンシュタイン(W)の根本的な発見、つまり、真に「哲学的」な問題(つまり、実験やデータ収集によって解決されない問題)は同じであり、特定の文脈で言語を使用する方法についての混乱であり、すべての解決策は同じであり、その真実の条件(Sのアタイズの条件またはCOSの条件)が問題の文脈でどのように使用できるかを見て思い出しましょう。基本的な問題は、任意の発話と意味が非常に特定の文脈でのみ可能であることを意味することはできません(明確なCOSを明確にする)ことを意味することはできません。したがって、彼の最後の傑作「On Certainty」(OC)のWは、多くの場合、ナレーター、対話者、コメンテーターの彼の3つの典型的な視点から、「知っている」、「疑い」、「特定の」という言葉の様々な用途の顕著な例を見て、読者は各文脈で文章の最良の使用(最も明確なCOS)を決定します。関連する文章の使用しか記述できないので、隠された深さも形而上学的な洞察もありません。「意識」、「意志」、「空間」、「時間」などの「問題」はありませんが、これらの言葉の使用(COS)を明確に保つ必要があります。ほとんどの哲学者が、他の行動学の言語や、必死に必要とされる物理学、生物学、数学に注意を向けるのではなく、学術哲学特有の言語的混乱に時間を無駄にし続けていることは本当に悲しいことです。

Wは本当に何を達成しましたか?ウィトゲンシュタインの一流の学者が彼の作品を要約した方法は次のとおりです:「ウィトゲンシュタインは、何世紀にもわたって私たちの主題をかわしてきた深い問題の多くを解決しました。思考と言語の関係、孤独主義と理想主義、他の心の自己知識と知識、そして必要な真理の性質と数学的命題について。彼はヨーロッパの論理と言語の哲学の土壌を耕した。彼は私

たちに心理学の哲学に関する洞察力の小説と非常に実り多い配列を与えました。彼は数学と数学的真理の性質に関する何世紀にもわたる反省を覆そうとした。彼は基礎主義的な認識論を損なった。そして、哲学のビジョンを人間の知識ではなく人間の理解への貢献として、私たちの思考の形と、私たちが落ちやすい概念的混乱を理解するのです。—ピーター・ハッカー—「ゴードン・ベイカーのヴィトゲンシュタインの後期解釈」

これに加えて、Wは思考の2つのシステム(高速自動言語学的前言語S1と遅い反射言語的性質S2)を明確かつ広範囲に記述した最初のものであることを付け加えます。彼は、判断の公理的根拠であり、疑われたり判断したりすることができない広大な継承された背景でのみ行動が可能である方法を説明したので、(選択)、意識、自己、時間、空間は生まれつきの真の唯一の公理です。彼は、何千ものページと何百もの例で、私たちの内なる精神的経験が言語で記述できない方法を指摘しました。彼は、はるかに後に出現したパラコンシステント論理の有用性を予測しました。ちなみに、彼はローターを駆動するためにブレードチップジェットの使用を30年予想し、遠心流ガスタービンエンジンの種子を持っていたヘリコプターの設計を特許取得し、心臓拍動モニターを設計し、建物を設計し、監督しましたモダニズムの家、そしてオイラーの定理の証明をスケッチし、その後他の人によって完成しました。彼は数学、論理、不完全さ、無限の心理的基盤を打ち出した。

ホーウィッチは、私が今まで見た中で最も美しいスマーyを与えますヴィトゲンシュタインの理解が私たちを残す場所。

「フレージの論理への算術の削減のように、言語的/概念的な活動(PI 126)を説明する試みがあってはならない。それを認識論的基盤(PI 124)に与える試みはありません。意味論理のように理想化された形式(PI 130)を特徴付けようとする試みはありません。マッキーの誤り理論やダメットの直感のように、それを改革する試み(PI 124,132)。クインの存在のアカウントのようにそれを合理化する試みはありません(PI 133)。嘘つきのパラドックスに対するタルスキーの反応のように、それをより一貫させる試み(PI 132)を作る試みはありません。奇妙な仮説的な「テレポーション」シナリオのための個人的なアイデンティティの質問の解決のように、それをより完全に(PI 133)にしようとする試みはありません。

彼は常に生まれつきの背景の必要性を説明し、それがどのように行動を生み出すかを実証したので、彼は最初の進化心理学者と見なすことができます。誰もそれを知らないようだが、彼は後にワソントストになったものの背後にある心理学を説明しました - 数十年後に進化心理学(EP)で使用される基本的な尺度。彼は、言語の不確定または不確定な性質と社会的相互作用のゲームのような性質を指摘しました。彼は、実用的なコンピュータやサールの有名な著作のずっと前に、機械としての心の概念と心の計算理論を記述し、反論しました。彼は論理と哲学で使用

するための真理のテーブルを発明しました。彼は決定的に懐疑論と形而上学を休ませるために置いた。彼は、不可解であるどころか、心の活動が私たちの前にあることを示し、それ以来学んだ教訓はほとんどありません。

ウィトゲンシュタインについて考えるとき、私はしばしばケンブリッジ哲学教授 C.D.ブロード(彼を理解も好きにもしなかった)に起因するコメントを思い出します。「ヴィトゲンシュタインに哲学の椅子を提供しないのは、アインシュタインに物理学の椅子を提供しないようなものです!私は彼を直感的な心理学のアインシュタインと考えています。10年後に生まれたが、彼は同様に世界のほぼ同時に現実の性質についてのアイデアを孵化させ、アインシュタインのように、第一次世界大戦でほぼ死亡した。今、アインシュタインは、混乱し、しばしば間違っていたが、世界的に有名になった彼のアイデアの1つの初期のバージョンを公開した困難な人格を持つ自殺同性愛者の隠れ家だったとします。彼の考えを完全に変えたが、次の30年間、彼の新しい作品の知識は、ほとんどが文字化けした形で、時折の講義や学生のメモからゆっくりと拡散した。彼は1951年にドイツ語で主に手書きの落書きの20,000ページ以上を残して死亡し、しばしば、前後の文章との明確な関係を持たない文章や短い段落で構成されています。これらは、多くの文章が複数の変種を持つように、余白、下線と交差した言葉で何年も前に書かれた他のノートブックからカットされ、貼り付けられたこと。彼の文学幹部は、この難消化性の塊を粉々に切り取り、彼らが望むものを残し、宇宙の仕組みについての全く斬新な見解を伝えていた文章の正しい意味を捉えるという巨大な仕事に苦しんでいるその後、苦渋の遅さでこの資料を公開しました(半世紀後に終了していません)それは何が何であるかの本当の説明を含まない序名で;彼は、以前の物理学はすべて間違いでありナンセンスであり、それを議論する何百もの本と何万もの論文にもかかわらず、事実上誰も彼の仕事を理解していないという多くの声明のために有名になった。多くの物理学者は、彼が非常に抽象的で凝縮された形で述べたニュートン物理学の決定的な合計をした彼の初期の作品だけを知っていたので、何が言われているのかを決めるのは難しい。彼はその後事実上忘れられ、世界の性質と現代物理学の多様なトピックに関するほとんどの本や記事は、彼に渡し、通常は誤った言及しかなく、多くの人が彼を完全に省略した。彼の死後半世紀以上経った今まで、彼が行ったことの記念碑的な結果を本当に把握した人はほんの一握りでした。これはまさにヴィトゲンシュタインの状況だと私は主張します。

Wが80代に住んでいたなら、彼はサール(記述心理学のもう一つの現代の天才)、ピンカー、トゥービーとコスミデス、シモンズ、そして無数の他の行動学生に直接影響を与えることができたでしょう。彼の華麗な友人フランク・ラムジーが若い頃に死ななかつたら、非常に実りあるコラボレーションはほぼ確実に続いていたでしょう。もし彼の学生と同僚のアラン・チューリングが彼の恋人になっていたなら、史上最も驚くべきコラボレーションの一つが進化したでしょう。いずれにせよ、20世紀の知的景観は異なっていたらろうし、3つすべてが起こっていたら、それはほぼ確実に非常に異なっていたらろう。その代わりに、彼は相対的な知的孤立

の中で生きていて、彼をよく知っていたり、彼が活着ている間に彼のアイデアを知っていたり、彼の仕事を本当に把握しているのはほんの一握りです。彼はエンジニア、数学者、心理学者、生理学者(彼は戦時中の研究をした)、ミュージシャン(彼は楽器を演奏し、口笛のための有名な才能を持っていた)、建築家(彼が妹のために設計し、建設した家はまだ立っている)、または起業家(彼は世界最大の財産の1つを受け継いだが、それをすべて与えた)として輝くことができました。それは彼がトレンチと刑務所を生き延び、Iy第一次世界大戦で最も危険な義務(トラクタトゥスを書いている間)のために繰り返しボランティア活動を繰り返し、長年の自殺うつ病(3人の兄弟が彼らに屈した)、オーストリアに閉じ込められ、ナチスによって処刑されることを避けました(彼は部分的にユダヤ人であり、おそらくナチスが家族を救ったお金に手を置きたいという願望だけでした)。彼は誰も自分が何をしているのか理解しておらず、決して理解していないかもしれないことに気づいた(彼は半世紀であったように、または心理学と哲学の先のあなたの視点に応じて1世紀全体であったので、驚くべきことではない。最近になってようやく私たちの脳は私たちの心のような進化した器官であることを受け入れ始めた)。

まず、サール(S)、ヴィトゲンシュタイン(W)、ハッカー(H)らの作品に例示されているように、哲学と現代心理学研究との関係についていくつかのコメントを提供します。それはTLPの私のレビューを見るのに役立ちます、BBB、PI、OC by W、PNC(新世紀の哲学)、社会世界(MSW)、物事をあるように見る(STATA)、サールの哲学と中国哲学(SPCP)、ジョン・R・サール - 現実世界(TARW)について考える、そして心理学の本にはない高次行動の明確な記述を提供するこれらの天才についての他の本は、私がWSとして枠組みとして参照する。私はWとSからのいくつかの貫通引用符から始めます。

心理学の混乱と不毛さは、それを「若い科学」と呼ぶことによって説明されるべきではありません。その状態は、例えば、その始まりの物理学の状態と比較することはできません。(むしろ数学の特定の枝のそれと。理論を設定します。心理学では実験的な方法と概念的な混乱があります。(他の場合と同様に、概念的混乱と証明の方法)。実験方法の存在は、私たちが私たちを悩ませる問題を解決する手段を持っていると思います。しかし、問題と方法は互いに渡し合う。ヴィトゲンシュタイン (PI p.232)

哲学者は常に科学の方法を目の前で見えており、科学のように質問をして答え、たまたま誘惑されています。この傾向は形而上学の本当の源であり、哲学者を完全な闇に導く」(BBB p18)。

「しかし、私はその正しさを満たすことによって世界の私の写真を得ませんでした:また、私はその正しさに満足しているので、私はそれを持っていません。いいえ:それは私が真と偽を区別する継承された背景です。ヴィトゲンシュタイン OC 94

「哲学の目的は、言語が止まるところに壁を建てることです。ヴィトゲンシュタイン哲学的機会 p187

「言語の限界は、単に文を繰り返すことなく、文に対応する(翻訳である)事実を記述することは不可能であることによって示されています。ヴィトゲンシュタイン CV p10

「この意味で多くの言葉は、厳密な意味を持っていません。しかし、これは欠陥ではありません。それは、私の読書灯の光が、鋭い境界を持たないので、まったく本当の光ではない、と言っているようなものだと思います。BBB p27

「すべての符号は解釈が可能ですが、意味は解釈が可能であってはならない。それは最後の解釈です" BBB p34

「貯水池からのように、私たちのすべての行為が湧き出る精神状態と呼ばれるものを常に探す(そして見つける)一種の一般的な考え方があります。BBB p143

「そして、私たちがここと1000の同様のケースで犯す傾向がある間違いは、私たちが「私たちが行うようにルールを使用させる洞察力の行為ではない」という文でそれを使用しているように、「作るために」という言葉でラベル付けされています。「何か私たちが作らなければならない」という考えがあるので、私たちがやっていることを行うからです。そして、これは再び原因と理由の間の混乱に結合します。私たちは、私たちがそうであるように、ルールに従う理由が必要ではありません。一連の理由は終わりを持っています。BBB p143

「正しくはあるが、その対象と類似していない絵の可能性を念頭に置けば、文と現実の間の影の補間はすべてのポイントを失います。今のところ、文自体はそのような影として役立つことができます。文は、それが表すものと少しも類似していない、ちょうどそのような絵です。

BBBp37

「このように、私たちは、彼らが明らかに「証明」という言葉の多くの異なる使い方を認識していないことを、いくつかの哲学的な数学者について言うかもしれません。そして、彼らはここで「種類」という言葉が文脈「リンゴの種類」と同じことを意味していたかのように、彼らが数字の種類、証明の種類の話をするとき、彼らは「種類」という言葉の使用の違いについて明確ではありません。あるいは、あるケースでは五角形の建設の発見と南極の発見について話すとき、彼らは「発見」という言葉の異なる意味を認識していないと言えるかもしれません。

BBB p29

「意図的性の最も重要な論理的特徴のいくつかは、即時のフェノメノロジーの現実を持っていないので、フェノメノロジーの手の届かないところにあります。なぜなら、無意味さから意味を作るとは意識的に経験されていないからです。存在しません。これは。。。」「と、表見上の錯覚を見る。サール PNC p115-117

"...心と世界の基本的な意図的な関係は、満足の条件と関係があります。そして、命題は、世界との意図的な関係に立つことができるものであり、それらの意図的な関係は常に満足の条件を決定し、命題は、条件を決定するのに十分なものとして定義されます満足して、すべての意図的性は命題の問題であることが判明しました。サール PNC p193

「意図的な状態は、満足の条件を表しています。人々は誤って、すべての精神的表現は意識的に考えなければならないと考えています。しかし、私が使用している表現の概念は機能的であり、トポロジ的な概念ではありません。満足の条件を持つものは、意図的性の特徴である方法で成功または失敗する可能性があり、定義上、その満足の条件の表現です。社会現象の意図の構造を、満足の条件を分析することで分析することができます」サールMSW p28-32

「迷信は因果関係への信念にすぎない」 TLP 5.1361

「今、それが私たちが関係している因果関係でなければ、心の活動は私たちの前にあります。BBB p6

「科学的な疑問がみな答えられても、人生の問題は完全に手つかずのままだと感じています。もちろん、質問は残っておらず、これが答えです。
TLP 6.52

「ナンセンス、ナンセンス、あなたは単に記述するのではなく、仮定をしているからです。ここでの説明に頭が悩まされているのなら、最も重要な事実を思い出すことを怠っているのです。Z 220

「哲学は単に私たちの前にすべてを置き、何も説明も推測もしていません。すべての新しい発見や発明の前に可能な事に「哲学」という名前を付けるかもしれません。PI 126

「実際の言語を狭く調べるほど、より鋭い言語と要件との間の矛盾が発生します。(論理の結晶性の純度については、もちろん、調査の結果ではなく、要件でした。PI 107

「この説得で私が反対したい間違った概念は、私たちが全く新しいことを発見することができるという次の概念です。それは間違いです。問題の真実は、我々は

すでにすべてを持っている、と我々は実際に存在を持っているということです。私たちは何かを待つ必要はありません。私たちは普通の言語の文法の領域で私たちの動きを行い、この文法はすでにそこにあります。ですから、我々はすでにすべてを持っており、将来を待つ必要はありません。(1930年に述べた)ワイスマン「ルートヴィヒ・ヴィトゲンシュタインとウィーン・サークル(1979) p183

「ここでは、哲学的調査において顕著で特徴的な現象に立ち向かう:難易度---私は言うかもしれませんが---解決策を見つけることではなく、まるで予備的なものであるかのように見えるものを溶出するものとして認識することです。私たちはすでにすべてを言いました。---これから続くものは何もない、これ自体が解決策ではない!....これは、私たちが間違っって説明を期待しているのに対し、難易度の解決策は、私たちの考慮事項に適切な場所を与えるならば、説明であると信じています。私たちがそれに住んでいて、それを超えようとしなないでください。ゼッテル p312-314

「私たちの方法は純粋に説明的であり、私たちが与える説明は説明のヒントではありません。BBB p125

これらの引用はランダムに選択されませんが、(私のレビューの他の人と一緒に)私たちの最大の記述心理学者の2人の行動(人間性)の概要です。これらのことを考慮すると、哲学(私がここで考える厳格な意味で)は、完全に見落とされている明白な事実の一つである高次思考(HOT)の記述心理学であることを心に留めておく必要があります。どこでも述べられている。哲学者は、自分がやっていることが記述心理学であることを明確にしないことに加えて、他の行動学生(科学者)がそうではないこのトピックに貢献することを期待していることを正確に指定することはめったにありません。科学の羨望の発言, 私はそれに良いスタートを与えるハッカーから再び引用します。

「伝統的な認識論者は、知識が真の信念とさらなる状態であるかどうか、または知識が信念を意味していないかどうかを知りたいと考えています。私たちは、知識がいつ、いつ正当化を必要としないのかを知りたいと考えています。私たちは、彼が何かを知っているとされたときに、人に何が起因するのかを明確にする必要があります。それは独特の精神状態、業績、パフォーマンス、処分または能力ですか?pが脳の状態と同じであることを知っているか、信じることができるか?なぜ「彼はそのpを信じているが、私はそのpではない」と言うことができるのに対し、「私はそのpを信じているが、それはそうではない」と言うことができるのですか?知識を達成し、達成し、受け取る方法、方法、手段があるのに、(信仰とは対照的に)信念ではないのはなぜですか。なぜ誰が、何を、いつ、いつ、どのように知ることができるのか、信じられないのでしょうか?なぜ人は、心から、情熱的に、ためらい、愚かに、思慮深く、狂信的に、独断的に、または合理的に信じることができるのでしょうか?なぜ人は完全に、徹底的に、または詳細に何かを知

ることができるが、信じられないのか?知識や信念だけでなく、知覚とその同一性の多数の動詞は言うまでもなく、何百もの同様の質問を通して、疑い、確実性、記憶、忘れ、観察、注意、認識、出席、意識、意識すること。これらの質問に答える必要がある場合に明確にする必要があるのは、私たちの認識概念のウェブ、様々な概念と一緒にハングアップする方法、その互換性と非互換性の様々な形態、そのポイントと目的、その前提と文脈依存の異なるnt形式です。結合解析におけるこの由緒ある運動に、科学的知識、心理学、神経科学、自己型認知科学は何も貢献できない」(自然主義的なターンで渡す:クインの袋小路-p15((2005年)。

1951年に彼の死にWは約20,000ページの散在したコレクションを残しました。トラクタウスとは別に、彼らは未発表でほとんど知られていませんでしたが、一部は広く流通して読んでいましたが(彼のクラスで取られたメモのように)、広範ですが、ほとんど認められていない影響につながりました。いくつかの作品は失われたと知られており、他の多くのWは破壊されました。このナクラスのほとんどはコーネル大学によって1968年にマイクロフィルム化され、コピーは非常に少数の図書館によって購入されました。バッド・ウィトゲンシュタインの心理学哲学(1989)-時代のほとんどのWコメンテーターのように、マイクロフィルムを参照していません。ナクラスの多くは繰り返しであり、彼のその後出版された作品(バッドによって参照されている)に何らかの形で現れますが、多くの変種のテキストは大きな関心事であり、元のドイツ語から翻訳されたことがない実質的な資料があります本の形で出版も。

ヨリック・スミシーズの講義ノートは2018年に登場し、今でも私たちは彼の恋人フランシス・スキナーと一緒に残されたブラウンブックのバージョンと思われるものを待っています-'ウィトゲンシュタイン、フランシス・スキナーに哲学を指示する'(スプリンガー、2019)。1998年、完全なナクラスのベルゲンCDが登場しました-ウィトゲンシュタインのナクラス:テキストとファクシミリバージョン:ベルゲン電子版\$2500 ISBN 10:0192686917。これは、図書館間ローンを通じて利用可能であり、同様にネット上で無料です。Wの作品の他のCDと同様に、それはIntelex(www.nlx.com)から入手できますwww.nlx.com。インデックス化され、検索可能であり、主要なWリソースです。しかし、私のW文学の広範な読み取りによると、わざわざ相談した人はほとんどいなく、彼らの作品は重要な要素を欠いている。ゴデルに関するWの発言に関するビクター・ロディッチの論文は、1つの顕著な例外として見ることができます。2000年に本として出版されたWの中期(1933年)の主要な作品の一つは、有名なビッグタイプスクリプトです。バッドの「ヴィト

ゲンシュタインの心理学哲学(1991)は、W(私のレビューを参照)のより良い治療法の一つですが、彼は1989年にこの本を終えて以来、ビッグタイプスクリプトもベルゲンCDも彼には利用できず、コーネルのマイクロフィルムを無視しました。それにもかかわらず、Wの第3期(1935年から1951年)の最も重要な作品の日付は、すべてBuddによって使用されました。

Wittgenstein の完全に斬新なアイデアとユニークな超ソクラテスの試作(私の用語)と電信執筆は、彼のしばしば孤独な、ほとんど孤独なライフスタイル、そして1951年の早死と相まって、彼の生涯の間に彼の後の考えのものを出版しに失敗し、ゆっくりと *nachlass* 約 20,000 ページの彼の巨大なナクラスをゆっくりと持っています。主にドイツのナクラスの唯一の完全版は *nachlass*、2000年にオックスフォードによって最初に発行され、InteleX は現在それを出版しています。ブラックウェル CD は 100 ドルですが、オックスフォード CD は元の原稿の画像を含むセットで 1000 ドル以上または 2000 ドル以上です。しかし、それらは図書館間ローンを介して入手することができ、また、ほとんどの書籍や記事のように、ネット (libgen.io、b-ok.org、p2p) and on p2p) で自由に利用できるようになりました。The 彼の英語の本 as の検索可能な CDROM だけでなく well、ドイツのナクラス全体の CDROM は、ネット上のいくつかのサイトにあり、ベルゲン CD は新 し い 版 の ca .. s,2021 -- <http://wab.uib.no/alouis/Pichler%2020170112%20Geneva.pdf>). もちろん、ほとんどの学術論文や書籍は現在、b-ok.org と libgen.io でオンラインで無料です。And

さらに、20世紀初頭のウィーン語ドイツ語を現代英語に翻訳することには大きな問題があります。これを行うには、英語、ドイツ語、Wのマスターでなければならず、それに従う人はほとんどいません。彼の作品はすべて明確な翻訳ミスに苦しんでおり、翻訳するために彼の後の哲学の推力全体を理解しなければならないより微妙な質問があります。私の見解では、ダニエレ・モヤアル・シャーロック (DMS) 以外の誰も彼の後の作品の完全な輸入を把握していないので(しかし、もちろん、彼女は最近広く出版され、多くの人が彼女の見解を認識しています)、Wがまだ十分に評価されていない理由を見ることができます。多かれ少なかれ、様々な文脈において-「Satz」を「文」(すなわち、多くの文脈でS1発話と見なすことができるもの)と「命題」(多くの文脈ではa満足を持つ意味のあるS2発話)を理解することの間の既知の重大な違いは、通常、通知を免れている。

いくつかの通知(最近の記事のBudd p29-32、スターンとDMSはまれな例外です)、Wが(混乱と複雑性科学が生まれる数十年前)、いくつかの精神現象が脳の混沌としたプロセスに由来する可能性があることを示唆した例えば、メモリトレースに対応するものは何も存在しない。彼はまた、因果鎖に終わりがあることを何度か示

唆し、これは(科学の状態に関係なく)それ以上それを追跡することは不可能であり、そして「原因」の概念が一定のポイント(p34)を超えて適用されなくなることを意味する可能性があることを示唆した。その後、多くの人がW anticが何十年も彼らを分け合ったという考えなしに同様の提案をしました(実際には1世紀以上にわたるいくつかの例があります)。

DMSでは、Wの最後の著書「確実性について」(OC)を哲学と心理学の基礎石と考えています。それは本当に本ではありませんが、彼は前立腺癌で死に、かろうじて働くことができる間、彼の人生の最後の2年間の間に作ったノートです。彼は主に、G.E.ムーアの単純な努力がすべての哲学の核心に焦点を当てたという認識によって動機づけられたようです。誰もができることは、私たちの脳の原始的な自動言語前システム1(S1)機能(私のK1、C1、D1)と高度な審議言語システム2(私のK2、C2、D2)機能を記述するために使用される「知っている」と「特定」と「疑い」の言語ゲームの働きを細かく調べることです。もちろん、Wは、彼の死後約半世紀後に心理学で最初に来て、まだ哲学に浸透していない2つのシステム用語を使用していませんが、彼は30年代初頭から彼の作品のすべてで2つのシステムフレームワーク(「文法」)を明確に把握し、1つは彼の最も初期の著作で明確な影を見ることができます。

多くは、相対的な忘却で半世紀後、最近、ムーアとWと確実性(OC)に書かれています。例えば、アナリサ・コリヴァの「ムーアとヴィトゲンシュタイン」(2010年)、「拡張合理性」(2015年)、自己知識の品種(2016年)、ブライスの「確実性の探求」(20)を参照してください。14)とアンディ・ハミルトンの「トラウトレッジ哲学ガイドブック・フロム・ヴィトゲンシュタインと確実性」、そしてハッカーの最近の人間性に関する3巻を含むダニエレ・モヤル・シャーロック(DMS)とピーター・ハッカー(PH)の多くの本や論文。DMSとPHは、後のWの主要な学者であり、それぞれが半ダースの本(多くは私によってレビューされた)と過去10年間の多くの論文を書いたり編集したりしてきました。しかし、私たちの高次心理学の基礎、すなわち言語(Wが私たちに示したように、心とほぼ同じ)の作品がどのように機能するかは、非常に最近の記事で発言した最も華麗で多作な現代哲学者の一人であるColivaによって、彼が最も基本的な問題を解決したことを理解していないようです。DMSが明らかにしているように、私たちの基本的な心理学(私がS1と同一視するWの「ヒンジ」)の操作に関する危惧を一貫して述べることでさえできません。DMSは、(Colivaやハッカーの記事のように)ネット上で自由に利用できる彼女の最近の記事で、これらの労働者の両方の制限(行動のすべての学生が共有する制限)を指摘しています。

DMSが言うように: ".「確実性」を構成するノートは、基本的な信念の概念に革命を起こすと懐疑主義を解消し、ムーアだけでなく、デカルト、ヒューム、そしてすべての認識論に対しても、それらを是正にします。「確実性」は、彼が解決するために着手した問題を解決したことをウィトゲンシュタインに示しています -

ムーアを占領し、認識論を悩ませた問題 - 知識の基礎のそれ。

ウィトゲンシュタインの『オン・クアリティ』の革命的な洞察は、哲学者が伝統的に「基本的信念」と呼んでいるもの、つまりすべての知識が最終的に基づく必要があるという信念は、無限の回帰の痛みに基づくことはできません。彼は、基本的な信念は、一度(例えば哲学者によって)策定された行動の本当に動物的または反射的でない方法であり、(経験的な)命題のように見えることを見る。哲学者が思考の基礎にはまだ思考が深いと信じさせるのは、この誤解を招くような姿です。しかし、彼らはしばしば経験的な結論のように見えるかもしれませんが、私たちの基本的な確実性は、その目的ではなく、知識の非円ック、非命題の基盤を構成します。このように、行動の方法として現れる反射しない確実性の知識の基礎を位置付ける際に、ウィトゲンシュタインは正当化が終わる場所を見つけ、基本的な信念の後退問題を解決しました。これは哲学の画期的な成果であり、ウィトゲンシュタインの「第3の傑作」を「確実に」と呼ぶ価値があると思います。

私は何年か前に同じ一般的な結論に達し、私の書評でそれを述べました。

彼女は続けます:..これはまさにウィトゲンシュタインが確実にムーア型ヒンジの確実性を説明する方法です:彼らは「経験的命題の形を持っています」が、経験的な命題ではありません。確かに、これらの確実性は、世界の必要な特徴を記述するように見える形而上学的な命題ではありませんが、それらは世界の偶発的な特徴を記述するように見える推定経験的命題です。そして、そこには確実性の目新しさの一部があります。On確実性は、使用言語から文法を切り離すために、言語ゲームの文法を解明しようとする長い、途切れない試みの終わりに来るという意味で、トクタタスを含むウィトゲンシュタインの以前の著作のすべてと連続しています。ベーカーとハッカーは、第2のウィトゲンシュタインの形而上学的または超経験的な命題の文法的性質のマスク解除を見事に解明しました。確実性を区別しているのは、いくつかの「経験的」命題と他のものとの間のさらなる顕著な区別である(「我々の「経験的命題」は均質な質量を形成しない」(OC 213):一部の明らかに経験的および偶発的な命題が実際にある文法的なルールの表現以外の何ものでもない。この実現の重要性は、基本的な信念(彼らはハムドラマの経験的および偶発的な命題のように見えるが)は、実際には概念的に解明されたときにルールとして機能すると見ることができると行動の方法であるという前例のない洞察につながるといことです文法の:彼らはすべての思考(OC 401)の根を下に。「地球は長年存在してきた」というヒンジの確実性が、すべての思考と行動を支えているが、私たちが直ちに真実として打つ命題としては支えていないように。むしろ、私たちが行うことを支える行動の方法として(例えば、私たちは地球の時代を研究します)、そして私たちが言うこと(例えば、過去形で地球について話します):「根拠を与えることは、証拠を正当化することは終わりを告げる。-しかし、終わりは、私たちがすぐに真実として打つ特定の命題ではありません。それは私たちの演技であり、言語ゲームの底にあります。(OC 204)」

「基本的な信念の非命題的性質は、認識論を悩ませてきた後退に止まっさせる:我々はもはや知識の基礎に不可解な自己正当化の命題を提起する必要はない。ヒンジを真の経験的命題にする際に、ピーター・ハッカーは、私たちの基本的な確実性は行動方法であり、「私たちを打つ特定の命題」ではないという画期的な洞察を認めずにしています。真として(OC 204)。ヴィトゲンシュタインがOCでやっていたのが、私たちの基本的な信念が真の経験的命題であると主張することだったら、なぜわざわざ?彼は、彼の前に哲学者が何世紀にもわたって言ってきたことを繰り返すだけで、解決不可能な無限の後退を嘆いています。ヴィトゲンシュタインが後退を止めたことを、なぜむしろ感謝しないのか?(「ハッカーのヴィトゲンシュタインを超えて」(2013年))

10年間の集中的な読書の中で(私が何度も指摘したように)哲学と心理学の間の分断がどれほど深いかは驚くべきことですが、私はWの「文法」とシステム1を構成する脳の自動反射機能とシステム2の言語機能への拡張との間に明白な関係を作る人を一人も見ることがありません。過去数十年間の意思決定理論など、心理学の様々な分野を支配してきた行動を理解するための2つのシステムフレームワークに精通している人にとって、「基本的な信念」(または私がB1と呼ぶ)がS1の継承された自動化された真のみの構造であり、真実または偽の文章への経験を持つ拡張(または私がB2と呼ぶ)は、非哲学者が「信念」と呼ぶものであることは明らかです。これは単なる用語学的なささいなこととしていくつか当たるかもしれませんが、私は10年間の合理性の論理的構造として以下の2つのシステムビューとその集計を使用し major、より高い秩序の行動、したがってWまたは哲学的または行動的な書き込みを理解する上で大きな進歩であると考えています。私の考えでは、S1による行動の自動性の根本的な重要性と、S2の表面的な崩壊に対するすべての社会的相互作用(例えば政治)の結果的な帰属を把握できないことは、産業文明の絶え間ない崩壊の原因と見なすことができる。基本的な生物学と心理学に対するほとんど普遍的な忘却は、政治を通じて世界の問題を解決する無限の裏りのない試みにつながりますが、S1のオートマチックを介して明らかにされた包括的なフィットネスの基本的な役割を理解した社会の抜本的な再構築だけが世界を救うチャンスがあります。S1への忘却は、サール「フェノメノロジカル幻想」、ピンカー「ブランクスレート」、トゥービーとコスミデス「標準社会科学モデル」によって呼ばれています。

OCはWのユニークな超ソクラテスの試練(ナレーター、対話者、コメンテーター)を満開で、彼の作品のどこよりも優れています。彼は20年代後半までに、言語が実際にどのように機能するかを見る唯一の方法は、最初の文章から言語の迷路で失われ、自分の道を見つけるわずかな希望がないことを認識しました。本書全体は、意味のある疑問を or W's Transitive持たない直感的な「知覚」の確実性(私のK1またはWの自動輸送)と行動する処分としての「知っている」という言葉の様々な使用を見て、思考、希望、裁判官、理解、想像、覚え、信じる、と同じように機

能します。私がWとSの様々なレビューで示唆したように、これら2つの使用は、行動(心、言語)を理解する上で非常に強力な思考フレームワークの近代的な2つのシステムに対応しており、これは(そして彼の他の作品)、私たちの速い、言語学的前の自動「精神状態」が私たちの後に進化した、遅い、言語的に考える処分心理学のための疑いのない公理学的基礎('ヒンジ')である方法を示す最初の重要な努力です。私が何度も述べたように、Wも私の知る限りでは他の誰もこれをはっきりと述べたことがない。間違いなく、OCを読む人のほとんどは、彼が何をしたのかははっきりとは分からず、それは彼の作品のいずれかを読んだ通常の結果です。

クリティ(OC)は、ヴィトゲンシュタインの死後18年後の1969年まで出版されておらず、最近になってようやく深刻な注目を集め始めました。サール(ハッカー、Wの相続人、そして最も有名な生きている哲学者sの一人と一緒に)には、それに関する言及はほとんどなく、Wに関する本全体をほとんど言及していない。しかし、ストロール、スヴェンソン、コリバ、マッギンなど、他の多くの本や記事の一部によって合理的に良い本がありますが、最高のことは、2004年の巻「ウィトゲンシュタインの確実性を理解する」がすべての教育を受けた人に必須であるダニエル・モヤル・シャーロック(DMS)のそれです。しかし、(私の見解では)Wのすべての分析は、私がここで試みる広範な進化的かつ現代的な科学的文脈に行動を置かなかつたことによって、彼のユニークで革命的な進歩を完全に把握するには及ばない。私は(行動、心理学、人類学、社会学、歴史、法律、政治、宗教、文学など)を扱う他の本と同様に、私たちは行動の議論で直ちに起こるので、ページごとの説明をページごとに与えることはありません。

以下の表は、合理性の論理的構造(高次思考の記述心理学)を要約して、これと行動の議論の枠組みを提供しています。

W、他の哲学者、心理学で多くの年月を読む中で、彼が最後の期間(そしてあまり明確でない方法で彼の以前の作品を通して)にレイアウトしたものは、現在進化心理学(EP)として知られているものの基礎であるか、またはあなたが好むならば、認知心理学、認知言語学、意図的性、より高い秩序や行動、あるいはより高次の動物行動の基礎であることが明らかになりました。悲しいことに、彼の作品は、それが書かれた日と同じくらい関連性の高い記述心理学の広大でユニークな教科書であることを認識する人はほとんどいません。彼は心理学やその他の行動科学や人文科学によってほとんど普遍的に無視されており、彼を理解している少数の人々でさえ、EPと認知錯覚に関する最新の研究(例えば、速くて遅い思考の2人の自分自身)に対する彼の期待の程度を認識していない。ジョン・サール(S)は彼をめったに指さないが、彼の作品はこれを見ていないようだが、Wの簡単な延長と見なすことができる。ベーカーとハッカー(B&H)、リード、ハレ、ホーウィッチ、スターン、ハット、モヤル・シャーロックなどのWアナリストは素晴らしいですが、彼が確かに属している現在の心理学の中心に彼を置くのを止める。また、一貫性があり正しい限り、より高い順序の行動のすべてのアカウントが同じ現象を

記述しており、簡単に相互に翻訳する必要があることを明確にする必要があります。したがって、最近のファッションナブルなテーマである「身体化された心」と「過激なエナビズム」は、Wの作品から直接、そしてWの作品に流れ込むべきです(そして、彼らはそうします)。

Wの重要性を完全に把握できなかったことは、確実性に関する限られた注意(OC)と彼の他の第3期の作品が最近まで受け取ったことによるものですが、進化的枠組みを受け入れると、多くの哲学者や他の人々が行動観がどれほど深く変化するかを理解できないことです。私は、この枠組みを、人類学、社会学、政治、法律、道徳、倫理、宗教、美学、文学、歴史を根拠とする合理性(LSR)と呼ぶDPHOTで使用される言語の研究を、より正確にDPHOTの記述心理学と呼んでいます。

進化論の「理論」は、19世紀末以前の、そして少なくとも半世紀前のダーウィンにとって、普通で合理的で知的な人物のための理論ではなくなりました。T.レックスとそれに関連するすべてのものをEPの絶え間ない働きを通じて、私たちの真の唯一の公理的背景に組み込まざるを得ません。一度この論理的な(心理的な)必要性を得ると、それは本当に最も明るく、最高でさえ、人間の生活のこの最も基本的な事実(カント、サールといくつかの他の帽子の先端を持つ)を把握していないように見えるのは本当に驚くべきことです。ちなみに、論理の方程式と私たちの公理心理学は、Wと人間性を理解するために不可欠です(ダニエレ・モヤール・シャーロック(DMS)として、しかし、他の誰も指摘しません)。

だから、私たちの共有された公共の経験(文化)のほとんどは、私たちの公理的なEPの真の唯一の延長となり、私たちの正気を脅かすことなく間違っていないことはできません。サッカーやブリトニー・スピアーズは、これらの概念、アイデア、イベントが発達し、誕生から始まり、私たちの多くを包含するためにあらゆる方向に広がる真の唯一のネットワークで無数の他の人に結びついているので、私または私たちの記憶と語彙から消えることはできません意識と記憶。DMSによってうまく説明され、サールによって彼自身のユニークな方法で解明されたカロリーは、世界と他の心の懐疑的な見解(そしてブランクスレートを含む他のナンセンスの山)が本当に足場を得ることができないということです。不本意な速い思考の公理とテスト可能な真または偽の命題ではない。

行動の空白のスレートビューの死んだ手はまだ大きく残っており、(教育を受けずに)すべての行動の基礎が無意識の、速いという事実気づかない、ゆっくりとした思考意識システム2の「第二の自己」のデフォルトですシステム1(サールの「フェノメノロジカル錯覚」)の公理的構造を考える。サールは、無意味さ(すなわち、S1の反射神経)から意味を持つ(すなわち、S2のCOS)の創造がそうではないので、意図的の多くの論理的特徴がフェノメノロジーの手の届かない点であることを指摘して、これを非常に洞察力のある最近の記事で要約した意識的に経験する。新世紀の哲学(PNC)p115-117と私のレビューを参照してください。

W/S(ヴィトゲンシュタイン/サール)を把握することが不可欠なので、まず、サール(S)、ヴィトゲンシュタイン(W)、ベイカーとハッカー(B&H)、リード、ハット、ダニエレ・モヤル・シャーロック(DMS)などの作品に例示されているように、哲学と現代心理学研究との関係についていくつかのコメントを提供します。私の単純な2つのシステムの用語と視点を把握するには、心理学の本にはない高次行動の明確な説明を提供するW / Sとこれらの天才についての他の本の私のレビューを見るのに役立ちます。サールがWの仕事で延長したと言うことは、必ずしもそれがW研究の直接的な結果であることを暗示することではなく(彼は明らかにウィトゲンテニアンではない)、むしろ人間の心理学が1つしかない(同じ理由で人間の心臓病が1つしかない)ので、行動を正確に記述する人はWが言ったことの何らかの変種または延長を与えなければならない。

しかし、SはWについて言及することはめったになく、それでもしばしば批判的な方法で言及しますが、私の見解では、彼の批判(みんなのように)はほとんど常にマークを逃し、彼はしばしば批判される多くの疑わしい主張をします。現在の文脈では、私はDMS、Colivaとハッカーの最近の批判が最も関連していることがわかります。それにもかかわらず、彼はW以来最高の最有力候補であり、私は彼がネット上で持っている100以上のビデオ講義をダウンロードすることをお勧めしますvideo。他の哲学の講義とは異なり、彼らは非常に面白いと有益であり、私は少なくとも2回それらすべてを聞いたことがあります。

人間の行動のすべての議論における主要なテーマは、S1の遺伝的にプログラムされたオートマチズム(私はWの「ヒンジ」と同一視する)をS2の機械的な言語的性質の低い行動から分離する必要性である。言い換えれば、より高次の行動のすべての研究は、高速なシステム1(S1)と遅いシステム2(S2)思考を離れていじめるための努力です - 例えば、知覚やその他の自動マチズム対性質。サールの作品全体は「私たち意図的性」を含む高次S2社会行動の驚くべき説明を提供し、後のWはS2がS1の真の唯一の無意識の公理に基づいている方法を示しています。S2の意識的な性質提案的思考(行動)に。

ウィトゲンシュタインは、心理学の混乱と不毛さは若い科学と呼ぶことによって説明されるべきではなく、哲学者は科学のやり方で質問し、答えたくだらな誘惑を受けていると有名に述べた。彼は、この傾向が形而上学の本当の源であり、哲学者を完全な暗闇に導くと指摘した。BBB p18を参照してください。もう一つの注目すべきコメントは、我々が「原因」に関係していない場合、心の活動は私たちの前に開いているということです - BB p6(1933)を参照してください。同様に、彼のナクラスの20,000ページは、問題は解決策を見つけるのではなく、予備的に見えるものを解決策として認識する問題であることを彼の有名な独裁を実証しました。彼のゼッテルp312-314を参照してください。そして、80年前、私たちは行動の説明しか与えることができないこと、そしてこれらは説明のヒントではない

ことを認識する必要があることを指摘しました(BBB p125)。この記事の他の場所での完全な引用を参照してください。

一般的なアイデア(例えば、ピンカーの本の1つのサブタイトル「思考のもの:人間性への窓としての言語」)、その言語(心、スピーチ)は、私たちの思考のウィンドウまたは何らかの翻訳、あるいは(FodorのLOT、Carruthers'ISAなど)は、それが翻訳である他の「思考言語」が存在する必要がある、何百もの継続的に再分析された言語の例、を実行して、Wによって拒否されました。心、そして彼のコーパス全体は、このアイデアの発展とみなすことができます。

多くは「思考の言語」の考えを解体しましたが、私の見解ではBBB p37のWに劣らず、「正しいが、その目的と類似していない絵の可能性を念頭に置けば、文と現実の間の影の補間はすべてのポイントを失います。今のところ、文自体はそのような影として役立つことができます。文は、それが表すものと少しも類似していない、ちょうどそのような絵です。だから、言語の問題は脳から直接、何が仲介者のための証拠としてカウントすることができますか?

Wは、生理学、心理学、計算のボトムアップアプローチが、言語ゲーム(LG)のトップダウン分析が何をしたかを明らかにすることができるという考えを拒絶しました。彼が指摘した困難は、常に私たちの目の前にあるものを理解し、曖昧さを捉えることです-すなわち、「これらの調査の最大の難しさは、曖昧さを表す方法を見つけることです」(LWPP1、347)。そして、スピーチ(すなわち、口腔筋収縮、私たちが相互作用する主な方法)は、心への窓ではなく、過去、現在、未来の行為に関する音響爆発(すなわち、後に進化したSecond Selfdの言語ゲーム(LG)を使用した私たちのスピーチ、想像、知り、意味、信じる、意図などの性質など、心そのものです。彼の後の第二と第三ピリオドのWの好きなトピックのいくつかは、高速で遅い思考(システム1と2)、言語の機能に対する私たちの主観的な「精神的な生活」の無関係、そして私用言語の不可能の間のメカニズムです。私たちの行動の基盤は、私たちの不本意な、システム1、速い思考、真の唯一の、精神状態 - 私たちの認識と記憶と不随意行為であり、進化的に後のLGは自発的であり、システム2、ゆっくりとした思考、テスト可能な真または偽の処分(そしてしばしば反事実)を想像し、考え、考え、知り、信じ、信じるなどです。彼は、「何も隠されていない」、すなわち、私たちの心理学全体とすべての哲学的な質問に対するすべての答えは、私たちの言語(私たちの人生)にあり、難しいのは答えを見つけるのではなく、私たちの目の前でいつものようにそれらを認識することです。

Wは科学の境界を立法しているのではなく、私たちの行動(主にスピーチ)が私たちの心理学の可能な限り明確な絵であるという事実を指摘しています。FMRI、PET、TCMS、iRNA、計算アナログ、AI、その他すべては、私たちの生来の公理心理学を記述し、拡張するための魅力的で強力な方法ですが、彼らができることは、私たちの行動の物理的根拠を提供し、私たちの言語ゲームを乗算し、S2を拡張する

ことだけです。「確信」の真の唯一の公理は、W(そして後のサールの)「岩盤」または「背景」であり、進化心理学(EP)と呼び、包括的なフィットネス(IF)のメカニズムによって進化し、動作する細菌の自動化された真のみの反応に追跡可能です。

IFやバークの素晴らしい「社会進化の原則」の人気イントロについては、最近のTriversの作品を参照してください。ノワクとウィルソンによる進化思想の最近の悲劇は、IFが自然選択による進化の主要なメカニズムであるという事実を決して影響を与える(私の『地球の社会的征服』(2012年)のレビューを参照)。

WがOCで発展するにつれて、私たちの共有された公共の経験(文化)のほとんどは、公理的EP(すなわち、S1ヒンジまたはS1H)の真の唯一の拡張(すなわち、S2ヒンジまたはS2H)となり、私たちの正気を脅かすことなく「間違っただけ」を見つけていくことができません。DMSによってうまく説明され、サールによって彼自身のユニークな方法で説明されたカロリーは、「現実」は不本意な「速い思考」の公理とテスト可能な提案の結果であるため、世界や他の心(および他のナンセンスの山)の懐疑的な見解が足がかりを得ることができないということです。

生来の真のみの公理Wが彼の作品を通して占いであることは明らかです。特にOCでは、現在の研究の中心にある速い思考またはシステム1と同等です(例えば、カーネマンを参照してください -- 「速くて遅く考える」が、彼も誰も50年以上前にフレームワークをレイアウトしていないWは、不本意で自動であり、知覚、感情、記憶の精神状態に対応しています。これらの「脳内反射神経」(脳内のエネルギー使用によって測定された場合、すべての脳内脳神経症の99%)と呼ぶかもしれません。私たちの遅いか反射的な、多かれ少なかれ「意識」(言語ゲームの別のネットワークに注意してください!)第二-自己脳活動は、能力や可能な行動を指す「ディスプレイイオン」または「傾斜」として特徴付けられるWが精神的な状態ではなく、意識的で意図的で提案的(真または偽)であり、発生の明確な時間を持っていません。

Wが指摘するように、廃棄語には少なくとも2つの基本的な用途があります。一つは、直接的な知覚と記憶、すなわち、すなわち、直接の知覚に起因する真のみの文章を指す独特の主に哲学的な使用(しかし、日常の使用に卒業する)です。私たちの生来の公理的なS1心理学(「私はこれらが私の手であることを知っている」)、もともとサール(しかし現在は因果的自己反射)によって因果的自己参照(CSR)と呼ばれていたか、Wの青と茶色の本(BBB)で反射的または非自動移動的であり、S2の使用は、行動することができ、私の家(私の家)に本当の方法ですなわち、厳格な意味で満足の条件(COS)を有し、CSR(BBBでは推移性と呼ばれる)ではありません。現代心理学とWとS(そしてここでの多く)が使用するものとのこれらの用語の方程式は私の考えですので、文学でそれを見つけることを期待しないでください(私の本、記事、レビュー onviXra.org、philpapers.org、researchgate.net、academia.edu

、researchgate.net, academia.eduアマゾン、libgen.io、b-ok.orgなど)。).

哲学者に触れられることはめったにありませんが、不本意な速い思考の調査は、心理学、経済学(例えば、カーネマンのノーベル賞)、および「認知錯覚」、「ブライミング」、「暗黙の認知」、「フレーミング」、「ヒューリスティック」、「バイアス」などの名前の他の分野に革命をもたらしています。もちろん、これらは言語ゲームでもあるので、これらの単語を使用する方法はますます少なくなります。そして、研究と議論は「純粋な」システム1から1と2の組み合わせ(Wが明らかにした標準ですが、もちろんこの用語を使用しませんでした)までさまざまですが、おそらくS2の処分思考の遅い考え方は、おそらく「認知モジュール」の複雑なS1ネットワークの多くを巻き込むことなく(意図的な行動)は起こり得ないので、「認知モジュール」、「推論エンジン」、「脳内反射」、「オートマトム」、「認知」、「認知」、「認知」、「認知」、「認知」、「認知」、「認知」の複雑なS1ネットワークの多くを含まないで発生することはできませんAxioms」、「背景」または「岩盤」(Wとサールが私たちのEPと呼ぶように)、筋肉を動かすためにS1を使用する必要があります(アクション)。

それはWの第3時代の作品と現代心理学の両方に続き、「意志」、「自己」と「意識」(サールのノートが意図的のすべての議論によって想定されているように)は、知覚で構成されたS1の公理的な真の要素です。記憶と反射神経、そして彼らの虚偽を(意味を与えること)を示す可能性(分かりにくい)ものはありません。Wが何度も明らかにしたように、彼らは判断の基礎であり、判断することはできません。私たちの心理学の真の唯一の公理は明らかではありません。彼が有名にOC p94で言ったように-"しかし、私はその正しさを満たすことによって世界の私の写真を得ませんでした:また、私はその正しさに満足しているので、私はそれを持っていません。-no:それは、私が真と偽を区別する継承された背景です。

文は、明確な満足条件(COS)、すなわち公共の真実の条件を持っているとき、思考を表現する(意味を持つ)。したがって、Wからのコメント:"私が言語で考えるとき、言葉の表現に加えて私の心を通る「意味」はありません:言語自体が思考の乗り物です。そして、私が言葉の有無にかかわらず考えるならば、他の可能な基準(COS)がないので、私が言うことは何であれ(正直なところ)考えです。したがって、Wの格言(Wの上のバッドの素敵な本のp132)-「願いと充実が出会い、すべての形而上学的なものと同様に、思考と現実の調和は言語の文法に見られるのです。そして、ここで、Wの「文法」は通常EPまたはLSR(DPHOT-表を参照)として翻訳することができ、理論化と一般化に対する彼の頻繁な警告にもかかわらず(彼はしばしばサールによって誤って批判される)、これは(DMSも指摘するように)高次記述心理学(哲学)の広範な特徴であることに注意してください。

Wは意味を構成する精神状態がないことを正しく、サールは「スピーカーの意味。」を意味するac tを特徴付ける一般的な方法があると指摘しています。満足の条件

に満足の状態を課す」 - 真実または偽りである可能性のある文脈でCOSを表現する整った文を話すか書くことを意味し、これは精神状態ではなく行為であり、すなわち、新世紀p193の哲学のサールが指摘するように、心と世界の基本的な意図的な関係は満足の状態と関係がある。そして、命題は世界と意図的な関係に立つことができるものであり、それらの意図的な関係は常に満足の状態を決定し、提案は満足の状態を決定するのに十分なものとして定義されているので、すべての意図的な性は命題の問題であることが1判明しました。他。したがって、PI p217のWによる有名なコメントは、「もし神が私たちの心を見ていたら、私たちが話していた人を見ることができなかつたでしょう」そして、表現の問題全体が「それは彼だ」と「画像にその解釈を与えるものは、それがあつたパスである」に含まれている、またはSがそのCOS.したがってWの総和(p140 Budd)に言うように、彼は常にそれ以上の意味を持たずに、彼は何が起つたのかという願いを呼び出します。満たされて全く起つることはできません。そして、いくつかのイベントが私の願いを止めるという事実は、それがそれを満たすことを意味するものではありません。私の願いが満たされていたら、おそらく私は満足すべきではなかつた。私はそれを得る前に私が何を待っているのか知っていますか?話すことを学んだなら、私は知っている」

Wの繰り返しのテーマの1つは、現在、心の理論、または私が好むように、機関の理解(UA)と呼ばれています。実験でUA1とUA2(すなわち、S1とS2のUA)を慎重に分析しているイアン・アパリーは、UA1をファンタジーとして特徴づけているダニエル・ハットの作品に気づいた(つまり、UA1に「理論」も表現も関与できない)。しかし、他の心理学者と同様に、ApperlyはWがこの80年前の基礎を築いたという考えを持っていません。認知錯覚、暗黙の認知、自動化、高次思考に関する急成長する文献の中核implicit cognition, は、Wと互換性があり、簡単に推測可能であるというのは、簡単に防御可能な見解です。上記のほとんどは何十年も(そしてWの教えの一部の場合には世紀の3/4でさえ)多くの人に知られているにもかかわらず、私は哲学や他のbehavi口頭科学のテキストで十分な議論に近づいているものをほとんど見たことがありませんoral science texts,。

半世紀の忘却の後、意識の性質は今や行動科学と哲学の中で最もホットな話題です。1930年代(青と茶色の本)から1951年までのルートヴィヒ・ヴィトゲンシュタインの先駆的な作品から始まり、50年代から後継者のサール、モヤール・シャーロック、リード、ハッカー、スターン、ホーウィッチ、ウィンチ、フィンケルシュタインなどによって現在まで、私は次の作品を作成しました。この研究を進めるヒューリスティックとして表を作成する。行は様々な側面や研究方法を示し、列は、意識の論理構造(LSC)の2つのシステム(二重プロセス)を含む不随意のプロセスと自発的行動を示し、論理構造とも見なすことができます。行動の合理性(LSR-サール)、人格(LsB)、マインド(LSM)、言語(LSL)、現実(LSOR)、現実(LSOR)、意図的な性(LSI)の-古典的な哲学用語、意識の記述心理学(DPC)、記述的な思考心理学(DPT)-以上、思考の記述心理学の言語(LDPT)、ここで紹介された用語と私の他の最近の著

作.

このテーブルのアイデアはウィトゲンシュタインに由来し、サールによるはるかに単純なテーブルであり、P.M.Sハッカーによる人間の性質に関する3つの最近の本の広範なテーブルとグラフと関連しています。最後の9行は、主にジョナサン・セント・B・T・エヴァンスと同僚が自分で改訂した意思決定研究から来ています。

システム1は不本意で、反射的または自動化された「ルール」R1であり、思考(認知)はギャップがなく、自発的または審議的な「ルール」R2であり、意欲(Volition)は3つのギャップを有する(サール参照)。

私は、サールの「満足の条件に満足の条件を押し付ける」を「筋肉を動かすことによって精神状態を世界に関連付ける」に変更することで、行動をより明確に記述できることを示唆しています。話し、書き込み、そして彼の「フィットの世界の方向への心describe behavior more clearly」と「世界からフィットする方向を気にする」による「原因は心の中に由来する」と「原因は世界に由来する」S1は、S2がコンテンツを持っている間、上向きの因果関係(世界から生じる)と満足のない(表現や情報を欠いている)下向きの因果関係(世界への心)です。私はこの表の用語を採用しました。

言語ゲームの分析から

	傾斜	感情	メモリ	知覚	欲望	PI**	IA***	アクション/語
原因は****	世界	世界	世界	世界	マイン ド	マインド	マインド	マイン ド
に変更を加える* ***	なし	マインド	マインド	マインド	なし	世界	世界	世界
因果関係自己再帰	違います	うん	うん	うん	違います	うん	うん	うん
真または偽（テスト可能）	うん	真実のみ	真実のみ	真実のみ	うん	うん	うん	うん
公開テスト (COS)	うん	はい/いいえ	はい/いいえ	違います	はい/いいえ	うん	違います	うん
記精神状態の説明を提供します	違います	うん	うん	うん	違います	違います	はい/いいえ	うん
進化的優先事項	5	4	2、3	1	5	3	2	2
コンテンツを選択できます	うん	違います	違います	違います	違います	うん	うん	うん
自発的スタート	はい/いいえ	違います	うん	違います	はい/いいえ	うん	うん	うん
認知システム *****	2	1	2/1	1	2/1	2	1	2
強さの変化	違います	うん	うん	うん	うん	違います	違います	違います
正確な期間	違います	うん	うん	うん	違います	違います	うん	うん
時と場所 ■■■■■■■■■■ そこにそして 現在の時刻と場所	そこにそして	現在の時刻と場所	現在の時刻と場所	現在の時刻と場所	そこにそして	そこにそして	現在の時刻と場所	現在の時刻と場所
特別な品質	違います	うん	違います	うん	違います	違います	違います	違います
本文にローカライズ	違います	違います	違います	うん	違います	違います	違います	うん

身体表現	うん	うん	違います	違います	うん	うん	うん	うん
自己矛盾	違います	うん	違います	違います	うん	違います	違います	違います
自己が必要	うん	はい/いいえ	違います	違います	うん	違います	違います	違います
言語 必須	うん	違います	違います	違います	違います	違います	違います	はい/いいえ

意思決定研究から

	処分*	感情	メモリ	知覚	欲望	PI**	IA***	アクション/ 単語
サブリミナル効果	いいえ	はい/いいえ	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ	はい/いいえ
協会/ ルールベース	ルールベース	協会/ ルールベース	協会	協会	協会/ ルールベース	ルールベース	ルールベース	ルールベース
コンテキスト依存/ 抽象	抽象	コンテキスト依存/ 抽象	コンテキスト依存	コンテキスト依存	コンテキスト依存/ 抽象	抽象	コンテキスト依存/ 抽象	コンテキスト依存/ 抽象
シリアル/パラレル	シリーズで	シリアル/ パラレル	パラレル	パラレル	シリアル/ パラレル	シリーズで	シリーズで	シリーズで
ヒューリスティック または分析	分析的	ヒューリスティック または分析	ヒューリスティック	ヒューリスティック	ヒューリスティック または分析	分析的	分析的	分析的
作業メモリが必要	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	はい
一般的な知能依存	はい	いいえ	いいえ	いいえ	はい/いいえ	はい	はい	はい
認知負荷 それを抑制する	はい	はい/いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	はい
覚刺激 促進または 阻害	阻害	阻害 促進する	促進する	促進する	阻害	阻害	阻害	阻害

S2の満足度の公共条件は、多くの場合、Searleと他の人によってCOS、表現、真実作成者または意味(または自分でCOS2)と呼ばれ、S1の自動結果は他の人(または自分でCOS1)のプレゼンテーションとして指定されます。

*別名の傾斜、機能、好み、表現、可能なアクションなど。

**サールの以前の意図

***サールの意図

****サールの適合方向

*****サールの因果の方向

***** (精神状態のインスタンス化-自身の原因または実現)。サールは以前、この因果関係を自己参照と呼んでいました。

***** Tversky / Kahneman / Frederick / Evans / Stanovichが定義した認知システム。

***** 今、そこそこ

これは、ピーターハッカーの人間の性質上の最近の3巻の様々なテーブルやチャートとこれを比較することが興味深いです。特定の文脈における言語の可能な用途(意味、真実主義者、サティアファクトの条件)を記述した後、私たちはその関心を使い果たし、説明(哲学)の試みは真実から遠ざかるというヴィトゲンシュタインの発見を常に念頭に置くべきです。彼は、哲学的な問題が1つしかなく、不適切な文脈で文章(言語ゲーム)を使用するだけであり、したがって正しい文脈を示す唯一の解決策であることを示しました。

テーブルの説明

システム1(すなわち、感情、記憶、知覚、反射神経)は、意識に存在する脳の一部が自動化され、一般的に500msec未満で起こるが、システム2は500msec以上を必要とする意識的な審議(S2D-my用語)に代表されるゆっくりとした審議行動を行う能力であるが、頻繁に繰り返されるS2行動も(自動化された)(S2-a-my-用語集)になる可能性がある(昏睡状態から睡眠の段階から完全な意識への意識のグラデーションがあります。メモリは、システム2の短期記憶(ワーキングメモリ)と-システム1の長期記憶を含む。ポリションの場合、通常は、真実や偽りではなく、成功しているかそうではないと言います。S1は、私たちの知覚経験の記述以来、因果的に自己反射的です - 意識に対する私たちの感覚の表現は、私たちが知覚またはCOS1と呼んでS2の表現または公共COS2と区別することを好む世界を記述するのと同じ言葉(同じCOS - サールとして)でしか記述できません。

もちろん、様々な行と列は論理的、心理的に接続されています。例えば、真または偽の行の感情、記憶、知覚は真のみの行になります。精神状態を記述し、認知システム1に属し、一般的に自発的に開始されず、因果関係なく自己反射的であり、世界で起こり、心の変化を引き起こし、正確な持続時間を有し、強度の変化を引き起こし、正確な持続時間を有し、強度の変化を引き起こし、ここで起こり、ここで起こり、一般的に特別な品質を持ち、言語を必要とせず、一般的な知性とワーキングメモリから独立している、また、公共の満足の条件などはごく一度もご利用できません。

単語(概念、言語ゲーム)は、脳の実際の複雑な機能(行動)、つまり、文脈の組み合わせ爆発(文章と世界)、そして「脳状態」(「精神状態」または「赤いリングを見る」)に対応できる何十億ものニューロンの活性化パターン)の無限のバリエーションがあり、これがより高次の行動を「法律のシステム」に「減らす」ことができ

ない理由の1つです。可能な文脈 -したがって、ウィトゲンシュタインの理論に対する警告。そして、何が「還元」と「法律」と「システム」としてカウントされます(例えば、ナンシー・カートライトを参照)。これは、サール、DMS、ハッカー、Wなどによって何度も説明されている低レベルの説明に高いレベルの説明の非還元性の特別なケースです。

約100万年前、霊長類は喉の筋肉を使って複雑な一連の騒音(すなわち原始的なスピーチ)を作り、現在の出来事(知覚、記憶、反射的な行動)を一部のプライマリまたはプリミティブ言語ゲーム(PLG)と表現する能力を進化させました。システム1は、高速、自動化された、皮下、非表現、因果的な自己反射的、自動輸送性、情報なし、真の唯一の「精神状態」で構成され、時間が経つにつれて、イベントの空間と時間(過去と未来、およびしばしば仮定、反事実、条件付き、または架空の好み)の変位を記述するさらなる能力を持つ高皮質中心S2で進化しました。システム2の洗練された言語ゲーム(SLG)は遅く、皮質、意識的、含む情報、推移的な(満足の公共条件を持つ - サールの真実主義者の用語、または私はプライベートS1とパブリックS2のためにCOS1とCOS2に分ける意味)、表現(私は再びS1表現とS2のためのR2に分割する)、真または偽の命題思考、すべてのS2機能は正確な時間と能力と精神状態ではありません。好みは直感、傾向、自動腫瘍学的ルール、行動、能力、認知モジュール、性格特性、テンプレート、推論エンジン、傾斜、性質、感情(サールによって動揺した欲望として記述される)、提案態度(世界の出来事を参照するために使用され、提案しない場合にのみ正しい)、鑑定、能力、仮説です。感情の中には、S2の性質(W - '心理学哲学に関する解説'V148)の結果が徐々に発展し、変化しているものもありますが、他の感情は典型的なS1です。「私は信じています」「彼は愛している」「彼らは考える」は、通常、時空に置かれている可能性のある公共の行為の記述です。私自身についての私の一人称声明は真の唯一の(嘘を除く)S1であり、他の人に関する第三者の声明は真実または偽りであるが、すなわちS2(ジョンストン'ウィトゲンシュタイン:内面を再考する』とバッド'ウィトゲンシュタインの心理学哲学』の私のレビューを参照)。

知覚、反射的行動、記憶に反する意図的な状態のクラスとしての「好み」は、1930年代にウィトゲンシュタイン(W)によって最初に明確に記述され、「傾向」または「性質」と呼ばれていました。彼らはラッセル以来、一般的に「命題的態度」と呼ばれていますが、これは誤った、または誤解を招くフレーズであり、意図し、知り、記憶するなど、しばしば提案的でも態度でもありません。好みは本質的な、観察者の独立した公共の表現である(システム1の表示またはシステム2への表現とは対照的に - サール意識と言語p53)。彼らは時間や空間に置き換えられる潜在的な行為であり、進化的により原始的なS1知覚記憶と反射的な行動は常に今ここにあります。これは、システム2を特徴づける一つの方法です - システム1の後に脊椎動物心理学の第二の大きな進歩 - イベントを表現する(州の公共COSのための)イベントを表現し、それらを別の場所や時間に起こっていると考える能力(サールの第3の反事実想像力の教員は認知と意志を補完する)。S1の「思考」(私のT1-すなわち、システム1の自動脳プロセスを指す「思考」の使用)は、S1 --Searle-- フ

イル問題1:45-66(1991)の潜在的または無意識の精神状態である。

知覚、記憶および反射的な(自動)行動は、プライマリLG(例えば、私は犬を見る)によって記述することができ、通常の場合、彼らは真の唯一である可能性があります-すなわち、WとDMSが記述するように動物の反射体である可能性があります。処分は、二次LG(SLGの-例えば、私は犬を見ていると信じています)と説明することができ、私自身の場合でさえ、私のために行動する必要があります(つまり、私が行動するか、何らかの出来事が起こるまで私が何を感じているかを知るにはどうすればよいですか?性質は、話されたり書かれたりして他の方法で行動すると行動となり、これらのアイデアはすべてヴィトゲンシュタイン(1930年代半ば)によるものであり、行動主義(ヒンティッカ&ヒンティッカ1981年、サール、ハッカー、ハットなど)であることに注意してください。ヴィトゲンシュタインは進化心理学の創始者と見なされ、彼の作品は、私たちの公理的システム1心理学の機能とシステム2との相互作用のユニークな調査とみなすことができます。ヴィトゲンシュタインは、30年代初頭に青と茶色の本の中で高次思考の記述心理学の基礎を築いた後、ジョン・サールによって拡張され、彼の古典的な著書『合理性』(2001)で私のテーブルのシンプルなバージョンを作りました。この表は、1911年の彼の最初のコメントから開発され、彼の最後の作品「確実性」(OC)(1950-51年に書かれた)で美しくレイアウトされた進化心理学の公理的構造のWの調査に拡大しています。OCは、行動や認識論、オントロジー(おそらく意味論や実用論と同じ)、認知言語学または高次思考の基礎石であり、私の見解では(例えば、DMSによって共有される)哲学(記述心理学)、したがって行動の研究において最も重要な研究である。知覚、記憶、反射的な行動と感情は原始的な部分的に皮質下の不随意精神状態であり、心は自動的に世界に適合する(提示する)(因果的自己反射的である--サールである)、制御不可能な合理性の疑いのない、真の唯一の公理的基礎である。

好み、欲望、意図は、心が世界に合わせようとするSLGの「自主的能力」で記述できる、ゆっくりとした思考意識の自発的能力の記述です。行動主義と私たちのデフォルトの記述心理学(哲学)の他のすべての混乱は、S1が機能しているのを見ることができず、すべての行動をS2の意識的な意図的な行動(現象学的錯覚—TPI-Searle)として記述することができないからです。Wはこれを理解し、彼の作品を通して行動する言語(心)の何百もの例で比類のない明確さでそれを説明しました。理由は記憶にアクセスするので、私たちは意識的に明らかに見えるが、しばしば間違った理由を使って行動を説明します(二人の自己またはシステムまたは現在の研究のプロセス)。信念やその他の性質は、世界の事実(心とフィットの世界の方向)に一致させようとする思考として記述することができますが、ヴォリションは行動する意図(事前の意図-PI、または行動の意図, e.g., *Consciousness and Language* p145, 190).- IA - Searle)に加えて、世界を思考に合わせようとする行為です。

時には、信念やその他の処分には到達する推論にギャップがあります。処分の言葉は、精神状態を記述しているように見える名詞として使用することができます('私

の考えは.."), または能力を記述する動詞または形容詞として (彼らが行動するか、行動するかもしれないエージェント - '私はそれを考える..') と呼ばれる誤った "命題態度"。認識は記憶となり、私たちの先天的なプログラム(認知モジュール、テンプレート、S1の推論エンジン)は、これらを使用して性質を生み出します- (信じる、知っている、理解する、思考など)、言語(思考、心)などの実際または潜在的な公共の行為(言語、嗜好、能力、S2の表現)とVolitionなど、言語(概念、思考)は存在しません。私的な精神状態" 思考や意欲 (すなわち、私的な言語、思考や心など)高等動物は考え、行動し、その程度まで彼らは公共の心理学を持っています。

PERCEPTIONS:(Xは真実です): 聞く, 参照, 匂い, 痛み, タッチ, 温度

MEMORIES:記憶する(Xは本当だった)

PREFERENCES、INCLINATIONS、ディスタリポジション:(Xは真になるかもしれませんが):

クラス1:PROPOSITIONAL(真または偽)を信じる公の行為、判断、思考、表現、理解、選択、決定、優先、解釈、知り合い(スキルと能力を含む)、出席(学習)、経験、意味、記憶、私は、考え、望む、元ペッキング、願い、望む、特別なクラスを望む、(側面として)。

クラス2:デカリングモード-(まるで、条件付き、仮定、架空のもの)- 夢を見て、想像し、嘘をつく、予測する、疑う。

クラス3:感情:愛する、憎む、恐れる、悲しみ、喜び、嫉妬、うつ病。彼らの機能は、迅速な行動のための知覚と記憶の情報処理を容易にすることによって、包括的なフィットネス(期待最大ユーティリティ)を増加させるために好みを調節することです。怒りや恐怖などのS1感情と、愛、憎しみ、嫌悪感、怒りなどのS2の間には、いくつかの分離があります。わたしたちは、彼らを強く感じたり、望みを演じたりしたと考えることができます。

欲望:(私はXが真実であってほしい-私は私の考えに合わせて世界を長くしたい): 憧れ、期待し、期待し、待っている、必要とし、必要とし、行う義務があります。

意図:(私はX Trueを作ります)意図。

行動:(私はX Trueを作っています): 演技、話す、読む、書く、計算、説得、ショー、実証、説得力のある、試行、試み、笑う、演奏、食べる、飲む、泣く、主張(記述、教育、予測、報告)、有望な、作るか、地図を作るか、または使用、書籍、図面、コンピュータプログラム - これらは公共および自発的であり、他の人に情報を転送します。(フェノメノ錯覚(TPI)、ブランクスレート(BS)または標準社会科学モデル(SSSM))。

言葉は、私たちの生活の中で様々な機能を持つ行動を表現し、オブジェクトの名前ではなく、単一のタイプのイベントの名前でもありません。人間の社会的相互作用は、社会心理学のascriptやスキーマ(推論エンジンに編成されたニューロンのグループ)とほぼ同等の認知モジュールによって支配され、知覚と記憶を持つ、意図と行動につながる好みの形成につながります。意図的または意図的な心理学は、これらすべてのプロセスまたは行動につながる唯一の好みであると取ることができ、より広い意味では、神経生理学、神経化学および神経遺伝学を含む場合の認知心理学または認知神経科学の対象である。進化心理学は、先行する全ての機能の研究、または行動を生み出すモジュールの動作の研究とみなされ、その後、進化、開発、および好み、意図、行動を伴う個々の行動において共に広がっています。私たちの心理学の公理(アルゴリズムまたは認知モジュール)は私たちの遺伝子にあるので、私たちは理解を深めclear、それらがどのように機能するかを明確に説明し、生物学、心理学、哲学(記述心理学)、数学、論理、物理学、コンピュータプログラムを介してそれらを拡張し、より速く、より効率的にすることができます。Hajek(2003)は、条件付き確率として処分の分析を与えます whichはロット(1999)、Spohnなどによってアルゴリズム化されています。

意図的性(認知心理学または進化心理学)は、意識、意志、自己を生み出し、必要とする認知モジュールに生まれつきプログラムされた行動の様々な側面で構成され、通常の人間の成人では、知覚と記憶を除くほとんどすべてが純粋であり、公共の行為(例えば、言語)を必要とし、私たちの包括的なフィットネス(最大期待されるユーティリティまたはベイズの有用性の最大化)を高めるために関係を結びます。しかし、ベイズ主義は厳しいアンダーディシエートのために非常に疑わしいです - すなわち、それは何かを「説明」することができ、したがって何もありません。これは、支配と相互利他主義を介して起こり、多くの場合、私はS1とS2のためにDIRA1とDIRA2に分け、満足の条件(Searle)に満足の条件を課す欲望独立した行動理由(サール)をもたらす - (すなわち、公共の行為(筋肉の動き)、数学の生産、言語、芸術、音楽、スポーツなどを介して世界に思考を関連付けます。この基本は、1930年代から1951年までの私たちの最大の自然心理学者ルートヴィヒ・ヴィトゲンシュタインによって理解されましたが、1911年にまでさかのぼり、多くの人が洗練していましたが、とりわけ1960年代に始まったジョン・サールによって考え出されました。「心理現象の一般的な木。正確さではなく、全体の視点で努力しています」RPP Vol 1p895、cf, Z p464。意図的性(例えば、私たちの言語ゲーム)の多くは学位を認めています。Wが指摘したように、傾斜は時には意識的で審議的である。すべてのテンプレート(関数、概念、言語ゲーム)は、いくつかの文脈でファジーエッジを持っています。

少なくとも2つのタイプの思考(すなわち、2つの言語ゲームまたは性質verbの「思考」)を使用する方法があります- 部分的な意識(W)を意識し、合理的にすることなく非合理的で、S1とS2の速く、遅い思考として記述されています。これらは単な

る現象ではなく言語ゲームと見なすのに便利です(W RPP Vol2 p129)。精神現象(私たちの主観的または内部の「経験」)はエピフェノメナルであり、基準が不足しているため、自分自身にとっても情報が不足しているため、コミュニケーション、思考、心の役割を果たしません。すべての性質がテストを欠いているように考えることは、(S1の認識とは異なり)精神状態ではなく、スピーチ、書き込み、または他の筋肉収縮のような公共の行為や出来事になるまで情報を含まない。私たちの認識や記憶は、公共の行動に現れたときにのみ情報(意味-すなわち、公共のCOS)を持つことができます。

メモリと知覚は、モジュールが行動する際に心理的に効果的になる性質に統合されます。言語を発達させることは、高度な人間が行動(腕と脚の筋肉の大きな収縮)のために言葉(口腔または手動筋肉の細かい収縮)を置き換える先天的な能力を明らかにすることを意味します。TOM(心の理論)は、S1とS2のそのような機能のために、機関のUA理解(私の用語)とUA1とUA2と呼ばれる方がはるかに優れています - また、進化心理学や意図的性と呼ぶことができます - 意識、自己、思考の先天的な遺伝的にプログラムされた生産は、意図につながる思考と筋肉を収縮させることによって行動に導く思考と知っている性質です。したがって、「提案態度」は、通常の直観的な審議S2D(すなわち、システム2の遅い審議機能)または自動化されたS2A(すなわち、頻繁に実施されるシステム2の音声および行動機能の自動高速機能への変換)の誤った用語である。神経生理学を研究することによって思考、感情などを理解するための認知科学の努力は、「心」(思考、言語)がすでに完全なパブリックビュー(W)にあるので、私たちがすでに知っているよりも(思考、言語)の心の仕組みについて何も教えてくれないことがわかります。神経生理学、生化学、遺伝学、量子力学、または弦理論が隠されている「現象」は、テーブルが物理学と化学の法則を昼食にする原子で構成されているという事実と同じくらい、私たちの社会生活とは無関係です。Wが有名に言ったように「何も隠されていない」。心に関する関心(思考、言語)に関する関心のすべては、我々は言語の働きだけを注意深く調べる場合は、見て開いています。言語(心、潜在的な行動に結び付いた公共のスピーチ)は、社会的相互作用を促進し、資源、生存、再生の収集を促進するために進化しました。その文法(すなわち、進化心理学、意図的性)は自動的に機能し、分析しようとするとき非常に混乱します。これは、ハッカー、DMSおよび他の多くの人によって頻繁に説明されています。

Wが数え切れないほどの注意深く述べた例で述べたように、単語と文は文脈に応じて複数の用途を持っています。私は信じて、私は食べると私は信じているように深く異なる役割を持っていると信じているか、私は信じているし、彼は信じています。「私は信じている」のような傾斜動詞の現在時制の最初の人の使用は、通常、知識(すなわち、S2)に基づいて私の可能性のある行為を予測する私の能力を記述しますが、また、(哲学的文脈では)私の精神状態を記述し、知識や情報に基づいていないように見えます(WとハットとMyinによる本のレビューを参照してください)。以前のS1の意味では、それは真実を記述していないが、それを言う行

為に当てはまる-すなわち、「雨が降っていると信じている」とそれ自体が真実になる。つまり、最初の人の現在の時制で使用される性質動詞は、因果的に自己反射的であり得る-彼らは自分自身をインスタンス化するが、彼らはテスト可能ではない(すなわち、TまたはFではなく、S2ではない)。しかし、過去または将来の時制または第三者の使用-「私は信じていた」または「彼は信じている」または「彼は信じている」または「彼は信じる」は、彼らが検証可能になるか、または可能になる可能性のある公共の行為を記述するように、真実または偽りの情報によって含まれているか、または解決することができます。同様に、「雨が降っていると思う」は、私にとっても、その後の行動以外に情報はありますが、「雨が降ると信じています」または「彼は雨が降っていると思うでしょう」は、情報(または誤った情報)を伝えようとする時空に置き換えられる潜在的に検証可能な公共の行為です。

事前意図なしで話される非反射または非合理的な(自動)単語(私はS2Aと呼ぶ-すなわち、S2Dは練習によって自動化されている)は、W&によって行為として単語と呼ばれ、2000年の哲学心理学の論文でダニエレ・モヤル・シャーロックによって呼ばれています。

多くのいわゆる傾向/性質/好み/傾向/能力/能力は、-システム1(トヴェルスキー・カーネマン)の非命題(非反射的)態度(機能または能力を呼び出すのにはるかに有用)です。事前の意図はサールによってメンタル・ステートであり、したがってS1であると述べられているが、我々の通常の言語では、私たちの以前の意図はS2の意識的な審議であるので、再び私はPI1とPI2を分離しなければならないと思う。知覚、記憶、タイプ2の性質(例えば、いくつかの感情)および多くのタイプ1の性質は、より良いS1の反射神経と呼ばれ、ウィトゲンシュタインの進化心理学(ウィトゲンシュタインの後のモヤアル・シャーロック)のヒンジ(公理、アルゴリズム)のヒンジ(公理、アルゴリズム)の自動、非反射、非提案および非アティトゥーショナル機能である。

almost everything free online私が高次思考の記述心理学を理解するために不可欠な読書と考えるWのアイデアの主要な指数のいくつかは、コリバ、ハット、DMS、スターン、ホーウィッチ、フィンケルシュタイン、リードで、今では多くの学者と同様に、academia.edu、philpapers.org、researchgate.net、philpapers.org、researchgate.net、その他のサイトでオンラインで彼らの仕事のほとんどを無料で投稿しています。急流、[p2p](http://p2p.libgen.io)、libgen.io、b-ok.orgなどを介して。ペーカー&ハッカーは、彼らの多くの共同作品とハッカーの個人的なページに見られます。故ペーカーは、「ゴードン・ペーカーのヴィトゲンシュタインの後期解釈」が行動の学生のために読まなければならないハッカーによって反論された奇妙な精神分析的でむしろニヒリスティックな解釈で船外に出た。

,カーラザーズ(C)、デネット、チャーチランズ(サイエンティズム、計算主義また

は唯物論的還元主義の現在の指導者の3人がS1の因果関係の枠組みの観点からS2の高次思考を説明しようとする試みによる無限の形而上学的還元主義漫画の見解を見つけることができます。サイエンティズムは、30年代にBBBのWから始まり、「哲学者は常に目の前で科学の方法を見て、科学のやり方で質問し、答えたいと思う誘惑を受けています。この傾向は形而上学の本当の源であり、哲学者を完全な暗闇に導く」とサール、リード、ハット、ハッカーとそれ以来無数の他の人たちによって。因果関係でS2を「説明」(実際にWが明らかにしたように記述するだけの)の試みは支離滅裂であり、S1にとっても非常に複雑であり、「因果関係」の非常に多様な言語ゲームを適用できることは明らかではありません(何度も指摘されているように) - 物理学や化学の応用さえも可變的で、しばしばあいまいです(重力や棄権層やホルモン、風、またはリンゴを落とした風やそれらのすべてはいっつまり、終わったのですか?しかし、Wが言ったように - 「今、それが私たちが関係している因果関係でなければ、心の活動は私たちの前にあります。

しかし、私は、彼の見解ははるかに微妙で、しばしば彼の裁判を未解決のままにしないよりも、通常はsta tedのように、Wがどちらかの側を取ると見るのは大きな間違いであることを示唆しています。W、Sなどの私のレビューから始め、その後、読み取り、ハット、ホーウィッチ、コリバ、ハッカー、グロック、DMS、スターンなど、因果関係の文献と科学哲学を掘り下げる前に、可能な限り多くを勉強することが役に立つかもしれません。

Wなどの努力にもかかわらず、ほとんどの哲学者は言語ゲームの繊細さをほとんど把握していないように見えます(例えば、「私は何を意味するか知っている」と「私はそれが何時であるかを知っている」という劇的に異なる使用)、または処分の性質多くの人(CDCなど)は、私言語、内臓的なスピーチの内省、計算論などの概念に基づいて考え、Wは1世紀の3/4前に休息を取りました。

私は本を読む前に、インデックスと文献目録に行き、誰を引用しているかを確認します。多くの場合、著者の最も顕著な成果は、私がここで引用するすべての著者の完全またはほぼ完全な省略です。Wは簡単に約1つの新しい本と主にまたは全体に毎月彼に捧げられた記事の数十で最も広く議論現代哲学者です。彼は彼自身のジャーナル「哲学的調査」を持っており、私は彼の書誌が次のトップ4または5の哲学者のそれを超えていると予想しています。サールはおそらく現代人の間で次の人です(そして、YouTube、Vimeo、大学のサイトなどで多くの講義を持つ唯一のものは、他のほとんどの哲学の講義とは異なり、聞いて喜びです)、ハット、コリバ、DMS、ハッカー、Readなどは、数十冊の書籍と何百もの記事、トーク、レビューで非常に顕著です。しかし、CDCや他のメタドクターは、彼らと彼らの仕事を非常に重要と考える何千人もの人々を無視します。

その結果、強力なW/Sフレームワーク(as 思考における現代研究と同様に)は完全に存在せず、それが取り除いたすべての混乱が豊富です。あなたが私のレビューと

作品自体を読むなら、うまくいけば、このアリーナでのほとんどの書き込みのあなたの見解は彼らのものとは全く異なるかもしれませんが **from theirs**. しかし、**W**が主張したように、人は自分自身を通して例を働かぬ。しばしば指摘されるように、彼の超ソクラテスの試作は治療的意図を持っていた。

内省と私用言語に対する**W**の決定的な議論は、私の他のレビューで注目されており、非常によく知られています。基本的には、パイと同じくらい単純です- **A**と**B**を区別するためのテストが必要であり、テストは外部と公開のみのテストです。彼は有名に「箱の中のカブトムシ」でこれを描いた。私たち全員が開けない箱やX線撮影などがあり、「カブトムシ」の中にあるものと呼び出すと、「カブトムシ」は言語に何の役割も持たず、すべての箱に異なるものが含まれているか、空になることさえあります。だから、私だけが知ることができる私言語はなく、「内なるスピーチ」の内省もありません。**X**が公に実証できない場合、それは私たちの言語の単語であってはなりません。これは、カーラターの**ISA**心の理論だけでなく、彼が参照する他のすべての「内なる感覚」理論を撃墜します。私は、内省の概念と処分言語('提案的態度')の機能の**W**の解体と、バッド、ジョンストン、サールの本のいくつかのレビューで説明しました。スターンの「ヴィトゲンシュタインの哲学的調査」(2004年)を参照して、私言語の素晴らしい説明については、**Read**らによるすべてを参照してください。

CDCは「より高い自己」の存在を前提としているため、「**I**」の使用を避けています。しかし、書き、読書、そしてすべての言語と概念(言語ゲーム)の行為は、自己、意識、意志を前提としているので、そのようなアカウントは何の価値もなく(そして誰の日常生活にも影響を与えない)人生の自己矛盾した漫画です。**W/S**などは長い間、最初の人の視点は理解しやすい、または**3**人目の人に還元可能ではないことを指摘してきましたが、一貫性の欠如は人生の漫画の見解にとって問題ではありません。同様に、脳機能や行動の記述を「計算」「情報処理」などと共に、**W/S**、ハット、リード、ハッカーなどによって数え切れないほど非難された。

科学と哲学を組み合わせようとする試みは、多くの重要な用語の意味が無意識にランダムに変化することはほとんどありませんが、このような科学と哲学の本は何千もあります。私たちの行動と認知心理学の実験の記述(**W**が明らかにした説明ではない)があります。人間の行動を扱うこれらの多くは、**S2**の意識的思考と**S1**の無意識の自動化(心理学を生理学に吸収する)と組み合わせたものです。私たちはしばしば、彼らは私たちにこれらの用語の「本当の」意味を示していると思っていますので、自己、意識、意志は幻想であり、漫画の使用が有効であると言われます。つまり、**S2**は「非現実的」であり、**S1**の科学的因果関係の記述によって覆われなければならない。したがって、**a**言語哲学から心の哲学への移行の理由。例えば、カーラターの最近の「心の不透明さ」の私のレビューを参照してください。サールでさえ、ハッカー、ベネットとハッカー、**DMS**、コリバなどによって指摘されるように、ここで頻繁に犯罪者です。

誰かが私が昼食に何を食べるかを選ぶと言った場合、彼は明らかに間違っているか、選択によって彼がその「選択」のような何かを意味する場合は、「原因」を持っていると説明することができ、または「原因」への「選択」を減らす方法は明らかではないので、私たちはそれを幻想的と見なさなければなりませんそれは些細な(または支離滅裂)ですが、私たちが言語をどのように使い、どのように生きているかには無関係であり、そのような議論を始め、終わらせるポイントとみなされるべきです。

おそらく、それはカントとニーチェ(偉大な知性)と一緒にWだったことを関連していると考えるかもしれませんが、どちらも哲学の問題を解決するために多くのことをしていませんが、哲学者ではなく、クイン、ダメット、パットナム、クリプケまたはCDCによって史上最高の投票を行いました。

すべての哲学的な質問に類似性が見られます(厳密な意味では、質問の出現に関するすべてが1つではないというWのコメントを念頭に置いて考えています)。私たちは脳(または宇宙)がそれを行う方法を理解したいが、S2はそれに追いついていない。それはDNAを介してS1の無意識の機械化のすべて(または主に)です。私たちは「知っている」わけではありませんが、私たちのDNAは、約30億年にわたる無数の数兆個の生物の死の礼儀です。私たちは簡単に世界を記述することができますが、多くの場合、「説明」がどのようなものであるかに同意することはできません。だから、私たちは科学と闘い、心のメカニズムをゆっくりと記述します。たとえ脳の「完全な」知識を熟知する必要があるとしても、ニューロンパターンが赤を見ることに対応するものの説明を持っているだけですsが、なぜそれが赤いのか(すなわち、クエリアが存在するのか)の「説明」を持つことは(COS)意味は明らかではありません。Wが言ったように、説明はどこかで終わる。

上記を把握している人にとって、カーラッチャーの「心の不透明さ」(CDC学校の主要な最近の仕事)の哲学的な部分は、W、S、および他の何百もの仕事を無視することから生じる標準的な混乱の大部分で構成されています。それはサイエンティズムまたは還元主義と呼ばれ、科学において全く異なる完全に相容れない使用を与えられていることを除いて、私たちの高次の思考、意志、自己、意識の「現実」を否定することができます。私たちは、例えば、行動の理由はなく、行動を引き起こす脳だけです。彼らは明確な意味を持たない質問に答えようとすることによって想像上の問題を引き起こします。これらの見解は、大人の生活のほとんどを促進するために費やす人々の日常生活に全く影響を与えてはならないことを私たちに打つべきです。

この状況は、ルパート・リードの記事「意識の難しい問題」でうまく要約されています - 「ハードコアの問題はますます遠く離れて、情報や知覚や意図的ななど、心の側面を非人道的にします。この問題は、人間全体と関係のある「問題」と

して直面し、特定の時間に文脈(密接に自然で社会的)に具現化された場合にのみ直面するでしょう。その後、問題が無い人に対して、それが目に見えなくなる可能性があります。人間と人間以外の領域(通常は機械)または機械をパラダイムと考え、物事を前面に戻すなど)を使用して、人間と非人間の領域間で情報を「理論化」し始めるときだけ、問題があるかのように見え始めます。すべての「イズム」(コグニティビズム、還元主義(脳への)、行動主義など。私たちの手の届くところからさらに遠くにプッシュ。問題の非常に概念化は、「難しい問題」が不溶性のままであることを保証するまさにものです。それが本物とみなされるためには、何かの科学がなければならないと考える正当な理由は与えられたことがない。意識、心、社会の科学が必要である必要がある以上に、数字、宇宙、首都、ゲーム、星座、または名前が文字「b...」で始まるオブジェクトの科学が必要であると考える正当な理由はあります。私たちは、心を持つ頭脳としての考えではなく、世界で行動する具現化された人物としての考えから始める必要があります。科学が、意識が本当に何であるか、そしてそれが本当に存在するのかを「外部」/客観的な説明に導くのを助けてくれる方法はありません。基準の矛盾があるとき、私たちのマシンが自分自身と衝突し、私たちと衝突するとき、それは私たちを助けることができません。私たちのマシンのために、最初の場所で私たちのレポートによってのみ校正されています。外部の視点を得るようなことはあり得ない。それは...難しい問題は不溶性です。むしろ、問題が定義されていることを認める必要はありません。保証。。。問題をいつまでも生き続けること。これは、理解に対する限界の謙虚な(まだ特権的な)「科学的」声明と、特権のエリートの一部を理解することの両方の並外れた心理的満足を提供し、それらの限界を述べる際に、それらを超えて見ることができます。それはヴィトゲンシュタインがトラクタトゥスの序文で明らかにしたのを見に失敗します。制限は..言語でしか描かれず、限界の反対側にあるものは単にナンセンスです。

Wのコメントの多くが思い浮かびます。彼は88年前、「謎」が超越への憧れを満たし、「人間の理解の限界」を見ることができると思うので、私たちはそれらを超えて見るができると思います。私はまた、TLP 5.1361で1世紀前に書かれた「迷信は因果関係への信念に過ぎない」という彼の発言を頻繁に繰り返すのに役立つと思います。

また、提案は、精神的なプロセス(およびすべての哲学的な問題)についての哲学的な問題の起源についての彼の有名なコメント(PI p308)です。「精神過程や状態、行動主義に関する哲学的問題は、どのように起こるのでしょうか。最初のステップは、完全に通知をエスケープするものです。私たちは、プロセスと状態について話し、その性質を未定のままにします。いつか私たちは彼らについてもっと知るだろう——私たちは考える。しかし、それは問題を見る特定の方法に私たちをコミットするものです。プロセスをよりよく知ることを学ぶことの意味の明確な概念があります。(結び付けのトリックの決定的な動きがなされ、それは私たちが非常に無実だと思ったまさにそのものでした。--そして今、私たちの考えを理

解させるといふことは粉々に落ちる。だから、我々はまだ未踏の媒体でまだ理解されていないプロセスを否定する必要があります。そして今、私たちは精神的なプロセスを否定したかのように見えます。当然、私たちは彼らを否定したくありません。

W(PI p271)の別の一見些細なコメントは、「痛み」という言葉が何を意味するのか忘れていたが、それを正しく使った人を想像するように頼みました。また、すべての科学的な質問に答えたときには何も疑問に残らず、それ自体が答えであるというWのコメント(TLP 6.52)も関連しています。そしてscientific、CDCらの科学者(科学ではなくサイエンティズムによる)の失敗を理解することの中心は、何か私たちが何かをしなければならないと考えるのは非常に一般的な間違いであり、原因と理性の間の混乱につながるという彼の観察です。「そして、私たちがここで1000の同様のケースで犯す傾向がある間違いは、「私たちがやっているようにルールを使わせる洞察力の行為ではない」という文の中で使用してきたように、「作る」という言葉でラベル付けされています。そして、これは再び原因と理由の間の混乱に結合します。私たちは、私たちがそうであるように、ルールに従う理由が必要ではありません。一連の理由は終わりを持っています。BBB p143

彼はまた、原因の連鎖には終わりがあり、一般的なケースでは原因を指定する意味がある理由はないとコメントしています。Wは彼自身の数十年にわたる闘争の中で、「目に見える例」と答えを言われることの多くのための無益さを調べることによって自分自身を明確にする必要性を見ました。したがって、治療としての哲学と「自分自身に取り組む」についての彼の有名なコメント。

非常に多くの哲学書(そして行動科学、物理学、数学全体の偽装哲学)についてのもう一つの印象的なことは、多くの場合、他の視点が存在するというヒントがなく、最も著名な哲学者の多くが科学者の見解を支離滅裂と見なしていることです。また、もちろん、**he fact (seldom mentioned) that**我々はその一貫性を無視し、減少は神経生理学のレベルで止まらないが、化学、物理学、量子力学、「数学」または単なる「アイデア」のレベルに簡単に拡張することができます(そしてしばしばありました)。神経生理学を何にする必要がありますか?古代ギリシア人は、アイデア以外には何も存在しないという考えを生み出し、ライプニッツは有名に宇宙を巨大な機械と表現しました。最近では、ステファン・ウォルフラムは「新しい種類の科学」のコンピュータオートマトンとして宇宙を記述したことで疑似科学の歴史の中で伝説となりました。彼らの多くの装いで唯物論、メカニズム、理想主義、還元主義、行動主義と二元論はほとんどニュースではありませんし、ウイットゲンニアンにとって、**W**が30年代に青と茶色の本を指示して以来、または少なくとも彼のナクラスに関するその後の出版と広範な解説以来、かなり死んだ馬です。しかし、誰かを説得することは絶望的な作業です。Wは、行動する言語(心)の「目覚しい例」を通して長い努力を通して、自分自身-自己療法に取り組まなければならないさ、

公理心理学のルール(知らない)表現と、それを知らずに単語の使用を変更するのがいかに簡単であるかは、物理学者のジェームズ・ジーンズ卿によってずっと前に与えられました:「宇宙は偉大な機械のように見えるよりも素晴らしい考えのように見え始めます。しかし、「思考」「機械」「時間」「空間」「原因」「起こる」「起こる」「続ける」などは、科学や哲学の中で日常生活と同じ意味(用途)を持っていないか、むしろ古い用途が多く新しいものとランダムに混ざっているのです。センスのない感覚の出現。行動、生命、宇宙に関する学術的議論の多くは、(ほとんどの政治、宗教、マスメディアの低いコメディとは対照的に)高いコメディです:すなわち、「洗練された、機知に富んだ対話と複雑なプロットを特徴とする礼儀正しい社会を扱うコメディ」-(Dictionary.com)しかし、哲学は時間の無駄ではありません - 正しく行われ、それは時間を費やす最良の方法です。行動科学の混乱を払拭したり、私たちの精神的な生活とシステム2のより高い秩序の考えを記述するには、他にどのようにすればよいのでしょうか?

この枠組みを考えると、OCを理解するのは簡単であるべきであり、私たちの生来の心理学がシステム2の現実のテストを使用してシステム1の確実性を構築する方法を説明するWの例に従い、個人として、そして社会が世界観を獲得するように私たちの公理的に遺伝的にプログラムされた反射的な知覚と行動の岩盤の上に構築された取り返しのつかない運動体験は、科学と文化の驚くべき建物に。進化論と相対性理論は、修正しかできない確実性に挑戦できるものからずっと前に通過し、スペクトルの反対側では、パリやパリのようなものがないことを知る可能性はありませんプロントサウルス懐疑的な見方は支離滅裂である。私たちは何でも言うことができますが、何の意味も持てません。

したがって、DMSでは、OCは人間理解の基礎石と私たちの心理学に関する最も基本的な文書の記述と考えています。60代の頃に書かれたが、精神的にも肉体的にも癌によって壊滅的な被害を受けたが、それは彼の他の作品と同じくらい素晴らしく、哲学(高次思考の記述心理学)に対する理解を変え、ついに3時以降に光の中に持ち込む洞窟で千年。形而上学は哲学や物理学から流されてきた。

「これはどのような進歩であり、魅力的な謎は取り除かれましたが、慰めに深いものは取り除かれていません。何も説明されたり、発見されたり、再考されたりしていません。いかに飼い慣らされ、感動的でない人が考えるかもしれません。しかし、おそらく、ヴィトゲンシュタインが示唆するように、明快さ、解剖学、真実の美德は十分に満足していると思われるべきです」 -- ホーウィッチ「ヴィトゲンシュタインのメタ哲学」。

私がここで奨励してきた視点で、Wは現代哲学と心理学の中心にあり、あいまいで困難でも無関係でもありませんが、シンチレーション、深遠でクリスタルクリアであり、彼を見逃すのは最も偉大なものの1つを逃すということです可能な知的

冒険。

科学と数学に関する本の中で哲学的混乱の多くを示す優れた最近の作品は、ヤナフスキーの「理性の外側の限界:科学、数学、論理が私たちに教えることができないもの」(2013年)です(私のレビューを参照)。

Wは、科学的な解説の終わりに達すると、問題は哲学的なもの、すなわち言語を理解的に使用する方法の1つになると指摘した。ヤナフスキーは、事実上すべての科学者やほとんどの哲学者のように、ここに2つの異なる種類の「質問」または「アサーション」(すなわち、言語ゲームまたはLGの)があることを得ることはありません。世界がどのように存在するかについての事実の問題であるものがあります。彼らは明確な意味を持つ公に観察可能な提案(真または偽)の状態(サールの用語では満足の状態 $-COS$)、すなわち科学的声明であり、言語がこれらの状態を記述するためにどのように一貫して使用できるかについての問題があり、これらは事実にほとんどまたはまったく頼りのない正気で知的で識字可能な人によって答えることができる科学の。もう一つの不十分に理解されているが、重大な事実は、思考は、表し、推論するが、理解、直感等(すなわち、性質心理学)の真偽の声明は、我々の遅い、意識的なシステム2(S2)の高次認知の機能であり、その「粒子」が絡み合っているかどうかの決定は、赤色のシフトを示し、定理が証明されている(すなわち、シンボルが正しく使用されることを知ることを含む部分)無意識のシステム1(S1)は、情報処理がなく、表現(すなわち、 COS なし)、S2で起こる意味(S1から入力を受け取る)の判断がない、見ること、聴覚的、触れる等を介して。この2つのシステムアプローチは、推論や合理性を見るための標準的な方法であり、科学、数学、哲学が特別なケースである行動の記述において重要なヒューリスティックです。行動や科学の研究に不可欠な推論に関する巨大で急速に成長している文献があります。私たちが実際にどのように推論するのか(すなわち、行動を実行するために言語を使用する-W、DMS、ハッカー、Sなどを参照)の詳細を掘り下げた最近の本は、ステンニングとヴァンランバルゲン(2008年)による「人間の推論と認知科学」(2008年)です9。

Wは「科学的」言語ゲームによって生じる混乱の多くを明確に示しているので、数学の哲学に多くを書き、無数の解説があり、多くの非常に貧しい。ヤナフスキーによって育てられた最高の最近の作品のいくつかについてコメントします。

フランシスコ・ベルトは最近、いくつかの浸透したコメントをしました。彼は、Wがメタ数学の一貫性を否定したと指摘しています-すなわち、彼の定理を証明するためにメタセラムのゴデルによる使用は、おそらく彼の「悪名高い」解釈をパラドックスとして説明し、彼の議論を受け入れるならば、私たちはメタ言語、メタセオ、メタテアの不可解さを否定せざるを得ないと思います。メタ数学やインコプティエネスなどの概念(言葉、言語ゲーム)は、何百万人もの人々に受け入れられ、ペンローズ、ホーキング、ダイソンらが私たちの心や宇宙に関する基本的

な真実を明らかにするために主張することさえあるのは、言語の仕組みについての単純な誤解に過ぎないのでしょうか?このプリン証拠は、非常に多くの「啓示的な」哲学的概念(例えば、心と幻想として意志-デネット、カーラザーズ、チャーランズなど)のように、彼らは実用的な影響を全く持っていないということですか?

ベルトはそれをうまく要約します:「このフレームワークの中で、まったく同じ文はありえない。正式なシステムでは、表現可能ですが、形式的でないことが判明しました。そして、(前述の一貫性仮説の下で)別のシステム(メタシステム)において実証的に真実である。ウィトゲンシュタインが維持したように、証明された文の意味が証明された場合、同じ文(つまり、同じ意味を持つ文)が正式なシステムではデシッドできないが、別のシステム(メタシステム)で決定することは不可能です。ウィトゲンシュタインは、正式なシステムが構文的に不完全であり得るという考えと、算術的真理のみを証明する正式なシステムがすべての算術的真理を証明できないというプラトニックな結果の両方を拒絶しなければならなかった。もし証明が算術文の意味を証明すれば、不完全な意味が存在し得ないのと同じように不完全なシステムは存在できない」さらに「矛盾した算術、すなわち、パラコンシステント論理に基づく非古典的な算術は、今日では現実です。さらに重要なことは、このような理論の理論的特徴は、前述のウィトゲンシュタインニアン直感のいくつかと正確に一致する。彼らの矛盾は、彼らもゴデルの最初の定理から脱出することを可能にし、教会の不定理の結果から:彼らは、つまり、実証的に完全に決定可能です。したがって、彼らは正確にウィトゲンシュタインの要求を満たし、システム内で有意義に策定できるが、システムのルールを決定できない数学的な問題が存在することはできません。したがって、パラコンシステントなアリスム・エ・チックスの決定可能性は、ウィトゲンシュタインが彼の哲学的経歴を維持した意見と調和する」

Wはまた、自然選択のランダムなプロセスによって組み立てられた作品のモトリオンとしてではなく、統一的な一貫した論理的な「システム」として、数学や言語または一般的に私たちの行動に関する致命的な誤りを実証しました。「ゴデルは、数学がシステムであると考えられるという事実によって示される『数学』の概念を明確にし、ゴデルとグレゴリー・チャイティンが示すすべてである(ほぼすべての人に反する)とすることができます。Wは、数学の「真実」は公理または公理に由来する定理を意味し、「偽」は定義を使用する間違いを犯したことを意味し、これはテストを適用する経験的な問題とは全く異なりと何度もコメントしました。Wはしばしば、通常の意味で数学として受け入れられるには、他の証明で使用できなければならず、現実世界のアプリケーションを持っている必要がありますが、どちらもGodelの不完全性には当てはまらないと指摘しました。それは一貫したシステム(ここでピーノ算術が、チャイチンのためのはるかに広いアリーナ)で証明することができないので、それは証明に使用することはできませんし、PAのすべての「残り」とは異なり、それは現実の世界でも使用することはできま

せん。ビクター・ロディッチが指摘するように..ウィトゲンシュタインは、正式な微積分は、偶発的な命題のシステム(例えば、通常のカウントと測定または物理学)のシステムに余分なアプリケーションを持っている場合、数学的微積分(すなわち、数学的言語ゲーム)に過ぎないと考えています。もう一つの言い方は、「証明」、「命題」、「真」、「不完全」、「数字」、「数学」などの言葉の通常の使用を「数字」や「プラス」と「マイナス」記号などで作成されたゲームのもつれに適用する令状が必要であり、「不完全」でこの令状は欠けているということです。ロディッチはそれを見事に要約します。「ウィトゲンシュタインのアカウントでは、『数学では、すべてがアルゴリズム[と構文]であり、何も意味を持たないので、不完全な数学的微積分のようなものはありません。

Wはカンターの対角化と集合理論について言っても同じです。「対角線の手順を考慮すると、「実数」の概念は、特定の類推に惑わされている私たちよりも「枢機卿数」という概念との類似性をはるかに低いことをお考えです」そして、他の多くのコメント(ロディッチとフロイドを参照)。

このようなすべての本からの主要な省略の一つは、ポリマス物理学者と意思決定理論家デビッド・ウォルパートの驚くべき仕事です、彼らは計算を行うデバイスから独立している推論(計算)の限界に関するいくつかの驚くべき不可能または不完全な定理(1992~2008 - arxiv.org参照)を証明した人は、コンピュータ、物理学、人間の行動に適用されます。宇宙よりも速く情報を正しく処理する。この結果は、絶対的な汎用観察装置が存在することはできず、絶対的で汎用的な制御装置が存在できないことを意味します。これらの結果は、無限の、または非古典的なシステムに依存せず、混沌としたダイナミクスに従うものではありません。また、無限に高速で無限に密集したコンピュータを使用している場合でも、チューリングマシンよりも計算能力が大きい場合でも保持されます。彼はまた、チームや集団インテリジェンス(COIN)に関する最初の深刻な仕事と思われるものを発表し、このテーマを健全な科学的基盤に置くと言っています。彼は20年以上にわたり、最も権威あるピアレビュー物理学雑誌(例えば、Physica D 237:257-81(2008)))とNASAのジャーナルで、これらの様々なバージョンを出版し、主要な科学雑誌でニュース項目を得ているが、ほとんど気づいていないようで、私は物理学、決定、数学と参照を見つけることなく、最近の本の数十を見てきました。

ヤノフスキーと他の人々は、彼の仕事がコンピューティング、思考、推論、不完全さ、そして彼が達成する(チューリングマシン理論の多くの証拠のように)不屈の究極の延長であるので、ウォルパートの認識を持っていないことは最も残念です嘘つきのパラドックスとカントールの対角化を拡張して、すべての可能な宇宙とすべての存在やメカニズムを含むようにし、計算だけでなく、宇宙論や神々に関する最後の言葉と見なすことができます。彼は、世の線を使用して推論宇宙を分割することによって、この極端な一般性を達成し(すなわち、それが何をするかではなく、どのようにするか)、彼の数学的証拠は、特定の物理的法則または計算

構造から独立している過去、現在、未来、および可能なすべての計算、観察、制御のための推論の物理的限界を確立します。彼は、古典的な宇宙でさえ、ラプラスは未来を完全に予測できること(あるいは過去または現在を完全に描写することさえ)について間違っていたと指摘し、彼の不可能な結果は「非量子機械不確定性原理」(すなわち、存在することは、間違いのない観察または制御装置を持つことはできません)。ユニバーサル物理デバイスは無限でなければならず、一度にしかそうではなく、現実には複数の("一神教定理")を持つことはできない。空間と時間は定義に現れていないので、デバイスはすべての時間にわたって宇宙全体であってもできます。これは、1つの自己参照デバイスではなく、2つの推論デバイスを備えた不完全性の物理的なアナログと見なすことができます。彼が言うように、「私たちの宇宙のハミルトニアンは、特定のタイプの計算を規定しているか、予測の複雑さは(アルゴリズム情報の複雑さとは異なり)ユニークであり、私たちの全体に適用できるバージョンが1つだけあるという点で宇宙」

もう一つの言い方は、2つの物理的推論デバイス(コンピュータ)の両方が他方の出力に関する任意の質問をすることができない、または宇宙に任意の計算タスクを提起できるコンピュータを含めることができない、または物理的推論エンジンのペアのために、宇宙の状態に関するバイナリ値の質問が常に存在するという事です。物理システムの将来の任意の状態を予測できるコンピュータは、たとえその条件が、制約された一連のタスクからののものであっても、宇宙よりも速く情報を処理することはできません(これはSやReadなどの厄介なフレーズです)。コンピュータとそれが計算している任意の物理システムは、物理的に結合する必要はありませんし、物理学、カオス、量子力学、因果関係や光錐の法則に関係なく、さらには無限の光の速度のために保持します。推論デバイスは空間的にローカライズされる必要はありませんが、宇宙全体で発生する非局所的な動的プロセスである可能性があります。彼は、これがウォルフラム、ランダウアー、フレドキン、ロイドなどの憶測を、コンピュータとしての宇宙や「情報処理」の限界に関する新しい光の中に置くことをよく知っています(しかし、彼らの著作の指数は彼に言及しておらず、もう一つの顕著な省略は、上記のどれもヤノフスキーによって言及されていないということです)。

ウォルパートは、宇宙が可能な限り速く情報を処理できる推論装置を含むことができないことを示しており、完璧な記憶も完璧なコントロールもできないことを示しているので、その過去、現在または将来の状態は完全または完全にすることはできません描写、特徴付け、既知またはコピー。彼はまた、エラー修正コードを持つコンピュータの組み合わせがこれらの制限を克服できないということを証明しました。ウォルパートはまた、観察者(「嘘つき」)の重要な重要性を指摘し、これはヤノフスキーに関する物理学、数学、言語のおなじみの難問に私たちを接続します。再びWのフロイドcf.フロイド:「彼は言い換えれば、対角化の一般化された形を明確にしています。したがって、この引数は、10進数の拡張だけでなく、そのリストやルールに準拠した式にも適用されます。それは、特定の表記

装置や希望する記号の空間的配置に依存しません。その意味で、ヴィトゲンシュタインの議論は絵に訴えず、本質的に図表または表現的ではありませんが、論理的な議論である限り、その論理は正式に表現されるかもしれません)。チューリングの議論と同様に、それは特定の形式主義と直接結びつくのは自由です。[ウォルパートとの平行線は明らかです。チューリングの議論とは異なり、それは明示的に言語ゲームの概念を呼び出し、ルール概念とそれに従う人間の日常的な概念に適用されます(そして仮定します)。上記の対角線プレゼンテーションのすべての行は、人間に与えられた命令に似た命令またはコマンドとして考えられています。ウォルパートの作品が、科学や数学の別々の問題と哲学(言語ゲーム)のWの考え方の完璧なイラストであることは明らかです。

ヤノフスキーはまた、ゲーム理論家、物理学者、経済学者、数学者、哲学者、意思決定理論家など、何十年もの間、不断、不可能、計算不能、不完全性の証拠を密接に関連して出版してきた、現在存在する(そして急速に拡大している)大きな重複を明らかにしていない。より奇妙なもの1つは、アルマンド・アシスによる最近の証拠であり、量子力学の相対的な状態の定式化では、生まれたルールと波関数の崩壊に従うナッシュ均衡を使用して、宇宙と観察者の間にゼロサムゲームを設定することができるということです。ゴデルは最初に不可能な結果を示し、(デビッド・ウォルパートの驚くべき論文まで、ここと私のレビュー記事を参照)、それは最も速くに達している(または単にトリブリアル/支離滅裂)が、have他の人の雪崩がありました。決定論の最も初期の1つは、1951年にケネス・アローによって発見された有名な一般不可能性定理(GIT)でした(1972年にノーベル経済学賞を受賞しました)そして、彼の学生の5人は現在ノーベル賞受賞者です、これはプリンジ科学ではありません。合理的に一貫した公正な投票システム(すなわち、個人の好みをグループの好みに集約する方法はない)は、賢明な結果を与えることができないと大まかに述べています。グループは一人の人間によって支配されているので、GITはしばしば「独裁者定理」と呼ばれるか、または自動選択があります。アローの原文は「社会福祉の概念の難しさ」と題され、このように述べることができます:私は次の条件のすべてを満たす社会的な推論命令を策定することは不可能ですsocial pre:非独裁政権。個人主権;満場一見;無関係な選択肢からの自由;グループブランクのユニークさ」現代の意思決定理論に精通している人は、これと多くの関連する制約定理を出発点として受け入れます。そうでない人は、それを見つけるかもしれません(そして、これらすべての理論ms)信じられないほど、その場合、彼らは上記の分野のyとは何の関係もないキャリアパスを見つける必要があります。「アロー不可能定理」(2014年)または「意思決定と不完全性」(2013年)を参照してください。

ヤノフスキーは、ブランデンブルガーとケイスラー(2006年)の2人のゲームの有名な不可能な結果に言及しています(しかし、もちろん「ゲーム」に限定されず、これらすべての不可能な結果と同様に、それはあらゆる種類の決定に広く適用されます)、特定の種類の信念モデルが矛盾につながることを示しています。結果の

解釈の1つは、意思決定アナリストのツール(基本的には単なるロジック)がゲーム内のplayersに利用可能な場合、プレイヤーは書き留めたり「考える」ことができるが、実際には保持できないという声明や信念があるということです(すなわち、明確なCOSはありません)。「アンは、ボブがボブの仮定が間違っていると信じているとボブは信じている」と考えており、「再帰」(別のLG)は少なくとも1世紀の間、議論、言語学、哲学などで想定されてきたが、アンとボブがこれらの信念を引き受けることは不可能であることを示した。そして、1またはマルチプレイヤーの意思決定状況(例えば、アロー、ウォルパート、コッペル、ロッサーなどに等々の等に等級を採点する)のためのそのような不可能な結果の急速に成長している体があります。B&Kパラドックスの雪崩の中から良い技術論文のために、arXiv.orgからアブラムスキーとズヴェスパーの論文を入手し、嘘つきのパラドックスとカンターの無限大(タイトルノートとして「斜めと自己参照のインタラクティブな形」について)、そしてフロイド、ロディッチ、ベルト、W、ゴデルに戻ります。これらの論文の多くは、ヤナフクシーの論文「自己参照パラドックスと固定点に対する普遍的なアプローチ」を引用しています。記号論理の速報, 9(3):362–386, 2003. アブラムスキー(量子コンピューティングのパイオニアであるポリマス)は友人なので、ヤナフスキーは最近のフェストシュリフトに「計算、論理、ゲーム、量子財団」(2013年)に論文を提供しています。おそらくBKと関連するパラドックスに関する最高の最近の(2013)解説については、ウェス・ホリデイとエリック・パキットの「知識と信念に関する10のパズルとパラドックス」によるネット上の165pパワーポイント講義を無料で参照してください。良い複数著者の調査については、「集団的意思決定(2010)」を参照してください。

ゴデルの有名な定理は、数学全体(私たちの象徴的なシステムの一つである)を通してアルゴリズム的な「ランダム性」(不完全性)を示すチャイタンの定理のカロリーであるため、思考(行動、言語、心)は不可能、ランダム、または不完全な文や状況に満ちているようです。これらの各領域は、心理学を働かせるために偶然進化した象徴的なシステムと見なすことができるので、おそらくそれは彼らが「完全」ではないことを驚くべきことではないと考えるべきです。数学の場合、Chaitinは彼の「ランダム性」(再びLGのグループ)は、真実だが定等できない無限の定理があることを示していると言います。その後、そのドメインで達成可能な実際の状況を記述していない完璧な「文法的」な意味を持つ無限のステートメントがあると言うことができるはずですが。私はWの見解を考慮すれば、これらのパズルは消え去ることをお勧めします。彼はゴデルの定理の問題について多くのメモを書き、彼の作品の全体は、言語、数学、論理の可塑性、「不完全性」と極端な文脈感受性に関するものです。ロディッチ、フロイド、ベルトの最近の論文は、数学の基礎や哲学に関するWの発言を私が知っている最高の紹介です。

前述のように、David Wolpertはチューリングマシン理論とここで非常に提案されている計算の限界にいくつかの驚くべき定理を導き出しました。彼らはほとんど普遍的に無視されているが、有名な2002年の論文「私が言わなければならないこ

とはすべてあなたの心を横切った」、合理性、予測、制御の限界に関する3つの定理を与える有名な計量経済学者KopplとRosserによっては無視されていません。経済学。最初は、計算可能性の限界に関するWolpertの定理を使用して、将来の予測に対するいくつかの論理的限界を示します。ウォルパートは、ゴードルの不完全な定理の物理的なアナログと見なすことができると指摘し、KとRは、その変種は社会科学のアナログと見なすことができると述べていますが、ウォルパートは社会的影響をよく知っています。KとRの第2の定理は、無限次元空間におけるベイズ(確率的)予測に対する非収束の可能性を示している。3つ目は、予測プログラムを知っているエージェントとの経済を完全に予測するコンピュータの不可能を示しています。アストゥートは、これらの定理は、嘘つきパラドックスのバージョンとして見ることができ、私たちは私たち自身を含むシステムを計算しようとする、我々は不可能に巻き込まれているという事実は、これらの文脈でウォルパート、コップル、ロッサーと他の人によって指摘されていることに気づくでしょう。再び我々は、観察者が関与しているときに物理学のパズルに戻って円を描いた。K&Rは「経済秩序は計算合理性以外の何かの産物の一部である」と結論づけている。有限合理性は現在、それ自体が主要な分野であり、何千もの論文と何百もの本の主題です。

推論は思考の別の言葉であり、それは知っている、理解する、判断するなどの性質です。ウィトゲンシュタインが最初に説明したように、これらの処分動詞は命題(真実または偽りである可能性のある文章)を記述し、したがってサールが満足条件(COS)と呼ぶものを持っています。つまり、私たちが彼らの真実や虚偽を示していると認識する公共の状態があります。「理性を超えて」は、真実の条件が明確ではなく、その理由は明確な文脈を持っていないという文を意味します。明確なCOS(すなわち、私たちが持っている場合、それは事実の問題です。意味)しかし、私たちが観察を行うことはできません - これは理性を超えてではなく、達成する能力を超えていますが、COSを知らなければ哲学的な(言語的な)問題です。

いつものように、最初に心に留めておくべきことは、哲学や説明で新たな発見はなく、行動(言語)の明確な記述だけであるというWの独裁です。すべての問題が言語の仕組みに関する混乱であることを理解したら、私たちは平和であり、その意味で哲学がその目的を達成しました。W/Sが指摘したように、現実には1つしかない、有意義に与えることができる心や人生や世界の複数のバージョンはなく、私たちは1つの公用語でしかコミュニケーションを取ることができない。私なる言語はあり得ず、いかなる「私的な内なる」考えは伝えることができず、私たちの社会生活に何の役割も持つことができません。この意味で哲学的な問題を解決することも非常に簡単であるべきです。「今、それが私たちが関係している因果関係でなければ、心の活動は私たちの前にあります。ウィトゲンシュタイン「青い書」 p6 (1933年)

私たちは遺伝子のセットが1つだけであり、したがって1つの言語(心)、1つの行動(

人間の性質または進化心理学)、WとSは岩盤または背景と呼び、これを反映してSが合理性の論理的構造を呼び出す哲学を生成し、私は高次思考の記述心理学(HOT)と呼ぶか、Wからの手がかりを取ると、HOTを記述する言語の研究。人間の行動(HOT)の哲学的側面に関する誰かのコメントを読むことの唯一の関心は、W/Sフレームワークへの翻訳が言語の使用を照らすいくつかの明確な記述を与えるかどうかを確認することです。そうでなければ、彼らが言語によってどのように妖艶になっているかを示すことは混乱を払拭します。私はホーウィッチが彼の素晴らしい「ヴィトゲンシュタインのメタ哲学」(私のレビューを参照)の最後のページで述べたことを繰り返します:「これはどのような進歩ですか-魅力的な謎は取り除かれましたが、深さは慰めにはなっていません。何も説明されたり、発見されたり、再考されたりしていません。いかに飼育慣らされ、感動的でない人が考えるかもしれません。しかし、おそらく、ヴィトゲンシュタインが示唆するように、明快さ、神秘的、真実の美德は十分に満足しているはずで

それにもかかわらず、W/Sは多くのことを説明する(またはWが示唆したように、我々は「記述する」と言う必要があります)、Sは合理性の論理的構造が様々な理論を構成し、それに害はないと述べています。「他の名前の変質がある場合は、例に戻るか、新しいものを検討する必要があります。Wが指摘したように、言語(生命)は無限に複雑で文脈に敏感であり(Wは文脈主義の認められていない父親である)ので、しばしば式を導き出し、さらなる例の必要性を排除することができる物理学とは全く異なります。サイエンティズム(科学的言語と因果関係の枠組みの使用)は、HOTを記述することに迷い込みます。

もう一度:「哲学者は常に目の前で科学の方法を見て、科学のように質問し、答えたいと思っています。この傾向は形而上学の本当の源であり、哲学者を完全な闇に導く」(BBB p18)。

他の多くの人とは異なり、Sは主にサイエン主義を避け、しばしば取り壊してきましたが、S1の「プロセス」を記述するために公共の行動(思考、信じることなどを知っている)を記述する性質のS2用語を使用することを主張すると、自分自身を避ける残留物があります脳、例えば、私たちは脳を研究することによって意識を理解することができ、彼は因果関係、意志または心をあきらめる準備ができて理解することができます。Wは、そのような言葉がヒンジや基本的な言語ゲームであることを豊富に明らかにし、それらをあきらめたり、それらを変更することさえ一貫した概念ではありません。私の他のレビューで述べたように、私はサイエンティズムの残留物は、Sの(そしてほぼすべての他の哲学者の)哲学生活の大きな悲劇から生じると思いますが-彼は後のWを十分に真剣に受け止めなかった(WはSが勉強するためにイギリスに行く数年前に死んだ)彼はWよりも賢いと思うの一般的な致命的な間違い。

「ここでは、哲学的調査における顕著で特徴的な現象に立ち向かう:難易度-

-私は--解決策を見つけることではなく、それが予備的であるかのように見えるものとして認識することではないかと言うかもしれません。私たちはすでにすべてを言いました。---これから続くものは何もない、これ自体が解決策ではない!...これは、私たちが間違っただけで説明を期待しているのに対し、難易度の解決策は、私たちの考慮事項に適切な場所を与えるならば、説明であると信じています。私たちがそれに住んでいて、それを超えようとししないでください。ゼッテル p312-314

「私たちの方法は純粹に説明的であり、私たちが与える説明は説明のヒントではありません。BBB p125

それはWの第3時代の作品と現代心理学の両方に続き、「意志」、「自己」と「意識」は、知覚、記憶、反射神経で構成される爬虫類皮質下システム1(S1)の公理的眞のみの要素であり、何もありません彼らの虚偽を(意味を与えること)を示す可能性(分かりにくい)Wが非常に素晴らしく明確にしたように、彼らは判断の基礎であり、判断することはできません。私たちの心理学の眞の唯一の公理は明らかではありません。

哲学者は、行動の他の学生(すなわち、科学者)が貢献しないことを期待していることについて正確に明らかにすることはめったにないので、科学の羨望に関するWの上記の発言に注意して、私はP.M.Sハッカー(長年Wの主要な専門家)から引用しますその上で良いスタートとサイエンティズムへのカウンターブラスト。

「伝統的な認識論者は、知識が眞の信念とさらなる状態であるかどうか、または知識が信念を意味していないかどうかを知りたいと考えています。これらの質問に答える必要がある場合に明確にする必要があるのは、私たちの認識概念のウェブ、様々な概念が一緒にハングアップする方法、その互換性と非互換性の様々な形態、そのポイントと目的、その前提と文脈依存の異なる形態です。結合解析におけるこの由緒ある運動に、科学的知識、心理学、神経科学、自己型認知科学は何も貢献できない」(自然主義的なターンで渡す:クインの袋小路-p15(2005)(2005))

デオントティック構造または「ソーシャルグルー」は、S2の遅い性質を生み出すS1の自動高速アクションであり、個人的な開発中に、サールによってよく記述されている幅広い普遍的な文化的デオントティック関係に絶え間なく拡大されています。私はこれがかなりよく社会的行動の基本的な構造を抽象化すると思います。

いくつかのコメントは繰り返し行います。したがって、S1は上向きの因果関係(世界を念頭に置く)と満足(表現や情報が欠けている)であり、S2はコンテンツ(すなわち表現的である)を持ち、下向きに因果関係(世界への心)であることを認識する(例えば、ハットとミンの「ラジカル」のレビューを参照してください)。エナビティズム))、私はSのMSW p39から「合計で」始まり、次のように「満足の条件」でpg 40で終わる段落を翻訳します。

要約すると、知覚、記憶、反射的な事前意図と行動('will')は、S2によって変更されたS1真のみの公理的EP('free will')の自動機能によって引き起こされます。私たちは、物事がどうなるかと思うか、そして彼らがどう思うかと一致するようにしています。私たちは、信念、欲望、想像力、欲望の時間がシフトし、意図から切り離され、遅い思考の他のS2提案的な処分は、後に進化した第二の自己に完全に依存していることを見るべきです(彼らの満足の条件を持っています(COS)に由来)因果的自己再帰(CSR)急速自動プリミティブ真反射S1。言語および神経生理学では、S1とのCOSの因果関係が過去または未来を表すように、常にS1にあるのとは異なり、意図(事前の意図)や記憶などの中間またはブレンドされたケースがあります。存在。S1とS2はお互いにフィードし、多くの場合、私たちの通常の経験は、私たちが行うすべてを意識的に制御するように、学んだ脱イオン文化的関係によってシームレスに調整されます。私たちの人生を支配する認知錯覚のこの広大なアーキタイプは、「表現型錯覚」(TPI)と表現しています。

「意図的性の最も重要な論理的特徴のいくつかは、即時のフェノメノロジーの現実を持っていないので、フェノメノロジーの手の届かないところにあります。なぜなら、無意味さから意味を作るとは意識的に経験されていないからです。存在しません。これは。。。」「と、表見上の錯覚を見る。サークル PNC p115-117

破棄語(環境設定-上記の表を参照)には、少なくとも2つの基本的な用途があります。一つは、私たちの直接的な認識、反射神経(基本的なスピーチを含む)と記憶、すなわち、因果的自己反射(CSR)である私たちの先天的な公理学的S1心理学(WのBBBの再帰的または自動移動性と呼ばれる)とS2の使用を記述する真の唯一の文章を指します行動し得る処分の言葉(思考、理解、知り等)として、真偽になる可能性がある(「私は家に帰る道を知っている」)、すなわち、彼らは満足の条件(COS)を持っており、CSR(BBBでは推移的と呼ばれる)ではありません。

「精神過程や状態、行動主義に関する哲学的問題は、どのように起こるのでしょうか。-最初のステップは、完全に通知をエスケープするものです。私たちは、プロセスや状態について話し、その性質を未定のままにします。いつか私たちは彼らについてもっと知るだろうと思う。しかし、それは問題を見る特定の方法に私たちがコミットするものです。プロセスをよりよく知ること学ぶことの意味の明確な概念があります。(コンジュリングトリックの決定的な動きがなされ、それは私たちが非常に無実だと思ったまさにそのものでした)。-そして今、私たちの考えを理解させるといえるならばは落ちる。だから、我々はまだ未踏の媒体でまだ理解されていないプロセスを否定する必要があります。そして今、私たちは精神的なプロセスを否定したかのように見えます。そして、当然のことながら、私たちはそれらを否定したくありません。 W PI p308

"...心と世界の基本的な意図的な関係は、満足の条件と関係があります。そして、

命題は、世界との意図的な関係に立つことができるものであり、それらの意図的な関係は常に満足の条件を決定し、命題は、条件を決定するのに十分なものとして定義されます満足して、すべての意図的性は命題の問題であることが判明しました。サール PNCp193

「意図的な状態は、満足の条件を表しています。人々は誤って、すべての精神的表現は意識的に考えなければならないと考えています。しかし、私が使用している表現の概念は機能的であり、トポロジ的な概念ではありません。満足の条件を持つものは、意図的性の特徴である方法で成功または失敗する可能性があり、定義上、その満足の条件の表現です。社会現象の意図の構造を、満足の条件を分析することで分析することができます」サールMSW p28-32

Carruthersと同様に、Coliva、Sおよび他のいくつかの状態(例えば、p66-67 MSW)S1(すなわち、記憶、知覚、反射的行為)が命題(すなわち、真偽)構造を有する。私が上記で述べたように、私のレビューでは何度も、Wが正しいことは明らかですし、S2だけが命題であり、S1は公理的で真のみの行動を理解することが基本的です。しかし、ここでSと様々な著者が背景(S1)と呼ぶものはS2を生み出し、S2によって部分的に制御されるため、S1が命題になることができる感覚が必要であり、S1の無意識的または意識的だが自動化された活動はS2の意識的または意図的なものにならないとSearleは指摘する。S1の遺伝的、公理的な意図的性がS2のそれを生成するので、彼らは両方ともCOSとフィットの方向(DOF)を持っていますが、S1が同じ意味で提案的であったならば、それは懐疑的なことが分かりやすいことを意味し、Wが戻る前の哲学であった混乱は戻り、実際には人生は不可能です。それは、例えば、真実と虚偽と世界の事実が意識なしに決定することができることを意味します。Wが頻繁に述べたように、彼の最後の本「確実性について」で非常に華麗に示したように、人生は確実性に基づいている必要があります - 自動化された無意識の急速な反応。常に疑いを持ち、反映するために一時停止する生物は、進化も人も哲学も死なない。

繰り返しますが、私はいくつかの重要な概念を繰り返します。Sが明らかにしたもう一つの考え方は、欲望独立した行動理由(DIRA)です。私はMSWのp127に関するSの実用的な理由の要約を次のように翻訳します:「私たちは、一般的に欲望-独立した行動理由(DIRA--すなわち、空間と時間に置き換えられる欲望)を含む私たちの欲望(脳化学を変更する必要がある)に屈し、私たちの包括的なフィットネス(自分自身とそれらに関連する遺伝子の生存のために増加する)に一般的に起因する筋肉の動きに遅かれ早かれ生じる行動への性質を生み出します。そして、私はDIRA2を実行する方法のp129に関する彼の説明を「パラドックスの解決は、長期的な包括的なフィットネスを提供する無意識のDIRA1が、しばしば短期的な個人的な即時の欲求を上書きする意識的なDIRA2を生成することです」と述べています。エージェントは確かに意識的にDIRA2の近接的な理由を作成しますが、これらは無意識のDIRA1(究極の原因)の非常に制限された拡張です。オバマと教皇は、それが「正し

い」ので貧しい人々を助けたいと思、っていますが、最終的な原因は、彼らの遠い祖先の包括的な適性を高めた彼らの脳の化学の変化です。インクルーシブフィットネスによる進化は、S1の意識的なゆっくりとした思考を引き起こすことが多いS1の無意識の急速な反射的因果作用をプログラムしており、S1によって身体および/または音声筋肉の活性化をもたらす行動の理由を生み出す。一般的なメカニズムは、神経伝達と脳の標的領域における神経調節剤の変化の両方を介してである。全体的な認知錯覚(S'Hehenomenological Illusion、ピンカー'ブランクスレート'、トゥービーとコスミデス「標準社会科学モデル」)は、S2が私たちが十分に認識し、制御している理由で意識的に行動を生成したということですが、現代の生物学と心理学に精通している人は誰でもこの見解が信用できないことがわかります。

文章は、明確なCOS、すなわち、公共の真実の条件を持っているとき、思考を表現する(意味を持つ)。したがって、Wからのコメント:"私が言語で考えるとき、言葉の表現に加えて私の心を通る「意味」はありません:言語自体が思考の乗り物です。そして、私が言葉の有無にかかわらず考えるならば、私が(正直に言う)考えは、他に可能な基準(COS)がないのです。したがって、Wの素敵な格言(p132 Budd-Wittゲンシュタインの心理学哲学)「願いと充実が会う言語である」「形而上学的なものすべてと同様に、思考と現実の調和は言語の文法に見られるのです。そして、Wの「文法」は通常進化心理学(EP)と訳され、理論化と一般化に対する彼の頻繁な警告にもかかわらず、これはサールの「理論」(しばしば彼の有名な反理論的スタンスのためにWを批判する)を超えて、高次記述心理学(哲学)の特徴と同じくらい広いことに注意してください。

「すべての符号は解釈が可能ですが、意味は解釈が可能であってはならない。それは最後の解釈です" W BBB p34

「サールの哲学と中国哲学」(SPCP)(2008)は素晴らしいユニークな本ですが、私の2015年のレビューは当時だけだったことを完全に無視しました!哲学的な問題は、常に私たちの普遍的な先天的な心理学を記述するために使用される言語の間違いについてであり、それらの中国語、フランス語、キリスト教徒、フェミニストなどの見解がある有用な意味がないことを明らかにすべきです。そのような見解は広い意味で哲学の存在することができますが、それは心の哲学(またはW、Sまたは私にとって興味深く実質的な哲学が何であるか)ではありません。これについて話し合うために本全体が必要であり、Sは素晴らしい仕事をするので、私はSPCPのp35を守り、提案はS2であり、Wが1世紀前の3/4以上に明確にしたようにS1であり、クインとデビッドソンの両方が関係する基本的な問題について同じように混乱していたことをここでコメントします(サールとハッカーの両方がクインの優れた解体を行っています)。しばしば、Sの議論は、Wの「背景」に対する理解を論理的な結論に導かなかったことによって損なわれるので、彼は(頻繁に)自由意志の概念を放棄しなければならないかもしれないと提案する。私たちの腕を持ち上げ

る選択を持っていない私たちの虚偽と真実を示すことができるCOS(真実を作るイベント、テストまたは証拠)は何ですか？

同様に(p62)誰も背景(すなわち、私たちの公理的なEP)について議論することはできませんが、私たちは全く話すことができるので(Wが頻繁に指摘されているように)それを前提としています。「モノイズム」や「現実」などと共に「還元」も事実です。複雑な言語ゲームであり、彼らは小さなバックパックに沿って意味を運ぶ!明確にし、別の使用法(コンテクスト)がどのように異なるかを確認するために、詳細に1つの使用法を解剖する必要があります。

哲学者(そして哲学者)は、明確な意味を持たない質問に答えようとすることによって、想像上の問題を生み出します。この状況はフィンケルシュタインの「ホリズムとアニマルマインド」でうまく分析され、上記の「意識の難しい問題」の読み取りによって見事に要約されています。

ウィトゲンシュタインの「文化と価値」(1980年に出版されたが、数十年前に書かれた)は、おそらく彼の最も興味深い本ですが、この議論に関連する多く、そしてもちろん現代の知的生活の大部分に関連しています。

「形而上学的表現の誤用が数学ほど多くの罪を引き起こしてきた宗教的宗派はありません。

「人々は、哲学は本当に進歩していない、私たちはまだギリシャ人と同じ哲学的問題に占領されていると何度も何度も言います。しかし、これを言う人々は、なぜそうでなければならないのか理解していません。それは、私たちの言語が変わらず、同じ質問をするように誘惑し続けているからです。私たちが時間の川について話し続ける限り、形容詞が同一である限り、食べるのと飲むのと同じように機能する動詞が続く限り、空間など、広がる空間の中で、人々は同じ不可解な困難につまずき続け、説明が晴れ出せそうに思えるものを見つめている。さらに、人々が「人間の理解の限界」を見ることができると考える限り、彼らはもちろん、彼らがこれらを超えて見ることができると信じているので、これは超越への憧れを満たしています。

同様に、サールの最近の作品の2つから本質を蒸留してみましょう。

「理由文で報告された事実の性質と、エージェントの欲望、価値観、態度、評価とは無関係に合理的なエージェントに拘束力のある行動の理由はありますか?...伝統的な議論の本当のパラドックスは、ヒュームのギロチン、厳格な事実 - 価値の区別、語彙の中で、その使用はすでに区別の虚偽を前提としているということです。サール PNC p165-171

"...すべてのステータス機能、したがって、言語を除くすべての制度的現実、宣言の論理的な形式を持つスピーチ行為によって作成されます。問題のステータス機能の形態は、ほとんど常に脱イオン力の問題です。何かを権利、義務、義務、要件として認識することは、行動の理由を認識することです。これらの脱イオン構造は、可能な欲望に依存しない行動の理由を作ります。一般的なポイントは非常に明確です:行動のための欲望ベースの理由の一般的な分野の作成は、行動のための欲望に依存しない理由のシステムの受け入れを想定しました。サール PNC p34-49

つまり、言語システム2の機能は、言語前のシステム1を前提としています。また、DIRA 1を受け入れまたは拒否することは不可能1であり、むしろS1の一部として、彼らは生まれつきであり、S1のいずれかを拒否することは支離滅裂です。

「意図的性の最も重要な論理的特徴のいくつかは、即時のフェノメノロジーの現実を持っていないので、フェノメノロジーの手の届かないところにあります。なぜなら、無意味さから意味を作ることは意識的に経験されていないからです。存在しません。これは。。。」「と、表見上の錯覚を見る。サール PNC p115-117

つまり、私たちの精神機能は、通常、システム1に気づかないほどシステム2に夢中になっています。

"...心と世界の基本的な意図的な関係は、満足の条件と関係があります。そして、命題は、世界との意図的な関係に立つことができるものであり、それらの意図的な関係は常に満足の条件を決定し、命題は、条件を決定するのに十分なものとして定義されます満足して、すべての意図的性は命題の問題であることが判明しました。サール PNCp193

「だから、ステータス機能は社会を一緒に保持する接着剤です。彼らは集団的な意図的性によって作成され、彼らはデオンティックな力を運ぶことによって機能します。言語自体の重要な例外を除いて、制度的現実のすべてと、ある意味では人間の文明のすべてが、宣言の論理的な形を持つスピーチ行為によって作成されます。人間の制度的現実のすべては、宣言の明示的な形でスピーチ行為ではない場合を含む(同じ論理的な形を持つ表現)ステータス関数宣言によって存在して作成され、維持されます。

サール MSW p11-13

「信念は、声明と同様に、世界のフィット方向に対して、下向きまたは心(または言葉)を持っています。そして、欲望や意図は、命令や約束のように、上向きまたは世界に向かう(または言葉)の方向を持っています。信念や認識は、声明のように、物事が世界でどのようにあるかを表すことになっているし、その意味で、彼らは世界に合うことになっている。彼らはフィットする心から世界への方向を持

っている。欲望、事前の意図、行動の意図などの共生的な意志の状態は、命令や約束のように、世界と心の向きを持っています。彼らは物事がどのように表されるべきではなく、私たちがどのようにになりたいか、どのようになるつもりなのかを表すべきです。これら2つの学部に加えて、提案的な内容が認知と意志の命題的な内容が合うはずの方法で現実に合わないはずの第三の想像力があります。世界に関するコミットメントは放棄され、我々はそれが適合のどちらの方向にも表すコミットメントなしに提案的な内容を持っています。サール MSW p15

「意図的な状態は、満足の条件を表しています。人々は誤って、すべての精神的表現は意識的に考えなければならないと考えています。しかし、私が使用している表現の概念は機能的であり、トポロジ的な概念ではありません。満足の条件を持つものは、意図的性の特徴である方法で成功または失敗する可能性があり、定義上、その満足の条件の表現です。社会現象の意図の構造を、満足の条件を分析することで分析することができます」サール MSW p28-32

「しかし、宣言に対する言語前の類似体はありません。言語学的前の意図的な国家は、すでに存在するものとしてそれらの事実を表現することによって、世界に事実を作成することはできません。この驚くべき偉業は言語を必要とする" MSW p69

"...言語を使用すると、コミットメントを作成せずに言語の規則に従って明示的なスピーチ行為を行う方法がないため、デオントロジーを持つことは避けられません。これは、ステートメントのためだけでなく、すべてのスピーチ行為に当てはまります" MSW p82

何年も前にSによって導入された批判的な概念は、Wが行動する傾向や処分と呼んだ私たちの考え(S2の命題)に対する満足の条件(COS)です。COSは、PNCのp169のような多くの場所でSによって説明されています:「したがって、何かを言うとは、それは満足の2つの条件を伴うことを意味します。第一に、発話が生み出され、第二に、発話自体が満足の条件を持つことを満足の条件。SがPNCで述べているように、「命題は満足の条件を決定できるものです。満足の条件.それはそうであるということです。または、MSWで明らかにしているように、それがそうであったり、想像されたりするかもしれない、または想像されるかもしれない、または追加する必要があります。意図については、「満足するためには、意図自体がアクションの生産において因果関係を持って機能しなければならない」。(MSWp34)。

「スピーカーの意味.満足の条件に満足の条件の押し付けです。これを行う能力は、人間の認知能力の重要な要素です。言語の使用に不可欠な方法で、一度に2つのレベルで考える能力が必要です。あるレベルでは、話者は意図的に物理的な発話を生成しますが、別のレベルでは発話は何かを表します。そして、同じ二重性がシンボル自体に感染します。あるレベルでは、それは他のレベルと同様に物理的

なオブジェクトです。別のレベルでは、それは意味を持っています:それは、状態の一種を表す" MSW p74

これに関する1つの方法は、無意識の自動システム1がシステム2のより高い皮質意識的性格を活性化し、潜在的な行動にコミットする特定の方法で世界を見ていることを他の人に知らせる喉の筋肉収縮をもたらすことです。言語学的またはプロトに対する大きな進歩-総筋肉の動きが意図に関する非常に限られた情報を伝えることができた言語的相互作用。

ほとんどの人は、S1を記述する真のみの文章とS2を記述する真または偽の命題の違いを明確にするので、Wの「確実性」または「RPP1と2」またはOcに関するDMSの2冊の本(私のレビューを参照)を読むことから大きな恩恵を受けるでしょう。これは、S2で彼らについて考え始めた後、TまたはF(SがMSWでそれら呼び出すようにアスペクト)にしかなることができないので、S1の認識を提案(少なくとも彼の仕事のいくつかの場所では)として取ることに対するはるかに優れたアプローチとして私を襲います。

Searleは、多くの場合、アクションの意図(IA)のために1つのイベントの説明の様々なレベルに注意する重要な必要性を説明します "私たちは、1つのレベルが低いレベルでの行動によって構成される記述の異なるレベルを持っています。関係によって構成に加えて、我々はまた、関係によって因果関係を持っています。(p37 MSW)

。

「事前の意図と行動の意図を区別する必要があるという重要な証拠は、2つのケースにおける満足の条件が著しく異なっているということです。(p35 MSW)。PIのCOSは全体のアクションを必要としますが、IAのCOSは部分的なアクションのみ必要です。彼は、以前の意図(PI)が精神状態(すなわち、無意識のS1)であり、意識的な行為(すなわち、S2)であるが、両方とも因果関係的に自己反射性(CSR)である意図インアクション(IA)をもたらすことを明らかにしている(例えば、p34)。両方がCSRであるという重要な議論は、(信念や欲望とは異なり)彼らが彼らのCOSをもたらすことに不可欠であるということです。これらの認知と意志の記述は、サールが長年使用してきた表2.1(p38 MSW)に要約されており、私がここに、そして私の多くの記事で提示する多くの拡張されたものの基礎です。私の見解では、私のS1、S2の用語とWの真のみの対提案(性質)の記述を使用して、これを現代の心理学研究に関連付けるのに非常に役立ちます。したがって、CSRはS1の真のみの認識、記憶、意図を参照し、S2は信念や欲望などの性質を指します。

これは、Wの第3時代の作品と現代心理学の観察の両方から、非常に簡単で容赦ない方法で、「意志」、'自己'、意識は、見る、聞こえるなどと同じように、システム1の公理的な真の要素です。そして、彼らの虚偽を(意味を与えること)を示す可能性(分かりにくい)ものはありません。Wは何度も素晴らしく明確にしたので、彼

らは判断の基礎であり、判断することはできません。私たちの心理学の真の唯一の公理は明らかではありません。

ここで関連する「関数」の概念を理解することは重要です。「関数は目的を果たす原因です。この意味で、関数は意図的に相対的であり、したがって心に依存しています。ステータス機能.必要。。。集団的な賦課とステータスの認識"(p59 MSW)。

suggest, 「言語の意図的性は人間の本質的な、または心に依存しない意図的性によって作られる」という翻訳を「S2の言語的、意識的な性質はS1の無意識の公理的反射関数によって生成される」と提案する。つまり、行動は生物学によってプログラムされていることを心に留めておく必要があります。

もう一度、サールはS1(すなわち、記憶、知覚、反射的行為)が命題(すなわち、真偽)構造を有することを述べている(例えば、p66-67 MSW)。私が上記で述べたように、他のレビューでは何度も、Wが正しいことは明らかですし、S2だけが命題であり、S1は公理的で真のみの行動を理解することが基本的です。S1の遺伝的、公理的な意図的性がS2のそれを生成するので、彼らは両方ともCOSとフィットの方向(DOF)を持っていますが、S1が同じ意味で提案的であったならば、それは懐疑主義が理解可能であることを意味し、Wが戻る前の哲学であった混乱、実際、本当なら人生は不可能です。Wが数え切れないほどの時間を示し、生物学がはっきりと示すように、生命は確実性に基づいている必要があります - 自動化された無意識の急速な反応。常に疑いを持ち、反映するために一時停止する生物は、進化も人も哲学も死なない。

声の筋肉の振動の短波長は、他の筋肉の収縮よりもはるかに高い帯域幅情報転送を可能にし、このisは視覚情報のために平均数桁高いので、言語と書き込みは特別です。

S1とS2は人間のEPの重要な部分であり、包括的なフィットネスによる自然選択の数十億と数億年のそれぞれの結果です。彼らはEEA(進化適応の環境)で生存と生殖を促進した。私たちについてのすべては、遺伝学で物理的および精神的に底を打っています。SのMSW(例えば、p114)の「言語外規約」と「余分な意味論的意味論」に関するすべての曖昧な話は、実際にはEP、特にすべての行動の基礎であるS1の無意識の自動化を指しています。Wが何度も言ったように、最も身近なのは目に見えない理由です。

ここでも、実用的な理由がどのように動作するかの私の要約(MSWのSに続く)があります:私たちは、通常、欲望-独立した行動理由(DIRA--すなわち、空間と時間に置き換えられる欲望)を含む私たちの欲望(脳化学を変更する必要がある)に屈します

。相互利他主義-RA)は、私たちの包括的なフィットネスに役立つ筋肉の動きに遅かれ早かれ生じる行動に対する性質を生み出す-IF(私たち自身と密接に関連する遺伝子の生存率の増加)。

適切に定義されている場合、DIRAは高等動物に普遍的であり、S1(すなわちDIRA1)の自動言語学的反射神経(すなわちDIRA1)を含むならば、人間に特有のものではなく、確かにS2の高次DIRA(DIRA2)を含めるならば、私は思う言語を必要とする人は、一意に人間です。DIRA2を自発的に実行する方法のパラドックス(すなわち、S2の行為とその文化的拡張は、長期的な包括的なフィットネスを提供し、しばしば短期的に上書きする意識的なDIRA2を生成することです)個人的な即時の欲望。エージェントは確かに意識的にDIRA2の近接的な理由を作成しますが、これらは無意識または単に自動化されたDIRA1(究極の原因)の非常に制限された拡張です。

Wに続いて、選択が私たちの公理学的なS1真の唯一の反射的な行動の一部であり、S1が質問の基礎であるため、矛盾なしに疑問を持つことはできないことは明らかです。あなたがそれを意識することは疑いの根拠であるため、このページを読んでいる疑いは間違いありません。

必然的に、内省の無駄さと本当に私立的な言語の不可能のWの有名なデモンストレーションが繰り返しポップアップします(..内省は決して定義につながることはありません。p8)。この引数の基本は非常に単純で、テストも言語もテストもパブリックにしかできません。私は本のない無人島で一人で育ち、ある日、木の上の丸いものを「ココナッツ」と呼ぶことにした場合、次の日、私は1つを見て「ココナッツ」と言うと、私は言語で始まったようです。しかし、私が言うことは(私を修正する人や辞書がないので)「コカ」または「リンゴ」であり、次の日に何か他のものであるとしましょうか?記憶は悪名高く、他の人からの絶え間ない修正やメディアからの絶え間ないインプットでも物事をまっすぐに保つのに大きな問題があります。これは些細な点のように思えるかもしれませんが、それは内面と外の問題、すなわち私たちの経験の真の唯一のテスト不可能な記述と、私たち自身の行動を含む世界のすべてのものに関する真または偽のテスト可能な声明の中心です。Wは1世紀の3/4以上から始まった多くの例でこれを説明しましたが、ほとんど理解されておらず、そうでない限り、行動の議論を非常に遠くまで行くことは不可能です。W、S、ハット、バッド、ハッカー、DMS、ジョンストンなどが説明しているように、Wがスキナー、クイン、デネット、機能主義、または私たちの内なる生活を否定する他の行動主義者の排泄物と親和性を持っていると思う人は誰でも最初に戻る必要があります。

バッドの『ウィトゲンシュタインの心理学哲学』(1991)は、洞察を得るためのより良い作品の一つなので、詳細に議論します(詳細については、私のレビューを参照)。

p21では、彼は精神状態(すなわち、S1オートマチズム)を指しているように見える性質(すなわち、思考、知っている、信じるなどのS2能力)について議論し始めます。したがって、p28の「読書」は、精神状態ではなく、思考、理解、信じなどの明確な持続時間を持たない別の処分能力として理解されなければならない。

W(混乱と複雑性科学が生まれる数十年前)は、いくつかの精神現象が脳内の混沌としたプロセスに由来する可能性があることを示唆したいくつかの通知(バッドp29-32、スターン、ジョンストン、モヤル・シャーロックは例外です)は、いくつかの精神的現象が脳の混沌としたプロセスに由来する可能性があることを示唆しました。彼はまた、因果鎖に終わりがあることを何度か示唆し、これは(科学の状態に関係なく)それ以上それを追跡することができないか、または「原因」の概念が一定のポイント(p34)を超えて適用されなくなることを意味する可能性があることを示唆した。その後、多くの人がWが何十年も彼らを予想していたという考えなしに同様の提案をしました(実際には1世紀以上にわたり、いくつかの例があります)。p32では、「事実に反する条件」は、混乱の中で発生する可能性のある状態(または潜在的な行動-サールの満足条件)である「雨が降っていると思うかもしれない」などの処分を再び指します。これは、サールの3つの意図的性のギャップに結び付けて、彼が非常に必要であると感じるのは有用かもしれませんが。

バッドはp33に関するWの有名なコメントを指摘する -- 「間違いは、何かが成り立つ意味のあるものがあると言うことです。Wは意味を構成する精神状態がないことを正しいが、Sは(上記のように)意味の行為を特徴付ける一般的な方法があることを指摘する- "スピーカーの意味..は、満足の条件に満足の条件を押し付ける行為であり、精神状態ではありません。P35に関するBuddのメモのように、これは私用言語に対する彼の議論の別の声明(個人的な解釈と公的にテスト可能なもの)と見なすことができます。同様に、p36-41に対する規則に従った解釈では、プライベートルールやプライベートな解釈を一般にチェックできる行為にしかできません。そして、多くの(最も有名なクリプケ)がここでボートを逃し、Wが頻繁にコミュニティの練習に紹介して、言語と社会的慣習の根底にある任意の公共慣行だと誤解されていることに注意する必要があります。Wは、彼がしばしば背景と呼ぶ先天的な共有心理学を考えると、そのような慣習が可能であることを何度も明らかにしています。Budd は、この誤解釈を何度か正しく拒絶します (例えば、p58)。

バッドの次の章では、彼は私の言葉で(そして現代の心理学で)S1であり、Wの言葉で真の唯一の疑いのないテスト不可能な背景である感覚を扱います。彼のコメント(p47)「私たちの現在の感覚に関する私たちの信念は、絶対に安全な基盤にかかっていることを - 「与えられた神話」は、ウィトゲンシュタインの攻撃の主な目的の一つです。誤解されやすい。第一に、彼はこれらの「信念」を呼び出すことの普遍的な間違いを犯しますが、S2の真または偽の処分のためにこの言葉を予約する方が良いです。Wが非常に明確にしたように、S1の感覚、記憶、反射的行為

は公理的であり、通常の意味での信念の対象ではありませんが、理解(私のU1)と呼ばれる方が良いです。S2の考え方(他のユーザーのS1エクスペリエンスを含む)とは異なり、疑いの余地はありません。バッドは、彼が1つが痛みを感じていると言うための可能な正当性がないことを指摘するp52のように、これをよく説明します。つまり、正当化とはテストを意味し、S1反射的高速無意識処理ではなく、S2処分の遅い意識思考で可能である。p52-56に関する彼の議論は素晴らしいですが、私の見解では、ルール、私語、内面についてWについて議論するすべての人と同じようにW、彼がする必要のあるのは、S1では可能なテストはなく、これはWの有名な「内側のプロセス」が外向きの基準を必要としているという意味です。つまり、内省は空虚である。

バッドの脚注21は、S1の真の唯一の因果関係の経験とS2の推論された性質を混乱させます。

「内部オブジェクト」(痛み、信念、思考など)の名前に関する次のいくつかのページのポイントは、彼らとその使用(意味)を持っていることを再び持っており、それは行動する処分の指定、またはサールの用語では、満足の条件の指定です。発話を真実にする

繰り返しますが、バッドの「感覚と因果関係」の議論は、私たちが痛みを感じたり馬を見たりする感覚を「自己帰属」または「信じる」ことや「スタンスを取る」(デネット)と述べるのは間違っていますが、むしろ選択の余地はありません - S1は本当の唯一であり、間違いはまれで奇妙な出来事であり、S2の間違いとは全く異なる種類です。そして、S1は理由に関係するS2とは対照的に因果関係であり、馬を見たり、痛みを感じたり、スピード違反の車の道から飛び降りたりすることは判断や間違いの対象ではない理由です。しかし、彼は再び私を得る - "だから、痛みの非不可解な自己記述の不満足は、痛みの真の自己記述は、彼が経験する痛みと同じである被験者の体の物理的な出来事によって引き起こされなければならないという研究と互換性があります(p67)。私は、彼の後の作品(特にOC)では、S1の因果関係の自動化された性質と、それが筋肉の動き(スピーチを含む)を引き起こすためにS1に供給する方法を記述する何百ものページを費やしているので、Wが彼のコーパス全体の1つまたは2つのコメントに基づいてこれを受け入れないという彼の次の声明を受け入れません。動物が生き残っているのは、彼らの人生が非常に予測可能な周囲の現象によって完全に指示されているからです(犬はジャンプするかもしれませんが、決して飛ぶことはありません)。

アспектを見るの次の章では、S1とS2がどのように相互作用し、私たちの言語が「見る」という意味でどこがあいまいかについてのWの広範なコメントについて説明します。一般的に、「見る」または縦横の見方は、見ているだけでS2脳の動作が遅いのは明らかであるが、それらは非常にうまく統合されているので、p97に関するWのコメントを説明する複数の方法で状況を記述することが可能である

。彼は、Wは私が他の場所で「見る2」または「概念2」と呼ばれるもの、すなわち、画像の縦横またはS2の高次処理に独占的に興味を持っていると指摘する。

ここでは、この本を通して、実際にWや行動の議論のように、ジョンストンの「ヴィトゲンシュタイン:内なるを再考する」(1993年)、特に言語の不確定な性質についての彼の議論を指すことを大いに価値があります。

バッドの第5章では、Wの後の仕事に対する大きな先入観であるS1とS2の関係を再び取り上げています。私は私の他のレビューで述べたように、少数は完全に後のWを理解しており、S1、S2フレームワークを欠いて、それは驚くべきことではありません。このように、Buddの見方(自動S1)と可視化(意志の影響を受ける意識的なS2)の議論はひどく妨げられている。このように、S1によるS2の支配(p110)として見ながら、物体を想像できない理由を理解できる。そして、p115では、それは私の内なる経験のためのテストが存在しないというおなじみの問題ですので、私がジャックの顔を想像すると私が言うことは何でも思い浮かびます。同様に、S1、S2または組み合わせを参照できる読み取りと計算では、S2項をS1プロセスに適用する誘惑が一定で、テストの欠如が適用できない。議論については、ベネットとハッカーの「ニューロ哲学」やDMSなどを参照してください。P120 et seq. Buddでは、ボールなしでテニスをするというこの誘惑と戦うために使用されるWの有名な例の2つ('S1テニス')と、S2計算しか持っていなかった部族he head ('S1 calculating') was について言及しています。「再生」と「計算」は実際の行為または潜在的な行為を表します-すなわち、それらは処分の言葉ですが、私が前に言ったように、もっともらしい反射的なS1が使用しているので、実際に'遊ぶ1'と'再生2'などを書くことによってそれらをまっすぐに保つべきです。しかし、私たちはこれを行うように教えられているので、ファンタジーとして「計算1」を却下するか、後でまでその性質を未定のままにすることができると思います。したがって、Wの有名なコメント(p120)-「結び付けのトリックの決定的な動きがなされ、それは私たちが非常に無実だと思ったまさにそのものでした。

第6章は、Wのもう一つの頻繁なトピックを説明しています - 私たちが話すとき、スピーチ自体は私たちの考えであり、他の以前の精神的なプロセスはなく、これは私用言語の議論の別のバージョンと見なすことができます - 「内側の基準」のようなものではありませんこれは、私たちが行動する前に私たちが考えていたことを伝えることを可能にします(話す)。

動詞「意図」を使用する他の想像上の方法についてのWのコメント(p125)のポイントは、それらが私たちの意図と同じではないということです。「私は食べるつもりです」は食べることのCOSを持っていますが、それが(COSが)食べることを意味するならば、それは意図ではなく行動を記述し、それが言葉(COSはスピーチである)を言うことを意味するならば、それはそれ以上のCOSを持っていないだろうし、どちらの場合もどのように機能することができますか？

p127に関する質問に、文が思考を表現するとき(意味を持っている)、私たちは「それが明確なCOSを持っているとき」と言うことができます、そして、これは公共の真実の条件を持っています。したがって、引用from W: "私が言語で考えるとき、言葉の表現に加えて私の心を通る「意味」はありません:言語自体が思考の乗り物です。そして、私が言葉の有無にかかわらず考えるならば、私が(正直に言う)考えは、他に可能な基準(COS)がないのです。したがって、Wの素敵な格言(p132)「願いと充実が会おう言語である」と「形而上学的なものすべてと同様に、思考と現実の調和は言語の文法に見られるのです。

そして、ここで、Wの「文法」は通常「EP」と訳され、理論化と一般化に対する彼の頻繁な警告にもかかわらず、これは哲学と高次記述心理学の特徴と同じくらい広いものです。繰り返しますが、これはサールのWに対する反理論としての頻繁な批判を打ち砕きます-それはすべて一般化の性質に依存します。

これは、現実との思考の調和(すなわち、期待、思考、仕事を想像するような性質、それらを発することの意味)に関する仏教のこのセクションで大いに役立ちます。私がジャックが来ることを期待していると言うなら、それが本当になるCOS(PE)は、ジャックが到着し、私の精神状態や身体的行動(部屋を歩き、ジャックを想像する)は無関係です。思考と現実の調和は、ジャックは私の前身またはその後の行動や私が持っているかもしれない精神状態に関係なく到着し、パッドが現実に同意できる精神状態の内部記述が必要であり、これは思考の内容であると述べたときに混乱または少なくとも混乱しているということです。ジャックが来るという考えの内容(意味)は、彼が来る外側の(公開)イベントであり、私立言語の議論が示す外側のイベントに接続することは不可能である内なる精神的なイベントや状態ではありません。私たちは外側のイベントについて非常に明確な検証をしていますが、「内部イベント」についてはまったく確認していません。そして、WとSが何度も美しく実証してきたように、「ジャックが来ることを期待しています」という文章を発するスピーチ行為は、(sentence) ジャックが来て、COSが同じであるという考え(文)です。そして、p133に関する2つの質問に対する答えとp 135に対するWのコメントのインポートは、今や明確であるべきです-「私の期待がその内容を持っているのは何ですか?」文と現実の間の影の補間は、すべてのポイントを失います。今のところ、文自体はそんな影として役立ちます。したがって、パッドが何を指しているのかについても、「現実との調和(または調和の欠如)が必要である」ことが可能になるのかもはっきりするはずです。

同様に、次のセクションの質問で、ジャックの私のイメージが彼のイメージであることは何が本当ですか?想像することは別の性質であり、COSは私の頭の中にあるイメージがジャックであり、彼の写真を見せれば「はい」、他の誰かに見せられたら「はい」と言う理由です。ここでのテストは、写真が私が持っていた曖昧なイメージと一致しているのではなく、私が彼のイメージであることを意図して

いた(COSを持っていた)ということです。したがって、Wからの有名な引用:「もし神が私たちの心を調べていたら、彼は私たちが誰と話していたか(PI p217)を見ることができなかつたでしょう」と、表現の問題全体が「それは彼です」と「..画像に解釈を与えるものは、それがあつた道です。したがって、Wの合計(p140)は、「それが常に最終的に来るものは、それ以上の意味がなければ、彼はそれが起こるべきだという願いを呼び出すということです。私の願いが叶う前に私が望むものを知っているかどうかという疑問は全く起こり得ません。そして、いくつかのイベントが私の願いを止めるという事実は、それがそれを満たすことを意味するものではありません。私の願いが満たされていたら、おそらく私は満足すべきではなかつたのでしょ。う。「私はそれを得る前に私が何を待っているのか知っていますか?」話すことを学んだなら、私は知っている」処分の言葉は、私がCOSと私の精神状態、感情、関心の変化などを満たすと受け入れるPEを指し、性質の機能に関係ありません。

バッドが正しく指摘するように、私は私が表現するCOSに自分自身を取る状態に応じて、希望、希望、期待、思考、意図、望みなどを望んでいます。思考と意図は、反射的なS1筋肉収縮、特にスピーチの収縮によってのみ表現することができるS2の性質である。

Wは、彼が処分に行ったほど感情に多くの時間を費やしたことがないので、第7章に少ない物質があります。彼は、通常、オブジェクトと原因は同じである、すなわち、彼らは因果的に自己参照(またはサールが今好むように因果的自己反射的である)、Sによってさらに発展した概念であると指摘する。私のテーブルを見ると、S2の遅い、真の、または誤った考えよりも、S1の高速で真の唯一の自動化とはるかに共通している感情であることは明らかですが、もちろんS1フィードS2とS1のオートマチズムはしばしば by S2によって変更され、S2の「思考」は自動化され得る(S2A)。

バッドの要約は、本(p165)にふさわしい終わりです。「日常の心理的な言葉に対する『オブジェクトと指定』のモデルの否認-内部プロセスの絵がそのような言葉の文法を正しく表現するという否定は、ウィトゲンシュタインの使用に対する敵意の唯一の理由ではない心理学の哲学における内省のしかし、それが究極の基盤です。

今、私たちはサールの別の用量を取りましょう。

しかし、型作者や脳などの物理システムは、その計算シミュレーションと共有するパターンを特定することによって説明することはできません。...要するに、構文の帰属はそれ以上の因果関係を特定しないという事実は、プログラムが認知の因果関係の説明を提供するという主張に致命的である。物理的なメカニズム、脳、その記述の様々な実際の物理的および物理的/精神的な因果関係があります。新世

「要するに、認知科学で使用される『情報処理』の感覚は、本質的な意図的性の具体的な生物学的現実を捉えるには抽象化のレベルが高すぎます。私たちは、「私は私に向かって来る車を見る」という同じ文が視覚の意図的性とビジョンの計算モデルの出力の両方を記録するために使用することができるという事実によって、この違いが目くらんでいます。認知科学で使われている「情報」という意味では、脳が情報処理装置であると言うのは単に誤りです。サール PNC p104-105

「意図的な状態は、満足の条件を表しています。人々は誤って、すべての精神的表現は意識的に考えなければならないと考えています。しかし、私が使用している表現の概念は機能的であり、トポロジ的な概念ではありません。満足の条件を持つものは、意図的性の特徴である方法で成功または失敗する可能性があり、定義上、その満足の条件の表現です。社会現象の意図の構造を、満足の条件を分析することで分析することができます」サールMSW p28-32

そして、ヴィトゲンシュタインの別のショット。

「哲学は単に私たちの前にすべてを置き、何も説明も推測もしていません。人は名前を付けるかもしれない
すべての新しい発見と発明の前に可能なものに「哲学」。PI 126

「実際の言語を狭く調べるほど、より鋭い言語と要件との間の矛盾が発生します。(論理の結晶性の純度については、もちろん、調査の結果ではなく、要件でした。PI 107

「ここでは、哲学的調査における顕著で特徴的な現象に立ち向かう:難しさは---私は言うかもしれない---解決策を見つけることではなく、むしろそれが予備的であるかのように見える何かを見るほどの誘惑として認識することです。私たちはすでにすべてを言いました。---これから続くものは何もない、これ自体が解決策ではない!...これは、私たちが間違って説明を期待しているのに対し、難易度の解決策は、私たちの考慮事項に適切な場所を与えるならば、説明であると信じています。私たちがそれに住んでいて、それを超えようとしなさい。ゼッテル p312-314

人間の行動に関するすべての議論における主要なテーマは、遺伝的にプログラムされたオートマチズムを文化の影響から分離する必要性である。より高次行動のすべての研究は、高速S1と遅いS2思考(例えば、知覚やその他の自動化と性質)だけでなく、S2の文化への論理的な拡張を引き離す努力です。

サールの研究全体として、to the recent 後のWは、それがS2の意識的な処分提案的

思考に進化したS1の真の唯一の無意識の公理に基づいている方法を示しています。

念頭に置くべきことの1つは、特定のケースで言語がどのように使用されているかについての混乱を解消する以外に、哲学は実用的な影響を及ぼさないということです。様々な「物理的理論」と同様に、他の漫画の人生観(宗教的、政治的、心理的、社会学的、人類学的)とは異なり、小さなフリンジ以上に把握するには脳力と難解すぎるので、その支持者でさえ日常生活の中でそれを完全に無視するほど非現実的です。同様に、社会学、人類学、ポップ心理学、歴史、文学によって広く共有されている標準社会科学モデルのような他の学術的な「生命の理論」と。しかし、大小の政治運動、時には経済学は、物理学や生物学(人間性)を無視する既存の漫画を生成または受け入れることが多く、私たちの迷信(EPデフォルト)を強化する地上または宇宙を強制し、地球に廃棄物を置くのに役立ちます(遺伝子の複製と資源の消費を容易にするためにそこにあるほぼすべての社会慣行と制度の本当の目的)。ポイントは、これらは哲学的な漫画と連続体にあり、同じソース(私たちの進化した心理学)を持っていることを認識することです。私たちは皆、若くて少数の人が成長したときに、人生のさまざまな漫画の見解を生み出す/吸収すると言えます。

また、Wがずっと前に述べたように、接頭辞「meta」はほとんどの(おそらくすべて)文脈で不要で混乱するので、私たちや他の人が信じているか知っていることを考えることは、他の人が何のように考えているかを考えるので、「メタ認知」の場合はどこでも「認知」または「思考」を置き換えることに注意してください。その他、私の用語では「心読み」(私の用語では機関またはUAの理解)と見なされる必要はありません。Sの言葉では、COSは何が考えられているかのテストであり、彼らは「雨が降っている」と同じです、私はそれが雨だと信じています」と「彼は雨が降っていると信じています」(同様に「知っている」、願い、裁判官、理解しているなど)、すなわちそれはそうです雨。これは、処分の「メタ認知」と「心読み」に関して心に留めておく重要な事実です(「提案的態度」)。

今、私のカーラザーズのレビューからいくつかの抜粋のために(C)「心の不透明度」(2013)は、科学に身を包んだ古典的な混乱に満ちています。それは見逃され得ない脳と行動科学(BBS)の前提の対象でした。

BBSの回答の1つは、Cがより高い自己の存在を前提としているため(S2からS1へのハード削減を目的としている)ことを除いて、これらのアイデアを非常に良いと思うデネット(Cの幻想のほとんどを共有している)でした。もちろん、書き、読み、そして何かのすべての言語と概念は、自己、意識、意志(Sがしばしば指摘するように)を前提としているので、そのようなアカウントは、行動に関する最も哲学的で多くの「科学的」な不満を言うことができる、何の価値もなく人生の漫画に過ぎません。W / Sフレームワークは長い間、最初-の人の視点は3人目の視点に対し

てエリミナブルでも還元可能でもないことを指摘してきましたが、これは漫画の人生観にとって問題ではありません。同様に、脳機能や行動の記述を「計算」「情報処理」などと共に、W/S、ハット、リード、ハッカーなどによって数え切れないほど非難された。最悪なのは、満足の条件(COS)としてのSの使用がはるかに最善であると思う、非常に重要だが全く不明確な「表現」です。つまり、「雨が降っていると思う」という表現は、雨が降っているCOSです。

最も悲しいのは、C(デネットやサールのような)は、彼が彼のキャリアの早い段階で彼を研究し、私立言語の議論が「行動主義」として拒否されることを決めたWの専門家であると考えていることです!Wは有名な行動主義を拒絶し、彼の仕事の多くは、それが行動の記述として役立つことができない理由を記述することに専念しています。「あなたは本当に変装した行動主義者ではないのですか?あなたは本当に人間の行動以外はすべてフィクションであると言っていないですか?私がフィクションについて話すなら、それは文法小説です。(PI p307)また、現代の「計算機」の形でCの実際の行動主義を指すこともできます。W/Sは、Cが「I」または「自己」を使用したBBS記事のDに謝罪している間、最初の人の視点の不可欠性を主張します。

ハットは、私がDとC(チャーチランドや他の多くの人と一緒に)を同じページに連れて行くので、Cをチャラクトするのに役立つWとデネット(D)の間の広大な溝を示しました。Sは、様々な文章でDを解体した多くの人の一人であり、これらはすべてCに反対して読むことができます。そして、Wが行動する言語の例に固執していることを思い出しましょう。そして、彼が主に従うのが非常に簡単なポイントを得ると、Cは「理論」(すなわち、明確なCOSのない多数の文章を連鎖させる)に魅了され、特定の言語ゲームを気にすることはめったになく、決定的な方法で解釈することが非常に困難な実験や観察を好む(BBSテーブル応答を参照してください)、いずれにせよ行動のより高いレベルの記述に関連性はありません(彼が決定的(記憶と計算脳)として賞賛する1冊の本は、脳を計算情報プロセッサとして提示しています- 1930年代のWを含むSや他の人たちによって徹底的かつ繰り返し全滅したソフォモリックな見解。過去10年間で、私はWについて何千ものページを読みましたが、Cが手がかりを持っていないことは明らかです。この中で彼はWの読書が実を結ばなかった著名な哲学者の長い列に加わる - ラッセル、クイン、ダメット、クリプケ、デネット、パットナム、チョムスキーなど(パットナムは後で光を見始めたが)。彼らは、ほとんどの哲学が文法的なジョークと不可能なビネットであるというメッセージを理解することはできません- 人生の漫画のビュー。

2つの科学や2つのレベルの説明を橋渡ししようとする「心の不透明さ」のような本は、本当に2冊の本であり、1冊ではありません。私たちの言語と非言語的な行動、そして認知心理学の実験の記述(Wが明らかにしたように説明ではない)があります。「実験法の存在は、私たちが問題を解決する手段を持っていると思う。しかし、問題と方法は互いに渡し合う。(WPI p232)、Cet alは科学に魅了され、神経

科学と実験心理学に高レベルの記述心理学を取り除くために大きな進歩であると仮定していますが、W/Sや他の多くの人はこれが間違いであることを示していません。行動の記述を科学的かつ明確にするどころか、それは支離滅裂になります。そして、ロック、カント、ニーチェ、ヒューム、ヴィトゲンシュタイン、サルらは、実験科学なしでそのような思い出に残る行動の説明を与えることができたのは、神の恵みによるものだったに違いない。もちろん、政治家のように、哲学者はめったに間違いを認めたり黙ったりすることはないので、これはWが完全に診断した理由で続くでしょう。一番下の行は、私たちの日常生活の中で何が有用で、何が理にかなっているものでなければなりません。私は、CDC(カーラザーズ、デネット、チャーチランド)の哲学的見解は、W/Sのものとは対照的に、役に立たないことを示唆し、自己と意識が幻想であるという究極の結論は全く意味をなさない、すなわち、明確なCOSを持たない。認知科学に関するCDCのコメントがヒューリスティックな価値を持っているかどうかはまだ決定されていない。

この本(他の著作の巨大な体のように)は、他の動物のHOTを割引し、脳機能への行動を減らそうとします(心理学を生理学に吸収する)。哲学は大惨事ですが、BBSの多くの批判を最初に読んでいけば、最近の心理学と生理学に関する解説が興味を持つかもしれません。デネット、チャーチランド、そして他の多くの人々がそうであるように、Cは彼の本当の宝石を最後まで明らかにしません。デネットは、これらの「迷信」(つまり、全く説明しないという通常の哲学的な動きを行い、実際には説明していない)を説明するためにS、Huttoらのマスクを外さなければならなかったが、驚くべきことにCは最初にそれを認めるが、もちろん彼は彼が示していると思うが私たちはこれらの言葉は、私たちが考えているものを意味するものではなく、彼の漫画の使用は有効なものです。

また、「神経科学の哲学的基盤」(2003年)におけるベネットとハッカーの認知科学批判と、「神経科学と哲学」(2009年とダニエル・ロビンソンの最後のエッセイをお見逃しなく)でのSとデネットとの議論を見るべきです。また、ハッカーの最近の3冊の著書「人間の性質」でもよく探求されています。

化学物理学と物理化学に関する本は長い間ありましたが、両者が融合する兆候はなく(一貫した考えでもありません)、化学が生化学を吸収したり、生理学や遺伝学を吸収したり、生物学が消えたり、心理学や社会学などを排除したりする気配はありません。これは、これらの分野の「若者」によるものではなく、全く異なる概念、データ、説明メカニズムを持つ記述の異なるレベルであるという事実によるものです。しかし、物理学の羨望はパワーF1であり、我々はちょうど物理学、数学、情報、計算の「精度」と高いレベルの曖昧さに抵抗することはできません。それは可能でなければなりません。還元主義は、量子力学の理解不能さ、不確実性、波/粒子、生きた/死んだ猫、量子もつれ、数学の不完全さとランダム性にもかかわらず繁栄する(Godel/Chaitin - ヤノフスキーの「理由の外側の限界」と抜粋の私の完全なレビューを参照してください)繰り返しますが、Wからのひどく

必要な新鮮な空気の息:「論理の結晶性の純度のために、もちろん、調査の結果ではありませんでした:それは要件でした。PI p107.行動に関するほとんどの本を投げ捨て、WとSを読み直すことに抵抗するのは難しいです。ただ、より高い順序の動作を「説明」しようとしているものから、例えばPI http://topologicalmedialab.net/xinwei/classes/readings/Wittgenstein/pi_94-138_239-309.htmlからのこれらの引用にジャンプするだけです。

過去10年間に1万ページの哲学を読んだ後、普通の言語が意図的にも不注意にも特別な使用に変貌するこの種のより高いレベルの記述心理学を行おうとする試みは、本質的に不可能であることは明らかです(すなわち、哲学やその他の行動規範の正常な状況)。特殊な専門用語(例えば、利下げ、リアリズムなど)を使用しても、狭い定義を強制する哲学警察はなく、それらが何を意味するのかという議論が間接的であるため、うまくいきません。ハッカーは良いですが、彼の文章はとても貴重で密なので、しばしば痛いですが、サールは非常に良いですが、彼の用語を受け入れるためにいくつかの努力を必要とし、いくつかの厄介な間違いを犯しますが、Wは彼が何をしているのかを把握すると、最も明確で洞察力のあるミスを犯し、誰も彼をエミュレートすることはできませんでした。彼のTLPは、生命の機械的還元主義者の見解の究極の声明のままですが、彼は後に彼の間違いを見て、「漫画の病気」を診断し、治癒しましたが、ポイントを得て、最も単純に彼と生物学を無視する人はほとんどいないので、何万冊もの本と何百万もの記事とほとんどの宗教政治団体(そして最近まで経済学のほとんど)とほとんどすべての人々の人生の漫画の見解を持つ人々があります。しかし、世界は漫画ではないので、人生の漫画的見解(例えば、社会主義、民主主義、多文化主義)が現実と衝突し、普遍的な失明と利己主義が文明の崩壊をもたらすので、大きな悲劇が繰り立てられています。

すべての基本的な行動と同じ理由で心の機械的な見方が存在することは、私には明らかです - それは私たちが意図的に何をゆっくりと考えることができるかという点で説明を求める私たちのEPのデフォルトの操作ですは、自動化されたS1ではなく、ほとんど気づかないままです。

しかし、ほとんどの行動が機械的であり、現象学的錯覚はサールが述べているよりもはるかに大きな範囲であることは事実です。高速道路で車を運転し、突然S2の意識に戻って、私が運転の意識的な意識を持って数分間運転したことに驚いたのは、私にとって最も印象的です。反省の上で、この自動化は、S2からの最小限の監督と意識だけで、私たちの行動のほとんどすべてを占めるのが見られます。私はこのページを書いています、何を言えればいいかについて「考える”(つまり、しばらく時間を過ごしましょう)する必要がありますが、それを入力する方法は私の手に流れ出るだけで、特定の文を変更することを考える場合を除いては驚きです。そして、あなたは静かに座ってページのこの部分を見るためにあなたの体にコマンドを与えることを読んで、言葉はちょうどあなたに流れ込み、何らか

の理解と記憶が起こります,が、あなたが文章に集中しない限り、何かをする漠然とした感覚しかありません。サッカー選手はフィールドを駆け下り、ボールを蹴り、何千もの神経インパルスと筋肉の収縮が目の動きと巧みに調整され、プロプリオセプティブとバランス器官からのフィードバックが発生しましたが、結果のコントロール感と高レベルの意識しかありません。S2は彼のオフィスに座っている警察署長ですが、S1は彼がほとんど知らない法律に従って実際の仕事をしている何千人もの役員を持っています。読書、書き込み、サッカーは、上から見た自発的な行為A2,ですが、下から見た何千もの自動行為A1で構成されています。現代の行動科学の多くは、これらの自動化に関係しています。

サールのPNC「フェノメノロジカル錯覚」(TPI)の少なくとも第6章を読むことをお勧めします。TPIがS1の自動化に気づかず、S2のゆっくりとした意識的思考を一次的なものではなく、すべてあるものとして取り入れているのはクリスタルとして明らかです。これは古典的なブランクスレート失明です。また、Wが約60年前にこれを示し、インナーの源である私たちの初期のシステム1の真の唯一の無意識の自動公理ネットワークの優位性の中でその理由を与えたことも明らかです。非常に大まかに、S1またはInnerとしての世界の「オブザーバー独立」機能、およびS2またはOuterとしての「オブザーバー依存」機能に関しては、非常に明らかであるべきです。サールが指摘するように、月名学者はオントロジーを正確に後ろ向きに持っていますが、もちろんEPのデフォルトのためにほとんどすべての人がそうします。

綿密な研究に値するWのもう一つの優れた作品は、ジョンストンの「ヴィトゲンシュタイン:内面を再考する」(1993年)です。彼は、私たちのレポートや思い出が本当にテストできない場合、彼らは価値を持たないだろうと反対する人もいと指摘していますが、「この異議は、実際に起こったことと個人が言うことは2つの異なるものであると仮定しているため、Wの議論の全体のポイントを逃します。しかし、私たちが見てきたように、心理的な記述の文法は、後者が前者の基準を構成することを意味します。私たちが彼女の顔に集中した表情を持つ人を見て、「彼女の中で何が起きているのか」を知りたい場合、彼女は複雑な合計への答えを解決しようとしていることを私たちに伝え、彼女は私たちが知りたいことを正確に教えてくれます。彼女の誠実さにもかかわらず、彼女の声明が彼女が何をしているのか(または何をしていたか)の不正確な記述であるかどうかという問題は生じません。ここでの混乱の原因は、心理的概念が外部の出来事を記述するために使用される概念の文法とは異なることを認識しなかったことです。内面がとても神秘的に見えるのは、ある概念を別の概念の観点から理解しようとする誤った試みです。実際、私たちのインナーの概念は、「彼女の中で何が起っていたのか」という話をするときの意味は、神秘的な内部プロセスではなく、個々の彼女の経験を提供するアカウントにリンクされています。プロセスや出来事として、個人の内部で起きていることは興味がない、またはむしろ純粹に医学的または科学的な関心事である」(p13-14)。

「内部プロセスの概念に対するWの攻撃は、反対にアウターだけが問題であることを意味するものではありません。発話の本質を引き出すことによって、彼は私たちが行動に興味を持っているだけではないという事実を強調しています。私たちは、その人の体がそのような立場にあったこと、そして彼女の特徴がそのような方法で配置されたことを知りたいだけではありません。むしろ、私たちは、この行動の背後にあるものの彼女の説明に興味があります。(p16-17)

私的なルールや私言語の不可能に関するWの推論をレイアウトする際に、彼は「しかし、本当の問題は、単に彼女がルールを定めることができないということではなく、原則としてそうすることができなかったということです。要するに、公にチェックできる手続きがなければ、彼女はルールに従うのと、単にルールに従っていると思うだけで区別できないということです。

p55上でジョンストンは、ビジョン(この他の文脈でWとSによって何度も行われてきた)に関して、アウターの議論は、私たちの直接の最初の人の経験の挑戦不可能な性質に非常に伝わらないために完全に依存していることを指摘します。マインド、意志、感覚、世界に関するシステム2懷疑的な疑念は、システム1の真の唯一の確実性なしに足場を得ることができず、あなたが今これらの言葉を読んでいるという確信は判断の基礎であり、それ自体が判断できるものではありません。この間違いは、すべての哲学の中で最も基本的で一般的なものの1つです。

p81では、通常の場合、あなたが考えたものや感じているものなど、あなたの処分に関するあなたの声明(しばしば混乱して「提案的態度」と呼ばれる)をチェックすることが不可能であることを指摘しています。は、まさにこれらのステートメントに関心を与えるものです。「私は疲れている」は、あなたの遅い動きやあなたの目の下の影など、アウターに関する別のデータを私たちに与えるのではなく、あなたがどのように感じているかを教えてください。

ジョンストンはその後、意味や理解(およびすべての性質)がスピーチに伴う経験であるという考えのWのデバンキングを説明する優れた仕事をします。Wが指摘したように、あなたが理解していると思うケースを考え、意味、理解、思考、信じ、知ることなどへの内なる経験の無関係を見てください。重要な経験は、私たちが参加する公用語ゲームの意識です。同様の考慮事項は、「思考の雷の速度」の問題を解消します。「重要なのは、思考はプロセスや経験の連続ではなく、意識的な存在の生活の側面であることを認識することです。思考の雷の速度に対応するのは、彼女が何をしているか、何を言っているのかをいつでも説明する個人の能力です。(p86)。そして、Wが言うように、「または、文の始まりと終わりを思考の始まりと終わりを呼び出す場合、この間に制服であると考えた経験について言うべきか、それとも文章を話すようなプロセスなのかは明らかではないそれ自体」(RPP2p237)。

繰り返します:「個人は、彼女が何を意図し、彼女が何を意味したのか、彼女のアカウントと同じ文法を持っていると思ったのを説明します。私たちが興味を持っているのは、彼女が与える傾向がある過去の説明であり、彼女がアカウントを与えることができるという仮定は、彼女を意識的に見ることに関与するものの一部です」(p 91)。つまり、これらすべての処分動詞は、私たちの意識的で自発的なS2心理学の一部です。

「内面の複雑さ」では、インナーを伝える最善の方法はアウターを指すことであるというのは皮肉なことだが、自然でやむを得ないのは、と言えるだろう。私語もテレパシーもないので、筋肉を収縮させるだけで、最も効率的で深いコミュニケーションは口腔筋肉(音声)を収縮させることです。Wがいくつかの文脈でコメントしたように、私たちが最も純粋な形で言語(思考)を見るのは演劇(または現在テレビや映画)です。

私たちがそれらを変更または忘れない限り、意図するような性質は、したがって、正確な持続時間だけでなく、強度のレベルを欠いているため、内容は決定であり、正確な精神状態ではないので、これらすべての点で、彼らはS1とは全く異なっていますS1感情のような知覚、記憶、反射的な反応。

S1とS2の違い(私が言ったように、これはまたはWが利用できる用語ではなかった)は、処分動詞の非対称性にも見られ、最初の人「私は信じる」など、真のみの文章と第三者は、真または虚偽の証拠に基づく命題である「彼が信じる」などを使用します。「雨が降っていないと思う」とは言えませんが、「雨が降っていてそうではなかったと信じていた」や「彼は雨が降っていると信じていて、そうではない」などの他の時制は大丈夫です。Jが言うように:「ここでの問題の中心にある一般的な問題は、個人が彼女自身の性質を観察できるかどうかです。このパラドックスを明確にする鍵は、彼女自身の心の状態の個人の記述も間接的に状況の記述であることに注意することです。言い換えれば、彼女がPを信じていると言う人は、それによってP自体を主張することにコミットしています。その理由は、個人が彼女の信念を守ることができないのは、それに対して中立的または評価的なスタンスを採用することによって、彼女はそれを損なうからです。「雨が降っていると思うけど、そうではない」と言った人は、それによって彼女自身の主張を損なうだろう。Wが指摘するように、動詞が誤って信じることを意味する動詞が示唆的な最初の人を欠いているのと同じ理由で、動詞の第三者の使用に相当する第一人者は存在しません。2つの命題は、「これが私の中で起こっているという主張:これは私の外で起こっている」(RPP1 p490)(p154-56)のために独立していません。WやJはコメントしていませんが、子供たちが「キャンディーが欲しいが、欲しいとは思わない」などの間違いを決して犯さないという事実は、そのような構造が私たちの文法(私たちの遺伝子に)組み込まれており、文化的なアドオンではないことを示しています。

その後、彼はWを引用して別の視点からこれを見て、「私が何を信じているかを知っているとき、私自身の言葉から私の行動に私の結論を引き出すポイントは何でしょうか?そして、私が信じていることを知っていることの現れは何ですか?私は私の言葉から私の行動を推測しないことは、この中で正確に現れていないのですか?それが事実です。

(RPP1 p744)。もう一つの言い方は、S1は認知のための公理的真の唯一の基礎であり、真実と虚偽を決定するための非提案的な基質として、明確に判断することができないということです。

彼はLGの(私たちの心理学の中で)の変動に関する重要なコメントで章を終え、私はそれが慎重に読むことをお勧めします。

ジョンストンは「内なる/外側の絵」で議論を続け、その多くはW.からの引用で要約されています。そして、それは彼がそれに表現を与えるという意味で所有者から隠されていません、そして、我々は、特定の条件下で、彼の表現を信じて、そこにエラーは場所がありません。そして、ゲームのこの非対称性は、インナーが他の人に隠されている文で表現されています。(LWPP2 p36)。Jは続ける:「問題は、内側が隠されているのではなく、それが含む言語ゲームは、私たちが通常知識について話すゲームとは大きく異なっているということです。そして、彼は生涯を通じてWの主要なテーマの1つである人間と機械の違いに入ります。「しかし、人間では、メカニズムについての洞察を得ることは不可能であるという仮定です。したがって、不確実性は仮定されます。私は、予測不能は内面の本質的な特徴でなければならないと信じています。表現の無限の多様性も同様です。(RPP2 p645およびLWPP2 p65)。繰り返しますが、Wは動物とコンピュータの違いを調査します。

Jは、私たちのLGの不確実性は欠陥ではなく、私たちの人類にとって重要であると指摘しています。繰り返しますが、W:証拠が単に感情(そしてインナー)を単に可能性のあるものにするのではなく、これを重要な何かの証拠として扱うこと、この関連する証拠に基づいて判断を下し、そのような証拠が特別なものになるようにすることです。私たちの生活の中で重要であり、概念によって顕著にされています。(Z p554)。

Jは、この不確実性の3つの側面は、固定基準の欠如または意味の細かい色合い、内なる状態の結果の厳格な決定の欠如、および私たちの概念と経験間の固定された関係の欠如であると考えています。W:「内なる状態の本質的な観察可能な結果が何であるかを言うことはできません。例えば、彼が本当に喜んでいるとき、その後、彼に何が期待され、何が期待されていないのですか?もちろん、そのような特徴的な結果はありますが、物理的な物体の状態を特徴づける反応と同じように

記述することはできません。(LWPP2 p90)。「ここで彼女の内なる状態は、我々は外側のベールを貫通することができないので、私たちが知ることができないものではありません。むしろ知ることは何も確定していない。(p195)。

彼の最後の章では、彼は私たちのLGが科学的進歩に関係なく変わる可能性は低いと指摘しています。「脳活動の研究は人間の行動のより信頼できる予測変数であると考えられますが、人間の行動を理解することは、意図に関する言語ゲームに関わるものと同じではありません。科学者の発見の価値が何であれ、実際にどのような意図が存在するのかを明らかにしたとは言えない。(p213)。

この不確定性は、脳の状態と性質の相関はありそうもないという考えにつながります。「ここでの難しさは、一つの思考の概念は非常に人工的な概念であるということです。トラクタトゥスには何の考えがありますか?そして、そのための基本的なアイデアがWを打ったとき、それは一つの考えやそれらの発疹でしたか?意図の概念は、同様の問題を作成します。これらの後続の声明はすべて、元の思考の増幅または説明と見なすことができますが、これは脳の状態にどのように関連していると考えられるのでしょうか?私たちは、それも思考に関するすべての可能な質問に対する答えを含むことを想像していますか?私たちは、2つの有意に異なる考えが同じ脳状態と相関していることを許可する必要があります。ある意味では言葉は交換可能であり、別の意味では交換できないかもしれない。これは、脳の状態と思考を相関させようとする試みに問題を生み出します。2つの考えは、ある意味で同じで、別の意味で異なるかもしれません。したがって、一つの思考の概念は脆弱で人工的なものであり、そのために脳の状態との1対1の相関関係について話すことができる意味を見るのは難しいです。(p218-219)。つまり、同じ考え(COS)「雨が降っている」は、1人または多くの人々の脳状態の無限の数を表しています。同様に、「同じ」脳状態は異なる文脈で異なる考え(COS)を表現するかもしれません。

同様に、Wは記憶が神経系の痕跡で構成されることを否定する。「ここでは、仮定されたトレースは、時間を推測するために内部時計を参照するよりも、トレースから何が起こったのかを推測する必要がないため、内部時計のようなものです。次に、読み取り中にマークを書き留める男性のW(RPP1 p908)の例に注意し、マークなしではテキストを繰り返すことはできませんが、ルールによってテキストに関連していません。「テキストはジョッティングに保存されません。そして、なぜそれは私たちの神経系に保存する必要がありますか?人々がいつか生理学的または特定の思考や記憶の特定の考えに対応する神経系のいずれかにコピーが存在しないという明確な意見に来ることは私にとってもっともらしいものではないようです」(LWPP1 p504)。これは、生理学的規則性が対応しない心理的規則性が存在する可能性があることを意味します。そして、Wが挑発的に「これが因果関係の概念を動揺させるならば、それは彼らが動揺した時です」と付け加えます。(RPP1 p905) ...なぜシステムの初期状態と終末期状態は、仲介状態をカバーしない

自然法則によって接続されるべきではありませんか?(RPP1 p909) ..[それは非常に可能性が高い]脳のプロセスは、脳のプロセスから思考プロセスを読み取ることは不可能であるように、関連付けや思考と相関するプロセスはありません。なぜこの秩序は、いわば混乱から抜け出すべきではないのですか?...それは、無理由であった。そして、これが本当に私たちの考え、したがって私たちの話し書きのために保持されるべきではない理由はありません。(RPP1 p903).しかし、ここに生理学的な説明がある必要がありますか?説明を一人にしておいたらどうですか。-しかし、あなたがマシンの動作を調べているなら、あなたはそのような話をすることはありません!-生物、動物の体は、この意味で機械であると誰が言う?(RPPI p918)(p 220- 21)。

もちろん、これらのコメントは様々に受け入れることができますが、一つの方法は、Wがカオス理論の台頭、身体化された心と自己-生物学の組織を予測することです。不確実性、混乱、予測不能は現在、亜原子から分子規模、惑星ダイナミクス(天候など)や宇宙論の標準的な教義であるため、なぜ脳は例外でなければならないのでしょうか?私が見たこれらの発言に関する唯一の詳細なコメントは、ダニエレ・モヤル・シャーロック(DMS)の最近の論文にあります。

Wの観察は、言語学、哲学、心理学、歴史、人類学、政治、社会学、芸術など、行動のすべての研究の基本であるが、彼は例外を除いて、ほとんどの本や記事で言及されていないのは非常に顕著ですほとんど言うまでもありませんが、そのほとんどが歪んだり、平らな間違ったりしています。少なくとも哲学には最近の関心があふれており、おそらくこの非常識な状況は変わるでしょうが、おそらくそれほど多くはありません。

ハッカーの最近の著書「人間の性質」(2011年)の第7章のS1原因とS2の理由の論理的(心理的)違い、特にp226-32の議論は、行動の学生にとって非常に重要です。「原因」は正確な論理的に正確な用語であり、「理性」はそうではないが、Wはこれを何度も暴露したというほぼ普遍的な妄想である。もちろん、同じ問題はすべての科学のおよび数学的な概念で発生します。そしてもちろん、「行動」「条件」「満足」「意図」、さらには「前者」「真実」などは、30年代初頭にBBBで美しく説明されたWとして私たちをトリップできる複雑な言語ゲームであることを常に念頭に置く必要があります。

サールは最近の著書『現実世界について考える』(TARW)(2013)の中で多くの興味深い発言をし、私は唯一のレビューを書いたようですので、ここで詳しく説明します。

TARWのp21では、私がSの作品の中で最も明白な欠陥と見なすものに再び遭遇し、ずっと前に取り除かれていたはずのものは、彼が後のWと彼のコメントーターをより慎重に読んでいた。彼は自由意志を私たちがあきらめなければならないかも

しれないという「仮定」と呼んでいます!私たちの生活のすべての現象は、私たちの行動の公理的基盤を判断するための基礎であり、それらを判断する可能性がないのは、Wから明らかです。私たちは両手を持っているか、地球の表面に住んでいるか、マドンナが歌手であると「仮定」することはできますか?おそらく、この巨大な間違いは、私が指摘した真の唯一のS1と命題S2の彼のブレンドに関連しています。彼は他のほとんどすべてを正しく取得し、これにつまずくことができることは驚くべきことです!

p22や他の場所では、彼は1991年の論文「フィル・イシュー」で最初に議論した無意識の意図的性の概念を使用し、これらは意識的になる可能性のあるもの(例えば、夢)であると述べています。Wは、あなたが無意識の考えについて話せない場合は、意識的なもの(BBB)について話すこともできないというこのことに最初にコメントしたと思います。彼の作品を通して、彼はS1 / S2の概念を使用していないため、物事をまっすぐに保つことが非常に簡単になり、彼はまだ非常に非ウィトゲンシュタインの専門用語にふける必要があると感じています。例えば、「一度、操作可能な構文要素を持つと、非構文的に構造化された表現要素の剥離を行うことは不可能な方法で、知覚と記憶の形で、その直接的な原因から意図的性を切り離すことができます。(p31)は、言語が来たS2の処分的な意図的性が来たと言うだけで、意識的な思考と理性(すなわち、言語で表現可能な潜在的な公共の行動)が可能になった。

理由と欲望について (p39) ここで他の場所と彼の他の作品の私のレビューを参照してください。

Sが精神状態としての処分に対する継続的な言及と、COSとの表現(実際にはここでの「プレゼンテーション」)としての精神状態への彼の推論は、(私の見解では)逆効果である。例えば、p25では、私たちが見るリングはCSRのCOSであり(因果的自己反射的に組み込まれている)リングの認識とかゆみの反射的無意識の傷は腕の意図的な計画的な動きと同じステータス(すなわちCOS)であると言いたいと思っています。したがって、S1の精神状態はCosとしてS2の行動に含まれるようにする。私はSのオントロジーと認識論のほとんどを受け入れますが、私はこれの利点を見ていませんが、私は彼を最大限に尊敬しているので、私はそれに取り組む予定です。私は彼が精神的な状態として信念を参照しているように見えるp29で行うS1とS2を混ぜる彼の傾向(他の人にとっては普通ですが、サールの欠陥)を指摘しました。30年代のWのBBB以来、S2はS1の感覚のようなもので精神的な状態ではないことを私には非常に基本的で明確に思えます。我々は常にS1とS2の言語ゲームの違いを明確にしておく必要があるので、彼がS1を参照して信念のゲームを使用することを主張するならば、B2がシステム2の公共言語行為に言及して使用される「信念」という言葉であるB1とB2を指すならば、それははるかに明確です。

p25の「なぜなら」の始まりの段落は、S1の真の唯一の無意識の知覚、記憶と反射

的行為、すなわち進化した心理学(EP)の公理的自動機能について議論しています。前述のように、ハットとミインの著書「エナビズムの過激化:コンテンツのない基本的な心」(2012年)とand their sequel、S1の非表現的または活発な性質の非常に異なる最近の説明の続編を読むことができます。

p26の意図的な表は、彼が何十年も使用してきたものを更新し、私は上記の拡張テーブルの基礎として使用してきました。

ほぼ半世紀前、Sは行動の理解における革命的な進歩であった「どのように派生すべきか」を書きました(しかし、Wを理解している場合はそうはならない)。彼は行動の自然主義的な記述を開発し続けており、p39では倫理が私たちの生来の社会的行動と言語にどのように由来するかを示しています。基本的な概念は、彼の様々な本で説明されている行動のための欲望独立理由(DIRA)です。概要については、彼のMSWと他の作品の私のレビューを参照してください。彼はS2の近位の理由(すなわち、性質心理学と文化)を使用して分析を枠組みにする傾向がありますが、すべての行動と同様に、S1の最終的な原因が含まれなければ表面的なもののみみなされますので、DIRAをDIRA1とDIRA2に分割します。これにより、相互利他主義と包括的なフィットネスの無意識のメカニズムの観点から説明が可能になります。したがって、私はp39の最後の文を述べるだろう。人々は倫理的配慮を勝ち取ることによって自然な傾向を上書きするように求められます。相互利他主義と包括的なフィットネスを通じて長期的な遺伝的利益を確保するために、人々は即時の個人的利益を上書きせざるを得ない」

Sの忘却(彼はほとんどの哲学者と共有している)現代の2つのシステムフレームワークに、そして彼の最後の作品「確実性について」で最も劇的に述べたようにWの「過激な」認識論の完全な意味合いは、最も残念です(私は多くのレビューで指摘しています)。2つのシステムを記述する最初の最高の仕事をしたのはWであり(他の誰も気づいていないが)、OCは知的歴史の中で大きな出来事を表している。Sは、彼のフレームワークがWの簡単な継続であるという事実を知らないだけでなく、他の誰もこの本のWへの重要な参照の欠如を説明しています。いつものように、表面的な近位文化的なものではなく、本当の究極の進化的および生物学的説明を提供することによって行動のすべての議論を啓発することができるEPとの明らかな知り合いも指摘しない。

したがって、p202の感覚('経験')を記述する2つの方法についてのSの議論は、赤を見たり痛みを感じたりすることが自動真のみのS1であることを認識すれば、私の見解では非常に明確です。しかし、意識的にそれに参加するとすぐに(ca.500ミリ秒以上)、それは言語(および他の身体筋収縮)で公に表現することができる「見る」と命題(真または偽)S2機能になります。したがって、赤や痛みと同じS1の「経験」と赤や痛みのS2の「経験」は、それを反映し始めると、通常は1つの「経験」と一緒にブレンドされます。私にとって、これらの問題を理解するのに最適な場所

は、BBBで始まり、OCで終わるWの文章の中で、他の誰もそのような明確さで言語ゲームの機微を説明したことがない。「間違い」「真」「経験」「理解する」「見る」「同じ」などの曖昧さと複数の意味を常に念頭に置かなければなりません、Wだけがそれを行うことができました。そして、それは些細な問題ではありません - 真の唯一の判断不可能なS1を提案S2から分離するp202のすべてを明確に再表示できない限り、混乱することなく行動について何も言えません。もちろん、非常に頻繁に(つまり、通常)単語は明確な意味を持たずに使用され、この文脈で「true」または「フォロー元」または「参照」がどのように使用されるかを指定する必要がある、Wは私が一貫してこの権利を得ている唯一の人です。

繰り返しますが、p203-206では、本質的に意図的な自動因果関係の迷彩の議論 *intentionality* は、生物学的進化の観点から(そして他に何が存在する可能性がある)意図的に意識的なS2の性質のための原料を提供するS1状態を記述する別の方法として見ているので、私には理にかなっていません。したがって、p212に関する彼のコメントはお金に正しいです - 究極の説明(またはWが説明を主張しているように)は、心、意志、自己、意図がどのように機能するかを記述し、それらを意味的に「本当の」現象として排除することはできません。「意識が説明した」と題されたデネットの「意識説明」のSの有名なレビューを思い出してください。そして、これはSが私たちが自由意志を持っているかどうかはつきりとは分からないし、私たちが自己(p218-219)を「ポステーツ」しなければならないことを繰り返し述べるべきであることを、より奇妙にします。

また、私は再びSが間違った軌道に乗っていると思います(p214)、混乱は、私たちの心理学のデフォルトに対する普遍的な感受性ではなく、二元主義、理想主義、唯物論、エピフェノメリズムなどの哲学の歴史的過ちによるものだと示唆しています。「神経生物学的プロセスと精神現象は同じ事象であり、異なるレベルで記述されている」「意識的意図はどのように身体運動を引き起こすのか?...ハンマーは固体であることのおかげでどのように釘を動かすことができますか?...どのような固体性が因果関係にあるかを分析する場合、どのような意図が因果関係にあるかを分析すると、哲学的な問題が残っていないのが類似しています。

私は彼のコメント(p220)を翻訳します "発言者は、参照式の発話の中で、その発言者がオブジェクトが満たしていることを示す条件を導入している場合にのみ、参照する式を使用することができます。そして、その条件の満足のおかげで参照が達成される」として、「意味は、公的に検証可能な満足条件(真実の状態)を述べることによって達成される」雨が降っていて、そうでなければ偽りなら、「雨が降っていると思う」は本当です。また、私の議論の中心は、一般的に理解されているように、私たちの言語慣行は、私たちの表現とは独立して存在する現実を前提とすることです。(p223)「私たちの人生は、私たちの存在に依存せず、分かりやすい挑戦をすることができない世界を示しています。

いくつかのより多くの引用と彼の最近の復刻の本の議論のための時間 '新世紀の哲学'(2008)と他の場所として、私は別の文脈でそれらを配置するためにいくつかのコメントを繰り返します。

「機械プロセスは思考プロセスを引き起こす可能性がありますか?答えは:はい。実際、機械プロセスだけが思考プロセスを引き起こす可能性があります、「計算」はマシンプロセスに名前を付けず、マシンに実装できるプロセスを挙げてください。サール PNC p73

"...計算としてのプロセスの特性は、外部からの物理システムの特性です。そして、計算としてのプロセスの識別は、物理学の本質的な特徴を特定するものではなく、本質的に観察者の相対的特徴である。サール PNC p95

「中国語の部屋の議論は、セマンティクスが構文に固有ではないことを示しました。私は今、構文が物理学に固有ではないことを別々に異なる点にしています。サール PNC p94

「物理学に固有の構文を得る唯一の方法は物理学にホムンクルスを入れるだけなので、再帰分解によるホムンキュラスの誤りを排除する試みは失敗します。サール PNC p97

しかし、型作者や脳などの物理システムは、その計算シミュレーションと共有するパターンを特定することによって説明することはできません。...要するに、構文の帰属はそれ以上の因果関係を特定しないという事実は、プログラムが認知の因果関係の説明を提供するという主張に致命的である。物理的なメカニズム、脳、その記述の様々な実際の物理的および物理的/精神的な因果関係があります。サール PNC p101-103

「要するに、認知科学で使用される『情報処理』の感覚は、本質的な意図的性の具体的な生物学的現実を捉えるには抽象化のレベルが高すぎます。私たちは、「私は私に向かって来る車を見る」という同じ文が視覚の意図的性とビジョンの計算モデルの出力の両方を記録するために使用することができるという事実によって、この違いに目がくらんでいます。認知科学で使われている「情報」という意味では、脳が情報処理装置であると言うのは単に誤りです。サール PNC p104-105

「理由文で報告された事実の性質と、エージェントの欲望、価値観、態度、評価とは無関係に合理的なエージェントに拘束力のある行動の理由はありますか?...伝統的な議論の本当のパラドックスは、ヒュームのギロチン、厳格な事実価値の区別を語彙で提起しようとするということです。サール PNC p165-171

"...すべてのステータス機能、したがって、言語を除くすべての制度的現実、宣

言の論理的な形式を持つスピーチ行為によって作成されます。問題のステータス機能の形態は、ほとんど常に脱イオン力の問題です。何かを権利、義務、義務、要件として認識することは、行動の理由を認識することです。これらの脱イオン構造は、可能な欲望に依存しない行動の理由を作ります。一般的なポイントは非常に明確です:行動のための欲望ベースの理由の一般的な分野の作成は、行動のための欲望に依存しない理由のシステムの受け入れを想定しました。サール PNC p34-49

「意図的性の最も重要な論理的特徴のいくつかは、即時のフェノメノロジーの現実を持っていないので、フェノメノロジーの手の届かないところにあります。なぜなら、無意味さから意味を作ることは意識的に経験されていないからです。存在しません。これは。。。」「と、表見上の錯覚を見る。サール PNC p115-117

「意識は脳のプロセスに対して因果関係を低下させる。そして意識は、基礎となる神経生物学の因果関係に加えて、それ自身の因果関係を持っていません。しかし、因果関係の還元性は存在論的還元性につながりません。意識は経験としてのみ存在する。したがって、第三者のオントロジーを持つもの、経験とは独立して存在するものに減らすことはできません。サール PNC 155-6

"...心と世界の基本的な意図的な関係は、満足の条件と関係があります。そして、命題は、世界との意図的な関係に立つことができるものであり、それらの意図的な関係は常に満足の条件を決定し、命題は、条件を決定するのに十分なものとして定義されます満足して、すべての意図的性は命題の問題であることが判明しました。サール PNC p193

Sは言わず、ほとんど気づいていないようですが、彼の作品の大部分は、彼をししばしば批判しているにもかかわらず、Wの作品から直接続きます。サールがWの仕事が続けてきたと言うことは、それがW研究の直接的な結果であると言うことではなく、人間の心理学が1つしかないの(同じ理由で人間の心臓病学が1つしかないの)、行動を正確に記述する人は誰でもボイスイングしなければならないということですWが言ったことのバリエーションまたは拡張(彼らは両方とも行動の正しい説明を与えている場合に必要)。私はSのほとんどがWで予見されている、ストロングAIに対する有名な中国の部屋の議論のバージョンとチャップス3-5の主題である関連する問題を含む。ちなみに、中国の部屋があなたに興味がある場合は、ビクターロディッチの優れた、しかし事実上未知の、CRの補足を読む必要があります - "すべての欠陥のサール解放"。ロディッチはまた、Wの数学哲学に関する一連の素晴らしい論文を書いています - すなわち、数学の無限のシステム2 SLG(二次言語ゲーム)に拡張された公理学的システム1能力のEP(進化心理学)。

数学の心理学に対するWの洞察は、意図的性への優れた参入を提供する。私はまた、Strong AI、行動主義、コンピュータ機能主義、CTM(心の計算理論)、動的シス

テム理論(DST)の多面的なバージョンを促進する人は誰も、Wのトラクタトゥスは、これまでで最も印象的で強力な記述と見なすことができることを認識していないようです(すなわち、行動(思考)は事実の論理的処理として情報を処理します。もちろん、後で(しかし、デジタルコンピュータがチューリングの目に輝いていた前に)Wは、なぜこれらが心理学に置き換えなければならない心の支離滅裂な記述(思考、行動)であったのか(または彼が一生やったのはこれだと言うことができます)を非常に詳細に説明しました。しかし、Sは、メカニズムとしてのWの優れた心の声明と、彼の後の作品でそれを破壊することにほとんど言及していません。

W以来、Sはこれらの機械的な行動観の主要なデコンスとなり、おそらく最も重要な記述心理学者(哲学者)であるが、Wが彼をいかに完全に予想していたか、そして大きく他の人を見ていない(しかし、多くを見るW、チューリング、AIのプラウドフットとコーブランドの論文や本)。Sの仕事はWの仕事よりもはるかに簡単で、専門用語はありますが、正しい方向からアプローチすればほとんど見事に明らかです。詳細については、私の記事を参照してください。

Wと同様に、サールは彼の時代の最高のスタンドアアップ哲学者とみなされ、彼の書かれた作品は岩と画期的なものとして堅実です。しかし、後のWを真剣に受け止めなかったことは、いくつかの間違いや混乱につながります。PNCのp7で、彼は基本的な事実に関する私たちの確実性は、私たちの主張を支持する理由の圧倒的な重みによるものだと2回指摘していますが、Coliva、DMSらは指摘しているように、Wは、私たちのシステム1の認識、記憶、思考の真の唯一の公理構造を疑う可能性がないことを「確実に」で決定的に示しました。p8の最初の文では、彼は確実性が改訂可能であることを教えてくれますが、私たちが確実性2と呼ぶかもしれないこの種の「確実性」は、経験を通じて公理的で修正不可能な確実性(確実性)を拡張した結果であり、提案(真または偽)として全く異なります。これはもちろん、Wが何度も何度も実証した「言語による私たちの知性の妖艶との戦い」の典型的な例です。1つの単語 - 2つ(または多くの)異なる使用。

p10では、彼は理論化に対する彼の反感のためにWを追い詰めるが、私が上述べたように、「理論化」は別の言語ゲーム(LG)であり、よく働いた例がほとんどない行動の一般的な記述と、多くの対抗例の対象ではない多数のものから出てくる行動の間に広大な湾がある。初期の進化は、限られた明確な例を持つ理論でしたが、すぐには非常に異なる意味での例と理論の広大な体の要約になりました。同様に、理論では、Wの例の1000ページと10ページから生じる1つの要約として作るかもしれません。

繰り返しますが、p12では、「意識」は、いくつかの全く異なる感覚で「主観的」である自動システム1機能の結果であり、通常の場合、証拠の問題ではなく、私たち自身の場合には真の唯一の理解であり、他の人の場合は真の唯一の認識です。

p13を読んで、「激しい痛みを感じて、何も間違っていないかのように続けることができますか?」いいえ!—これは同じ意味での「痛み」ではありません。「内面的な経験は外側の基準を必要としている」(W)とサールはこれを見逃しているようです。Wまたはジョンストンを参照してください。

次の数ページを読んで、彼は多くの文脈で同義語とみなし、彼の作品は言語使用の多数の目立つ例に例示されているように、Wは心/言語のつながりをよりよく把握していると感じました。上記のように、「今、それが私たちが懸念している因果関係でなければ、心の活動は私たちの前にあります。そして、上記で説明したように、2つのシステムの観点からWのOCを考慮して、Sがセクション3を終わらせる質問は、主に答えられていると感じています。同様に、科学哲学のセクション6に対して。ロディッチはポッパー対Wの記事を行ったが、私は当時素晴らしいと思っただが、私は確かにそれを再読する必要があります。

最後に、p25では、因果関係や自由意志の概念(言語ゲーム)の改訂が必要であるか、あるいは可能であることを否定することができます。あなたは、Wの任意のページとDMS、Coliva、ハッカーなどの多くの理由で読むことができます。量子力学や不確実性などの例を使って世界について奇妙なことを言うのは別のことですが、通常の言葉の使い方に関連するものを言うのは別のことです。

p31、36などでは、現在の精神状態のみで構成されているS1とS2に適用されるLGの「信念」、「見る」などの大きな違いに光を当てる同一の言葉(哲学と人生)の絶え間ない問題に再び遭遇します。残りの章は、EP、ヴィトゲンシュタインの観点から、個人的な開発中に容赦なく普遍的に他の人との自動無意識のデオンティック関係の広い配列に拡大され、それらに文化的なバリエーションに任意に拡大されているS2の遅い処分を生成するS1の自動高速アクションである「社会的接着剤」に関する彼の仕事を要約しています。

第3章から5章には、私には決定的に見える心の機械的な見方に対する彼のよく知られた議論が含まれています。私は彼らに対する回答の本全体を読んで、私は彼らがすべて彼が作る非常に単純な論理的な(心理的な)ポイントを逃したことに同意します(そして、概して、Wはコンピュータがある前に半世紀早く作りました)。私の言葉では、S1は無意識、速い、物理的、因果関係、自動、非提案的、真の唯一の精神状態で構成されていますが、遅いS2は、多かれ少なかれ命題(TまたはF)になる行動(潜在的な行動)に対する意識の低下である行動の理由の観点から一貫して記述することができます。コンピュータと自然の残りの部分は、私たちの視点に依存する(帰属する)意図的性のみを持っていますが、高い動物は視点から独立した主要な意図的性を持っています。SとWが理解しているように、大きな皮肉は、心理学の唯物論的または機械的な削減が最先端の科学を装っているが、実際には完全に反科学的であるということです。哲学(記述心理学)と認知心理学(迷信から解放される)は手袋に手をつないでいき、寒さの中で取り残されているのはホフ

スタッター、デネット、カーラザーズ、カーツワイルなどです。

ページ62はうまく彼の議論の一つを要約しますが、p63は彼がS2の文化的拡張の面で社会の動向を説明しようとするので、彼はまだ空白のスレートを手放していないことを示しています。彼は彼の著作の他の多くの場所で行っているように、彼は行動主義の文化的、歴史的な理由を与えますが、ほとんどすべての行動と同じ理由で心の機械的な見方が存在することは私には明らかです。前述のように、サールはこれをTPIと表現しています。繰り返しますが、p65では、私たちの公理学的継承心理学とその拡張に関するWの記述は、彼のOCやその他の作品のS(または誰か)よりも深くあることを見つけるので、私たちは犬が意識していることを「自信を持っている」のではなく、疑いを持つつもりはありません。OCとDMSを扱うこの記事の前のセクションを参照してください。

第5章はCTM、LOTなどをうまく取り壊し、「比較」、情報、構文、「アルゴリズム」、「論理」「プログラム」などは観察者の相対的な用語(すなわち、心理的)であり、この心理的意味では物理的または数学的な意味(COS)を持たないが、もちろん科学が発展するにつれて最近与えられた他の感覚がある。繰り返しますが、人々は、その使用(意味)の大きな違いを無視することと同じ言葉を使用することによって妖艶です。これらのコメントは、古典的なヴィトゲンシュタインのすべての拡張機能であり、この接続では、私もハットとReadの論文をお勧めします。

第6章「フェノメノロジカル・イリュージョン」(TPI)は私のお気に入りであり、その分野を取り壊しながら、彼の最高の論理的能力と後のWの両方の完全な力を把握できなかったこと、そして最近の心理学の大きなヒューリスティックな価値の両方を示しています2人の自己に関する研究を行う。TPIがS1の自動化に気づかず、S2のゆっくりとした意識的思考を一次的なものではなく、すべてあるものとして取り入れているのはクリスタルとして明らかです。これは古典的なブランクスレート失明です。Wが約60年前にこれを示し、また、私たちの初期のシステム1の真の唯一の無意識の自動公理ネットワークの優位性の中でその理由を与えたことは明らかです。他の多くの人と同じように、サールは周りで踊りますが、決してそこに着くことはありません。非常に大まかに、S1としての世界の「オブザーバー独立」機能とS2としての「オブザーバー依存」機能に関しては、非常に明らかにすべきです。Sが指摘するように、ハイデガーと他の人たちはオントロジーを正確に後ろ向きに持っていますが、もちろんEPのデフォルトのためにほとんどすべての人がそうします。

しかし、本当に重要なことは、SがTPIが少数の哲学者の失敗ではなく、EP自体がEPに組み込まれている私たちのEPに対する普遍的な失明であることを認識するための次のステップを取らないということです。彼は実際に一度にほとんどこれらの言葉でこれを述べていますが、もし彼が本当にそれを得たならば、彼は世界に対するその巨大な意味を指摘することができません。まれな例外を除いて(例えば

、ジャイナ・ティルタンカラスはインダス文明の始まりに5000年以上さかのぼり、最近ではオショ、ブッダ、イエス、菩薩、ダ・フリー・ジョンなど)、私たちは皆、私たちの人生を通してつまづく肉の人形です地球を破壊する遺伝的にプログラムされたミッション。S1の幼児の喜びを楽しむために第二の自己S2の人格を使用することに対する私たちのほぼ完全な先入観は、地球上の地獄を作成しています。すべての生物と同様に、それは再生し、そこにリソースを蓄積することだけです。はい、地球温暖化と次の世紀の産業文明の崩壊に関する多くの騒音ですが、それを止めるものは何ともありません。S1は劇を書き込み、S2はそれを実行します。ディックとジェーンはただ家をプレイしたい-これはママであり、これはパパであり、これとこれは赤ちゃんです。おそらく、TPIは私たちが人間であり、単なる霊長類ではないと言えるかもしれません。

自己の性質に関する第7章は良いですが、何も本当に新しいものとして私を打つものはありません。財産二元主義に関する第8章は、主に彼の前の作品の再ハッシュにもかかわらず、はるかに興味深いです。上記の彼の冒頭の引用の最後はこれを要約し、もちろん最初の重要な性質に対する主張-人のオントロジーは完全にヴィトゲンテナンです。私が見る唯一の大きな失態は、二元主義の誤りに対するp158の彼の空白のスレートまたは(文化的な)タイプの説明であり、私の見解では、それは明らかにTPIのもう一つの例であり、彼(そして他のほとんどすべての人)が何度も犯した間違いであり、そうでなければ素晴らしい第9章でp177などで繰り返されます。(主に)JS2を介して肉人形の弦を引っ張る(筋肉を収縮させる)遺伝子プログラムS1。物語の終わり。繰り返しますが、彼は私のコメントやWのOC上のDMSのものを読む必要があるので、p171の下部にある「信じる正当な理由」とp172の上部を「知っている」(真の唯一の意味で)に変更します。

p169で再び重要な点が作られます。「したがって、何かを言って、それが満足の2つの条件を伴います。第一に、発話が生み出され、第二に、発話自体が満足の条件を持つことを満足の条件。これに関する1つの方法は、無意識の自動システム1がシステム2のより高い皮質意識的性格を活性化し、潜在的な行動にコミットする特定の 방법으로世界を見ていることを他の人に知らせる喉の筋肉収縮をもたらすことです。言語学的またはプロトに対する大きな進歩-グロス筋肉の動きだけが意図に関する非常に限られた情報を伝えることができ、SがChapter10で同様のポイントを作る言語的相互作用。(主に)JS2を介して肉人形の弦を引っ張る(筋肉を収縮させる)遺伝子プログラムS1。物語の終わり。繰り返しますが、彼はWのOCで私のコメントやDMS、コリバ、アンディ・ハミルトンなどを読む必要があるので、p171の下部にある「信じる正当な理由」とp172の上部を「知っている」(真の唯一の意味で)に変更します。

彼の最後の章「命題の統一」(以前は未発表)はまた、S1を記述する真のみの文章とS2を記述する真または偽の命題の違いを明らかにするので、Wの「確実性について」またはDMSの様々な本や論文を読むことから大きな利益を得るでしょう。

これは、S2で彼らについて考え始めた後のみTまたはFになるので、S1の認識を命題として受け取ることに對するはるかに優れたアプローチとして私を襲います。しかし、命題は、過去と未来とファンタジーの実際または潜在的な真実と虚偽の記述を許可し、したがって、言語社会の前または原始よりも大きな進歩を提供するという彼の指摘は、誠実です。彼が言うように、「命題は満足の条件を決定することができるものです。満足の条件.それはそうであるということです。あるいは、追加する必要があります。

全体として、PNCはSの半世紀の仕事に起因するヴィトゲンシュタインに対する多くの実質的な進歩の良い要約ですが、私の見解では、Wは彼が言っていることを理解すると、まだ不平等です。理想的には、彼らは一緒に読む必要があります:明確で一貫した散文と一般化のためのサールは、Wの厄介な例と華麗な格言で示されています。もし私がずっと若かったら、まさにそれをやっている本を書くだろう。

「だから、ステータス機能は社会を一緒に保持する接着剤です。彼らは集団的な意図的性によって作成され、彼らはデオンティックな力を運ぶことによって機能します.言語自体の重要な例外を除いて、制度的現実のすべてと、ある意味では人間の文明のすべてが、宣言の論理的な形を持つスピーチ行為によって作成されます。人間の制度的現実のすべては、宣言の明示的な形でスピーチ行為ではない場合を含む(同じ論理的な形を持つ表現)ステータス関数宣言によって存在して作成され、維持されます。

サール MSWp11-13

「信念は、声明と同様に、下向きまたは心(または言葉)から世界への方向を持っています。そして、欲望や意図は、命令や約束のように、上向きまたは世界に向かう(または言葉)の方向を持っています。信念や認識は、声明のように、物事が世界でどのようにあるかを表すことになっているし、その意味で、彼らは世界に合うことになっている。彼らはフィットする心から世界への方向を持っている。欲望、事前の意図、行動の意図などの共生的な意志の状態は、命令や約束のように、世界と心の向きを持っています。彼らは物事がどのように表されるべきではなく、私たちがどのようになりたいか、どのようになるつもりなのかを表すべきです。これら2つの学部に加えて、提案的な内容が認知と意志の命題的な内容が合うはずの方法で現実合わないはずの第三の想像力があります。世界に関するコミットメントは放棄され、我々はそれが適合のどちらの方向にも表すコミットメントなしに提案的な内容を持っています。サール MSWp15

「意図的な状態と同様に、状態の種類を区別することができます.状態の内容.言語の理論では、それが行うスピーチ行為の種類を区別することができます.そして提案的な内容.我々は、意図的な状態の場合には異なる心理的モードを持つ同じ提案的な内容を有し、スピーチ行為の場合には異なる活動力またはタイプを有する。

さらに、私の信念が真実または偽りであり、したがって、心から世界への方向を持つことができるのと同じように、私の声明は真実または偽りであり、したがって、単語から世界への方向を持つことができます。そして、私の欲望や意図が真実でも偽りでもできないのと同様に、私の命令や約束は真実でも偽りでもありませんが、さまざまな方法で満足または満足することはできません。信念はその真理条件を表し、欲望はその満た条件を表し、意図はそれが条件を実行することを表します。意図的な状態は、満足の条件を表します。人々は誤って、すべての精神的表現は意識的に考えなければならないと考えています。しかし、私が使用している表現の概念は機能的であり、トポロジ的な概念ではありません。満足の条件を持つものは、意図的な性の特徴である方法で成功または失敗する可能性があり、定義上、その満足の条件の表現です。社会現象の意図の構造を、満足の条件を分析することで分析することができます」 サールMSW p28-32

「最初の4種類のスピーチ行為は、意図的な状態で正確な類似体を持っています: アサーティブに対応することは信念であり、指令に対応することは欲望であり、コミッシブに対応することは意図であり、表現力に対応することは、全体の範囲です。Presupフィットが当たり前と考えられている感情やその他の意図的な状態。しかし、宣言には言語学的な類似体はありません。言語学的前の意図的な国家は、すでに存在するものとしてそれらの事実を表現することによって、世界に事実を作成することはできません。この驚くべき偉業は言語を必要とする" MSW p69

「スピーカーの意味.満足の条件に満足の条件の押し付けです。これを行う能力は、人間の認知能力の重要な要素です。言語の使用に不可欠な方法で、一度に2つのレベルで考える能力が必要です。あるレベルでは、話者は意図的に物理的な発話を生成しますが、別のレベルでは発話は何かを表します。そして、同じ二重性がシンボル自体に感染します。あるレベルでは、それは他のレベルと同様に物理的なオブジェクトです。別のレベルでは、それは意味を持っています:それは、状態の一種を表す" MSW p74

"...言語を持つと、コミットメントを作成せずに言語のコンベンションに従って明示的なスピーチ行為を行う方法がないため、デオントロジーを持つことは避けられません。これは、ステートメントのためだけでなく、すべてのスピーチ行為に当てはまります" MSW p82

これは、Wで顕著であるが、Sによって否定されている別のポイントを持ち出します、私たちができることは、理論ではなく、説明を与えることだけです。Sは彼が理論を提供していると主張していますが、もちろん「理論」と「説明」も言語ゲームであり、Sの理論は通常Wの記述であるようです。Wのポイントは、私たちが私たちの行動の真の説明であることを知っている厄介な例に固執することによって、我々はすべての行動(すべての言語ゲーム)を説明しようとする理論の迅速さを避け、Sは一般化したいと思い、必然的に迷子になる(彼はPNCで彼自身の間違いの

いくつかの例を与える)。Sや他の人々が多くの言語ゲームを説明するために彼らの理論を無限に変更するにつれて、彼らはWのように多くの例を使って行動を記述することに近づきます。

プライマリランゲージゲーム(PLG)は、私たちの不本意な、システム1、高速思考、ミラーニューロン、真のみ、非命題、精神状態による単純な自動化された発話です - 私たちの認識と記憶と反射行為('will')そしてUA1 -- エージェンシー1の理解 - そして感情1 - そのような喜び、愛、怒りなど、進化的に後の二次言語ゲーム(SLG)は、自発的な、システム2、遅い思考、精神の表現または記述ですニューロン、テスト可能な真偽、命題、Truth2とUA2と感情2 - 喜び、愛情、憎しみ、処分(そしてしばしば反事実)を想像し、仮定し、意図し、考え、知り、信じるなど、用語でしか記述できない理由の(すなわち、それは神経化学、原子物理学、数学の面でシステム2を記述しようとする事実です、ちょうど意味をなさない - 多くの例のためにWを参照し、これに関する良い解毒のためのサール)。

EP、遺伝学、生理学の面で理由を与えたくない限り、システム1の自動化を理由(例えば「リンゴとして見る..」)で記述することは不可能であり、Wが繰り返し実証したように、「説明」を与えるのは無意味です。彼らが将来意味をなすという但し金で——「何も隠されていない」——彼らは今、あるいは決して意味をなさない。

強力なヒューリスティックは、行動と経験を意図的性1と意図的性2(例えば、思考1と思考2、感情1と感情2など)、さらには真実1(Tのみ公理)と真実2(経験的拡張または「定理」)に分離することです。真理1)の論理的な拡張から得られた結果Wは、「何も隠されていない」、すなわち、私たちの心理学全体とすべての哲学的な質問に対するすべての答えは、私たちの言語(私たちの人生)にあり、難しいのは答えを見つけるのではなく、私たちの目の前でいつものようにそれらを認識することであることを認識しました。より深く見ようとするのはやめなさい。

ここでのアイデアはすでに出版されており、サールの作品に追いついてきた人々には何も驚きではありません。

私は、Wが多くの文脈で同義であると考えている心と言語のつながりをよりよく把握していると感じていますが、彼の作品は多くの言語使用の例に例示されているように、心と言語のつながりをより良く把握しています。上記のように、「今、それが私たちが懸念している因果関係でなければ、心の活動は私たちの前にあります。因果関係や自由意志の概念(言語ゲーム)の改訂が必要または可能であることを否定することができます。あなたは理由のためにWのほぼすべてのページを読むことができます。量子力学や不確実性などの例を使って世界について奇妙なことを言うのは別のことですが、通常言葉の使い方に関連するものを言うのは別のことです。

デオンティック構造または「ソーシャルグルー」は、S2の遅い性質を生み出すS1の自動高速アクションであり、個人的な開発中に、自動無意識の普遍的な文化的デオンティック関係の広い配列に容赦なく拡大されますその他(S3)。これは私の行動のプレシスですが、私はそれがかなりSの仕事に記述すると思います。

私にとって、心の機械的な見方がほぼすべての行動と同じ理由で存在することは明らかです-それは、私たちがほとんど忘れていない自動化されたS1(TPI)ではなく、意図的にゆっくりと考えることができるものの観点から説明を求めるEPのデフォルトの操作です。私は、彼のOCと他の第3期間における私たちの公理的継承心理学とその延長に関するWの記述は、S(または誰か)よりも深く働いているので、私たちは犬が意識していることを「自信を持っている」のではなく、疑いを開いていないと思います。

さて、世の中に定められた「社会の接着剤」の論理的構造に関する彼の長年の仕事のサークルの華麗な要約は、彼の「社会世界を作る」(2010年)です。

何年も前にSによって導入された批判的な概念は、Wが行動する傾向や処分と呼んだ私たちの考え(S2の命題)に対する満足のコス(COS)です。COSは、PNCのp169のような多くの場所でSによって説明されています:「したがって、何かを言うと、それは満足の2つの条件を伴うことを意味します。第一に、発話が生み出され、第二に、発話自体が満足の条件を持つことを満足の条件。SがPNCで述べているように、「命題は満足の条件を決定できるものです。満足の条件.それはそうであるということです。または、MSWで明らかにしているように、それがそうであったり、想像されたりするかもしれない、または想像されるかもしれない、または追加する必要があります。意図については、「満足するためには、意図自体がアクションの生産において因果関係を持って機能しなければならない」。(MSWp34)。

ほとんどの人は、S1を記述する真のみの文章とS2を記述する真のまたは偽の命題の違いを明確にするので、Wの「確実性」または「RPP1と2」またはDMSのOCに関する2冊の本(私のレビューを参照)を読むことから大きな恩恵を受けるでしょう。これは、S2で彼らについて考え始めた後、TまたはF(Sがここでそれら呼び出すように縦横)にしかならないので、S1の認識を提案的なものとして受け取ることに対するはるかに優れたアプローチとして私を襲います。しかし、PNCの彼の主張は、提案は、過去と未来とファンタジーの実際または潜在的な真実と虚偽の声明を許可し、したがって、言語社会の前または原始よりも大きな進歩を提供し、誠実です。

Sはしばしば、1つのイベントの様々なレベルの説明に注意する必要があることを、説明するので、IA(インアクションの意図)のために「私たちは、1つのレベルが低いレベルでの行動によって構成される記述の異なるレベルを持っています。関係

によって構成に加えて、我々はまた、関係によって因果関係を持っています。(p37)。

したがって、S1を認識することは上向きの因果関係と満足のいくもの("表現"またはor "情報"を欠いている)であり、S2は「コンテンツ」を持ち、下向きに因果関係にある(例えば、ハットとミインの「過激なエナビズム」を参照)、私はp39から段落を変更します。“

要するに、知覚、記憶、反射的な意図と行動("意志")は、S1真のみの公理的EPの自動機能によって引き起こされます。事前の意図や意図を通じて、私たちは物事がどうなるかと思うかと、彼らがどう思うかと一致するようにしています。私たちは、信念、欲望(そして想像力-時間がシフトし、意図から切り離された)と私たちの遅い思考の他のS2提案的な性質は、後に進化した第二の自己、CSR(因果的自己反射性)急速な自動原始的な真の唯一の反射的S1に完全に依存している(彼らのCOSを持っている)ことを見るべきです。言語およびおそらく神経生理学では、COS(すなわちS1を使用した)との因果関係が過去または未来を表す際に、常に現在にあるS1とは異なり、時間シフトされる、意図(事前の意図)または記憶などの中間またはブレンドされたケースがあります。2つのシステムはお互いに供給し、多くの場合、私たちの通常の経験は、私たちが行うすべてを意識的に制御するように、シームレスに学んだ脱イオン文化関係によって調整されています。私たちの人生を支配する認知錯覚のこの広大なアリーナSは、「表現型錯覚」と表現しています。

彼は、彼の著作の中で10回目を繰り返すことによって、この驚くべき章を終え、私は彼がほぼすべての人と共有する非常に基本的な間違いとみなしています - 「自由意志」の経験は「幻想的」かもしれないという考え。これは、Wの第3時代の作品と現代心理学の観察の両方から、非常に簡単で容赦ない方法で、「意志」、'自己'、意識は、システム1の公理的な真の要素であり、彼らの虚偽を示す可能性(伝言不能)はありません。Wは何度も素晴らしく明確にしたので、彼らは判断の基礎であり、判断することはできません。Sは基本的に他の文脈(例えば、懐疑的、孤独主義)で同じ議論を理解し、使用するので、彼がこのたとえを見ることができないのは非常に驚くべきことです。彼は、私たちの犬が意識しているという「良い証拠」を持っていることを言うとき、彼はしばしばこの間違いを犯します。私たちの心理学の真の唯一の公理は明らかではありません。ここでは、W以来最高の記述心理学者の一つを持っているので、これは愚かな間違いではありません。

p50に関する彼のデオンティクスの要約は翻訳が必要です。したがって、「言語的形態が構築される集団的意図的性の前言語的形態を持たなければなり、コミットメントを行うために会話の集団的意図的性を持たなければなりません」と「AS1の言語学的公理は、成熟期から文化的な現れへと進化するS2(すなわち、私たちのEP)の言語的性質の根源です。

ステータス関数宣言はデオンティックの中心的な役割を果たすため、それらを理解することが重要であるため、ここで関連する「関数」の概念を説明します。「関数は目的を果たす原因です。この意味で、関数は意図的に相対的であり、したがって心に依存しています。ステータス機能.必要。。。集団的な賦課と地位の認識」(p59)。

繰り返しますが、「言語の意図的性は人間の本質的な、または心に依存しない意図的性によって作り出される」(p66)の翻訳を「S2の言語的、意識的な性質はS1の無意識の公理的反射関数によって生成される」(p68)という訳を提案する。つまり、行動は生物学によってプログラムされていることを心に留めておく必要があります。

しかし、私は、S1(記憶、知覚、反射行為)が命題(すなわち真偽)構造を有するという彼の著作のp66-67および他の場所での彼の声明に強く反対する。私が上記で述べたように、他のレビューでは何度も、Wが正しいことは明らかですし、S2だけが命題であり、S1は公理的で真のみの行動を理解することが基本的です。S1の遺伝的、公理的な意図的性がS2のそれを生成するので、彼らは両方ともCOSとフィットの方向(DOF)を持っています、が、S1が同じ意味で提案的であれば、Wが戻る前の哲学であった混乱、そして実際には社会生活(そしておそらくすべての動物の生命は「命題」とみなすものに応じて)は不可能です。Wが数え切れないほどの時間を示し、生物学がはっきりと示すように、生命は確実性(無意識の迅速な反応を自動化)に基づいている必要があります。常に疑いを持ち、反映するために一時停止する生物は死ぬ(進化できなかった)。

彼のコメント(p70)とは対照的に、私は世界をオブジェクトに分割し、それらを記述する言語のビジョンの最初かつ最も基本的なタスクであるため、私はそれらを見るができない視覚システムを想像できる以上に、材料オブジェクトの単語を欠いている言語を想像することはできません。同様に、意識的な分野でオブジェクトが顕著であることや、文章が単語に分かれていることにしても問題は見られません。進化の歴史を持つ存在のために、どうしてそうできないのでしょうか？

p72 や他の場所では、表現が S2 の性質 SLG である間、表現は S1 のプリミティブ反射 PLG であることを覚えておくのに役立ちます。

「ここまで」始まり、「前に聞いた」終わりのp79の第2段落には、哲学から英語への別の翻訳が必要です。「文章の中の言葉で構成された公用語を構文で話すことで意味を伝えます」

言語と書き込みの特別な性質に関するp105の彼の質問4と5に、私は答えるだろう：「声の筋肉の振動の短波長は、他の筋肉の収縮よりもはるかに高い帯域幅情報転送を可能にし、これは視覚情報のために平均数桁高い。

p106では、質問2に対する一般的な答え(なぜそれを逃れるか、つまりなぜそれがうまくいくのか)はEPとS1であり、「この本の博覧会の私の主な戦略は、家族のiarを奇妙で印象的に見せることです」という彼の声明はもちろん古典的なヴィトゲンシュタインです。人々が機関を受け入れる理由に対する一般的な答えが存在しないという次のページの彼の主張は明らかに間違っています。彼らはすべてを行うのと同じ理由で彼らを受け入れます-彼らのEPは包括的なフィットネスの結果です。EEA(進化適応の環境)における生存と再生を促進した。私たちについてのすべては、遺伝学で物理的および精神的に底を打っています。ここでの曖昧な話(例えば、p114)に関する「余分な言語学的規則」と「余分な意味論の意味論」は、実際にはEP、特にすべての行動の基礎であるS1の無意識の自動化を指しています。はい、Wが何度も言ったように、最も身近なのは目に見えない理由です。

ゲームに言語が不可欠であるというSの提案(p115)は間違っている。完全に読み書きできない聴覚障害者のミュートは、カード、サッカー、さらにはチェスを行うことができますが、もちろん最小限のカウント能力が必要になります。私は(p121)ふりをして想像する能力(例えば、時間と空間のシフトに関与する反事実またはas-as-if-ifという概念)は、完全な形で、一意に人間の能力であり、より高い秩序の思考に不可欠であることに同意します。しかし、ここでも多くの動物の前駆体があります(あるべきように) 儀式的戦闘や交配ダンスの姿勢、バウアー鳥による交配場所の装飾、母鳥の壊れた翼の見せかけ、サル of 偽のアラームコール、取る「クリーナー」魚多くの動物のタカと鳩の戦略(詐欺師)の獲物とシミュレーションから嘔み付きます。

彼の合理性の議論のためには、より多くの翻訳が必要である(p126 et seq.)。思考は命題であり、真または偽の「事実実体」を扱うとは、S1の真のみの自動認知機能とは対照的に、それがテストできる典型的なS2処分であることを意味する。

「自由意志、合理性、制度的事実」では、彼は彼の古典的な本「行動の合理性」の一部を更新し、私がフェリシタスを見つけることができない実用的な理由の正式な装置を記述するためのいくつかの新しい用語を作成します。「事実実体」は、性質や「動機」(欲望または義務)、エフェクター(身体筋肉)、「恒常者」(スピーチ筋肉)、および「すべての関連する性質」と変わらないようで、少なくともここでは明確さ(p126-132)に追加されるようです。).

私たちはここで人間の行動の議論ではめったに起こらない何かをし、その生物学を思い出させるべきです。インクルーシブフィットネスによる進化は、S2の意識的なゆっくりとした思考(しばしばS3の文化的拡張によって変更される)を生み出すS1の無意識の急速な反射的因果作用をプログラムし、しばしばS1によって身体および/または音声筋肉の活性化をもたらす行動の理由を生み出す。一般的なメカニズムは、神経伝達と脳の標的領域における様々な神経調節剤の変化の両方を介

してである。これは同様に不可解に見えるかもしれませんが、それは事実に基づいているという美德を持っており、私たちのより高い順序の思考の複雑さを考えると、私は一般的な説明がはるかに簡単になるとは思わない。全体的な認知錯覚(S'S'「フェノメノロジカル錯覚」によって呼ばれる)は、S2が私たちが十分に認識し、制御している理由で意識的に行動を生成したということですが、現代の生物学と心理学に精通している人は、この見解が信用できない。

繰り返しますが、私はいくつかの重要な概念を繰り返します。Sが明らかにしたもう一つの考え方は、欲望独立した行動理由(DIRA)です。私はMSWのp127に関するSの実用的な理由の要約を次のように翻訳します:「私たちは、一般的に欲望-独立した行動理由(DIRA--すなわち、空間と時間に置き換えられる欲望)を含む私たちの欲望(遺伝的にプログラムされた脳化学を変更する必要性)に屈し、私たちの包括的なフィットネス(遺伝子の生存期間の生存)に一般的に起因する行動に対する性質を生み出します。そして、私はDIRA2(すなわち、システム2のDIRAの言語ゲーム)を実行する方法のp129に関する彼の説明を「パラドックスの解決は、長期的な包括的なフィットネスを提供する無意識のDIRA1が、しばしば短期的な個人的即時の欲求を上書きする意識的なDIRA2を生成することです」と述べています。エージェントは確かに意識的にDIRA2の近接的な理由を作成しますが、これらは無意識のDIRA1(究極の原因)の非常に制限された拡張です。オバマと教皇は、それが「正しい」ので貧しい人々を助けたいと思っていますが、最終的な原因は、彼らの遠い祖先(そして例えば、アメリカと世界を破壊するネオマルクス主義第三世界至上主義)の包括的な適性を高めた彼らの脳化学の変化です。 Neomarxist

インクルーシブフィットネスによる進化は、S1の無意識の急速な反射的因果作用をプログラムしており、S2の意識的なゆっくりとした思考を生み出すことが多く、S1によって身体および/または音声筋肉の活性化をもたらす行動の理由が生じる。一般的なメカニズムは、神経伝達と脳の標的領域における神経調節剤の変化の両方を介してである。全体的な認知錯覚(S'Hehenomenological Illusion、ピンカー'ブランクスレート'、トゥービーとコスミデス「標準社会科学モデル」)は、S2が私たちが十分に認識し、制御している理由で意識的に行動を生成したということですが、現代の生物学と心理学に精通している人は誰でもこの見解が信用できないことがわかります。

したがって、p127の実用的な理由の要約を次のように翻訳します:「私たちは、通常、欲望-独立した行動理由(DIRA、時と時間に置き換えられる欲望、最も頻繁に相互利他主義のために)を含む私たちの欲望(脳化学を変更する必要がある)に屈します。

p128に関するSのコメントとは対照的に、DIRAは高等動物では普遍的であり、S1の自動言語学的反射神経(すなわちDIRA1)を含むならば、人間に固有ではないと思い

ますが、確かに言語を必要とするS2またはDIRA2のより高い順序DIRAはユニークな人間です。これは、私たちがDIRA2(すなわち、S2の欲望とその文化的拡張)を自発的に実行する方法のパラドックスのp129の下部にある彼の「説明」(Wが示唆したように)の代替的で明確な記述のように思えます。つまり、「パラドックスの解決は、欲望に依存しない理由の認識は、欲望を根付かせる可能性があり、したがって、彼らが行うことは論理的に避けられず、経験的に普遍的ではないにもかかわらず、欲望を引き起こす可能性があるということです」と、「パラドックスの解決は、長期的な包括的なフィットネスを提供する無意識のDIRA1が意識的なDIRA2を生成するという事です。同様に、p130-31に関するこの問題についての彼の議論のために-それはEP、RA、IF、S1(進化心理学、相互利他性、包括的なフィットネス、システム1)S2の性質とそれに続く行動を根拠とする。

p140では、生物学から脱イオン薬を得ることができない理由を尋ねますが、もちろん、他の選択肢はなく、上記の説明はこれがどのように起こるかを示しているので、生物学からそれらを得る必要があります。彼の声明とは対照的に、最も強い傾向は常に勝ちますが(定義上、それ以外の場合は最強ではありません)、RAとIFの先天的なプログラミングが即時の個人的な短期的な欲求を上書きするので、デオンティクスは機能します。S1とS2の自然と育成の彼の混乱は、p143の結論2と3にまで及びます。エージェントは確かにDIRA2の近位の理由を作成しますが、これらは単なるものではありませんが、例外が少ない場合はDIRA1の非常に制限された拡張(最終的な原因)です。彼が本当に私たちの意識的な決定だけにデオンティックを帰属させる意味があるならば、彼はその名前の彼の古典的な論文でとても美しく取り壊された「フェノメノロジカル幻想」(TPI)の餌食です(PNCの私のレビューを参照)。私が上記のように、私たちの性格を構成する認知錯覚を暴露する暗黙の認知に関する最近の研究の巨大な体があります。TPIは単なる無害な哲学的誤りではなく、私たちの生命と社会と世界を支配するという錯覚を生み出す生物学に対する普遍的な忘却であり、その結果、次の150年の間に産業文明がほぼ確実に崩壊する。

彼は、人間の合理性は「ギャップ」(実際には彼が何度も議論してきた3つのギャップ)なしでは意味をなさないことを正しく指摘しています。つまり、自由意志(すなわち、選択)がなければ、それはすべて無意味であり、進化が不必要な遺伝的かつエネルギーに高価なシャレードを作成し、維持することは考えられないと正しく指摘している。しかし、他のほとんどすべての人と同じように、彼は自分の道を見ることができないので、再び彼は(p133)その選択が幻想かもしれないことを示唆しています。それどころか、Wに続いて、選択が私たちの公理学的なS1真の唯一の反射的な行動の一部であり、S1が質問の基礎であるため、矛盾なしに疑問を持つことはできないことは明らかです。通常のケースでは、このページに対するあなたの意識が疑いの根拠であるため、このページを読んでいる疑いはできません。

さて、サールの最新の著書「物事があるがった状態で見ると」(STATA-2015)を簡単に復習しましょう。詳細なコメントについては、完全なレビューを参照してください。

どんな哲学からも期待されるように、私たちはすぐに深い問題に直面していますが、4ページには「知覚」と「オブジェクト」という言葉がありますが、哲学をやっているの、様々な哲学的なものとは異なる日々のゲームを維持する機会のない言語ゲームの間を行ったり来たりします。再び、あなたはこれに対する感触を得るためにベネットとハッカーの「神経科学と哲学」または「神経科学の哲学の基礎」のいくつかを読むことができます。悲しいことに、ほぼすべての哲学者と同様に、サール(S)はまだ2つのシステムフレームワークを採用していないので、必要以上に物事をまっすぐに保つのはずっと難しいです。

p6では、信じることと主張することは、言語的、審議的、遅く、正確な発生時間のないシステム2の一部であり、「雨が降っている」は満足度(COS2)(ウィトゲンシュタインの推移性)(すなわち、彼らの公的な満足条件)です。それは提案的で表現的であり、精神状態ではなく、我々は理由の面でしかそれを説明することはできませんが、ビジュアルエクスペリエンス(VisExp)はシステム1であり、雨が降っていることを(分かりにくい、正気のために)必要とし、不確定な時間を持っています発生は、速い(通常500msec以下)、テスト不可能(ウィトゲンシュタインの真のみのまたは非自動)であり、非公開、自動、言語的ではない、すなわち、提案的および提示的ではなく、精神状態の原因の点でのみ記述可能である。恐ろしい(しかしまだ非常に人気のある)用語「命題的態度」を押しつぶした後のp7にもかかわらず、彼は知覚が提案的な内容を持っていると言いますが、私はS1が真の唯一であり、したがって、提案が真実または偽りであるS2の感覚のようなものでは命題できないことに同意しますgements (COS) that are true or .

p12では、システム1(S1)のオートマリティを記述していることを覚えておいてください、そして、彼は世界を記述するために、我々は言語の限界を示していると指摘した記述を繰り返すことができると指摘しています。p13の段落の最後の文は、(哲学のほとんどのように)翻訳する必要があるので、「主観的な経験は、哲学者が意図的な内容と呼ぶ内容を持っており、意図的なコンテンツの仕様は、意図的な内容があなたに提示する事務の記述と同じです。私は「知覚はシステム2の公用語でしか記述できないシステム1精神状態である」と言うでしょう。そして、彼が私たちの認識の記述のそれを信じるという記述の同等性に再び注意して終わると、彼はWがずっと前に指摘したことを繰り返しており、S1が非言語的であり、記述、信じる、知っている、期待するなどがすべて異なる心理的または意図的なモードまたは言語ゲームであるという事実によるものです。

p23では、彼は私的な「経験」を指しますが、言葉はS2であり、公共の出来事を記述しているので、「プライベートエクスペリエンス」(つまり、S1)という言葉の

使用を保証するものは、公共の行為を記述するために使用する言語に過ぎません。これはもちろん、私立言語の可能性に対するWの議論です。彼はまた、Xの幻覚はXを見るのと同じだと何度か言及、していますが、私たちが同じ言葉を使う傾向がある以外は、これのテストは何でしょう?この場合、定義上は同じなので、この引数は中空にリングします。

p35上で、彼は再び正しく正しく文に対する態度ではなく、その公共COS、すなわち事実や真実のメーカーに対する態度(性質)である「命題的態度」の使用を攻撃します。「例えば、目の前に男がいるのを見ると、目の前に男がいるという内容です。目的は男性自身です。私に対応する幻覚を持っているなら、知覚経験にはコンテンツがありますが、オブジェクトはありません。コンテンツは2つの場合でまったく同じことができますが、コンテンツが存在することはオブジェクトの存在を意味するものではありません。私が見る方法は、「オブジェクト」は通常、世界にあり、精神状態(S1)を作成し、これを言葉で言えば、それはCOS2(すなわち、公共の真実主義者)とS2になり、これは公共の対象を伴うが、幻覚(または直接脳刺激)のために等)「オブジェクト」は、脳の活性化に起因する同様の精神状態に過ぎません。

Wが示したように、大きな間違いは知覚を理解することではなく、言語を理解することだ——哲学の問題はすべて全く同じである——明確なCOSを生み出すために、言語が特定の文脈でどのように機能するかを注意深く見てこなかった。

p61の中で、S1とS2を別々に保つことができなかつたときにあちこちで起こる混乱が見られます。S1の表現を参照してはなりません、少なくともR1と呼んで、パブリックCOSを持たないことに気付かなければなりません。

p63で非デタッチ可能とは、S1の自動機能であり、S2の推論された自発的な機能ではないことを意味します。この議論は次のページに続きますが、もちろん本全体と哲学のすべてに関連しており、サークルと行動科学のほとんどすべてが21世紀に入ることができず、非常に多くの不透明な問題を非常にclearにする2つのシステム用語を使用することは非常に残念です。同様に、それは常に科学的な問題か哲学的な問題か、哲学的なものかどうか、そして哲学的であれば、どの言語ゲームがプレイされ、COSが問題の文脈にあるのかの問題であることを理解できなかったことです。

p64では、Wが私立言語がなく、ベネットとハッカーが神経科学コミュニティ全体を任務に取り組んでいるように、通常の使用では「経験」は私たちが基準を共有する公共の現象に過ぎませんが、私の頭の中で経験を持っている私のテストは何ですか?少なくとも、ここには他の人につながるあいまいさがあります。多くの人は、これらは問題ではないと思います、多くの人は、彼らがそう思います。脳内で何かが起こるが、それは科学的な神経生理学的問題であり、確かに「経験」によ

って、または「私はウサギを見た」によって、神経生理学を意味することはありません。明らかに、これは科学的調査の問題ではなく scientific、分かりやすい言葉を使う問題の1つです。

p65では、インデックス、デタッチ不可能、およびプレゼンテーションは、行動を記述するための2つのシステムフレームワークを採用していない人々(すなわち、ほぼすべての人)によってシステム1の代わりに使用される哲学的専門用語です。同様に、次のページでは、「オブジェクトと状態」、「視覚的経験」、「完全に確定」などがCOSが何であるかを決定する必要があり、S1とS2の特性を念頭に置けば、このすべてが非常に明確になり、Searleと他の誰もがそれを表現するのを止めることができる言語ゲームです。したがって(p69)「現実 is 確定している」ということは、認識がS1であり、精神的な状態であることを意味し、今ここで、自動、因果関係、検査不可能(真のみの、すなわち、公的なテストなし)など、信念は、すべての性質がS2であり、精神状態ではないので、明確な時間を持っていない、理由があり、原因ではない、COSなどでテスト可能です。

p70では、知覚の行動の意図(私の用語ではIA1)は、反射的になったS2行為(私の用語ではS2A)に由来する可能性のあるS1(私の用語ではA1)の反射的行為の一部であると指摘しています。

p74 on p75の底部では、500msecが(S1)と(S2)として見ることとの間のおおよその分割線として取られることがよくあります。

p100-101では「主観的な視野」はS2で、S2では「客観的な視野」はS1で「何も見られない」ということは、S1と実際に哲学と科学の良い塊と同じ意味で見る言語ゲームをプレイしないことを意味します(例えば、物理学)は、人々が言語ゲームをしていて、科学をしていないと気づいたら異なるでしょう。

p107では、言語はS2で、S1は自動で反射的なので、言語がないので、私が見たことを言うとき、または私が見たことを説明するとき、私は「猫を見た」としか言えないので、「知覚は透明です」。もう一度Wは、言語の限界を示すものとしてずっと前にこれを指摘しました。

P110ミドルはSearleSpeakからTwoSystemsSpeakに翻訳する必要があるため、「プレゼンテーションの視覚的な意図的性は表現の亜種であり、すべての表現は側面の下にあるため、視覚的なプレゼンテーションは常に提示されます「S1の知覚は、公開COSを持つS2にデータを提示するので、公開COSを持っているかのようにS1について話すことができる」という。p111では、「条件」はS2のパブリックCOS、すなわち、ステートメントを真または偽にするイベント、および「下位」と「高次」はS1とS2を指す。

p112では、S1はS1に戻って収縮筋に戻ってアクションを生成し、より低いレベル知覚(P1)とより高いレベル知覚(P2)はS1とS2を記述する言語が1つしか存在しないため、同じ用語でしか記述できないため、基本的な行動と基本的知覚は同型である。p117底部では、満足,の条件(私のCOS1)との「内部接続」の代わりに、知覚が精神状態を引き起こすS1のオートマリティとして注目されるように、2つのシステムフレームワークを採用するならば、それははるかに神秘的ではありません。

p120では、「因果鎖」の言語ゲーム‘causeはS1や自然の他の非心理的現象でのみ意味をなすのに対し、セマンティクスはS2であり、人間の行動の理由を分かりやすく話すことしかできないため、「因果鎖」には説明力が無’ onlyいということです。これが現れる一つの方法は、他の言語ゲームで私たちを魅了する「意味は頭の中にない」です。

p121では、COS1('経験')を持っているという認識(S1)が単に知覚の言語ゲームの条件を記述している、つまりシステム1について話すときの自動因果関係の精神状態(P1)であると言う。

p 122で私は思う "最初に、存在論的に客観的な世界で赤いことは、このような存在論的に主観的な視覚体験を引き起こすことができるためです" it should be stated as "First, for something to be red is just for it to incline me to call it 'red' "—as usual, the jargon does not help at all and the rest of the paragraph is unnecessary as well.

p123では、S1の自動、因果関係、精神状態であり、私はW、DMSなどと一致して何度も言っているように、これらは無意識のうちに前置詞の基礎である「ヒンジ」を無意識のうちに活性化しているので、理解的に「前提」と呼ぶことができません。

セクションVIIとVIII(または本全体またはほとんどの高次行動または狭い意味での哲学のほとんど)は、「因果関係を記述する言語ゲーム、S1の理歴、意識的、永続的な言語的思考を伴うS1の自動非言語的一過性の精神状態と背景は仮定ではなく、当然のことと考えることはできませんが、それはすべての根源である私たちの公理的真のみの心理学(Wの「確実性に関する」行動の方法)です。仮定。私のコメントから明らかのように、私は2つのシステムフレームワークとOCのWの洞察を欠いているセクション全体が、知覚の言語が様々な文脈でどのように機能するかをせいぜい説明できる知覚の「説明」を提示すると仮定すると混乱していると思います。私たちは「赤」という言葉がどのように使われているかを説明することしかなく、このセクションの最後の文では、何か「赤いリンゴ」であるためには、通常は誰もが同じ言葉を使用することだけであると言うかもしれません。

, as nobody can do philosophy or psychology in the old way anymore without looking antiquated ヒンジといえば、サールが多くの(例えば、DMS(ダニエル・モヤール-シ

ヤーロック)現代哲学における最大の発見とみなすもの(例えば、DMS(ダニエル・モヤール-シャーロック)を)現代哲学における最大の発見として組み込んでいないのは悲しく、少し奇妙です。and being confused.そして、サールは彼のキャリア全体を「確実性について」ほとんど無視していましたが、2009年(すなわち、この本の出版の6年前)、彼は英国ウィトゲンシュタイン協会が開催し、DMSが主催するシンポジウムで講演したので、彼は確かに彼がここで議論しているトピックを再ボルドゥした見解を認識しています。この会議は公開されなかったと思いますが、彼の講義はVimeoからダウンロードできます。新しいトリックを学ぶことができない老犬の場合のようです。彼はおそらくウィトゲンシュタイン以来、誰よりも高次行動の記述心理学でより多くの新しい領域を開拓してきましたが(おそらくピーター・ハッカーの著作はかなり密で、人間の性質上の彼の3巻はごく最近のもので)、彼は私たち全員がそうであるように、彼はそれに滞在する傾向がある道を学びました。誰もがそうであるが、彼はフランス語の単語 レポートリーを使うのですが、英語の単語「レポートリー」を発音して綴るのが簡単で、常に「彼ら」や「彼ら」を使うことができるときには厄介な「彼/彼女」または逆性差別「彼女」を発音し、綴ります。彼らのより高い知性と教育にもかかわらず、学者も羊であり、彼らはほとんどすべての悪い英語だけでなく、ネオマルクス主義第三世界至上主義ファシズムに下層階級の半ライト酸塩に従っています。

章の最後までセクションIXは、S1の特性(すなわち、「主要な資質」を記述するために使用される言語ゲームをプレイする)を記述しようとするときに、非常に不透明で厄介な言語ゲームを再び示しています(データをS2(つまり、二次的な品質)に送り込み、S1にフィードバックしてアクションを生成する必要があります。また、「確実性」で提示された「ヒンジ認識論」に関するウィトゲンシュタインのユニークな見解を把握できなかったことによって犯した誤りを示しています。デュアルシステムの用語でこれがどれほど明確であることを示すために、私は章全体(および本の多く)を書き換える必要があります。私はここで何度かセクションを書き直し、しばしばサールの他の本のレビューで書き直したので、私はいくつかの簡単な例を挙げるだけです。

p129の文「現実には経験に依存せず、逆に。問題の現実の概念は、すでに特定の種類の経験を生み出す因果能力を伴います。だから、これらの経験が赤いオブジェクトを提示する理由は、赤いオブジェクトであるという事実は、このような経験を生み出す能力を伴うからである。直線であることは、この他の種類の経験を生み出す能力を伴います。アップショットは、生物は赤い物体や直線を見ているように見えずにこれらの経験を持つことができないということです、そして、「彼らに見える」ことは、知覚経験の本質的な意図的性をマークします。「S1はS2の入力を提供し、各文脈でCOSであることを「赤」という単語の使い方を提供するので、これらの単語を特定の方法で使用することは赤を見る意味です。通常の場合では、赤が見えるのは「見えない」ようには見えませんが、赤が見えるだけで、疑わしいケースを説明するために「見かけ」を使用しています。

p130では、「私たちの質問は今、世界の物事の性格と私たちの経験の性格との間に不可欠なつながりがありますか?」と訳すことができます"私たちの公共言語ゲーム(S2)は知覚の記述(S1)に役立ちますか?

セクションXの「後ろ向きの道」の最初の段落は、特定のイベント(精神状態、すなわち、知覚、記憶など)を言語で記述する多くの方法のために、S2とS1の間に正確な1:1の接続または削減ができないことを理解することが哲学の中で最も重要なものです。したがって、アルゴリズム(強いAIの絶望)や脳内の特定の神経パターンから多くの行為(言語ゲームつまり、無限の文脈の単語)に完全に行動(言語、思考)を完全にキャプチャする明らかな不可能です。「後方道路」は、S1を記述するために使用されるS2の言語(COS)です。繰り返しますが、私は彼が2つのシステムフレームワークを使用しなかったことは、不透明でなければ、これを非常に混乱させると思います。もちろん、彼はこの失敗をほぼすべての人と共有しています。サールは以前にこれについてコメントしているので、他の人(例えば、ハッカー、様々な文脈でW)がありますが、それはほとんどの哲学者とほとんどすべての科学者を逃れたようです。

繰り返しますが、SearleはSect XIとX12のポイントを逃しています - 私たちは、経験と言葉の間に記憶や「仮定」を持っているように見える赤や「見える」ように見えませんが、システム1の生来の公理的な真の唯一の精神状態を構成するすべての認識と記憶と同様に、私たちは経験を持っているだけで、この文脈で「赤」になるだけです。これは私たちの自動行動であり、仮定や判断や予言の基礎であり、理解して判断、テスト、または変更することができない私たちの心理学の公理であるヒンジであるため、赤であることを知っています。SWは何度も指摘し、S1の間違いはS2の1つとは全く異なる種類です。説明はできませんが、その仕組みしか説明できないので、私たちの高次心理学の些細な「説明」を得る可能性はありませんhigher order。彼がいつも持っているように、サールはウィトゲンシュタインよりも行動(言語)を理解していると考える共通の致命的な間違いを犯します。10年間W、S、そして他の多くの人を読んだ後、私はWの「目覚めの例」、格言とトライアルは、通常、他の誰かの言葉の不満よりも大きな照明を提供することを見つけます。

「私たちはあらゆる種類の理論を進めるかもしれませんが、ここでのtは私たちの考慮事項において仮説的なものであってはなりません。私たちはすべての説明を廃止しなければならず、説明だけではその場所を取らなければなりません。(PI 109)。

p135では、知覚を記述する1つの方法は、事象または物体がニューロン活性化(精神状態)のパターンを引き起こし、その自己反射性COS1は目の前に赤いバラが見え、通常の英語を話す人には適切な文脈で、COS2が赤いバラを見るという言葉を生

み出す筋肉収縮を活性化させるということです。または、S1は適切なコンテキストでS2を生成します。したがって、p136では、S1がこの文脈で「滑らか」という言葉によって表現するS2につながると言うことができます(しかし、決して「説明」しない)、この文脈での言語ゲームの仕組みを説明し、「基本的な行動と基本的な認識のために、意図的なコンテンツは意図的に特徴付けられているにもかかわらず、意図的に満足の条件に内部的に関連しています。そして、アクションの場合、そのタイプのexperiencesは、そのような身体運動を引き起こす能力で構成されています」「基本的な認識(S1)は、基本的な反射行動(A1)(すなわち、指を燃やすと腕を引き出す)に自動的に導くことができるので、その後、それが認識に入り、言語(S2)で説明することができます。

p150では、知っている、判断する、考えているような推論は、情報(真または偽)である公共COSで言語で表現されたS2の性質であり、知覚は非情報的(ハットとミンの最初の本のレビューを参照)S1の自動応答であり、S1で推論する言語ゲームをプレイする意味のある方法はないという点です。木と私たちが見るすべては、数百ミリ秒かそこらのためのS1であり、通常、彼らは言語が添付される(アスペクト形状またはとして見る)S2を入力します。

p151 et seq.に関しては、後のWに対する彼の注意の欠如の一環として、SearleがおそらくWの「色に関する発言」の色の言葉の最も浸透した分析を指しているようには見えないのは悲しいことです。唯一の問題は、プライベート言語や意味がないため、このパブリック言語コンテキスト(真または偽の記述-COS2)で、色の単語と「同じ」、「異なる」、「経験」などでゲームをプレイする方法です(S1)。だから、S1の精神状態で何が起こるかは(神経科学者を除いて)問題ではなく、S2に入ったときにそれらについて何を言うかは問題ではありません。7日も明らかです。8地球上の80億は、赤を見るたびにわずかに異なる神経活性化パターンを持っており、S1とS2の間に完全な相関関係を持つ可能性はありません。私が上記に述べたように、すべての哲学者と科学者がこれを明確にすることは絶対に重要です。

バット(p157)の脳に関しては、S1とS2の正常な関係を混乱させたり排除したりする限り、意図的な言語ゲームを失います。同じことがインテリジェントマシンにも当てはまり、Wは80年以上前にこの状況を明確に説明しました。

「生き物と似ているもの(振る舞い)だけが生きている人間が言うことができる:それは感覚を持っている。それは見る。盲目である。聞く;耳が聞こえない。意識的または無意識である。(PI 281)

第6章:はい、不純主義(ほぼすべての哲学的な論書のような)は支離滅裂であり、これと他の不条理が彼自身の部門で繁栄し、彼の哲学のクラスでトップマークを得た彼の元学生の中でさえも示していますそのほとんどと同様に、彼はヴィトゲンシュタインの研究であまりにも早く停止しました。

p188では、S1が真の唯一であるので、はい、検証的な見方と「知っている」(すなわち、K1)は同じですが、それはS2の遅い、審議的な公語ゲームでのみ記述できる速い、公理的、苛立ち的な自己反射的な、自動精神状態です。

p204-5では、思考、知っているなど、無限に可変的なパブリックCOSを持つS2の性質であるため、表現は常に一面の下にあります。

もう一度、私は2つのシステムフレームワークを使用すると、議論を大幅に簡素化すると思います。S1の「プレゼンテーション」に「表現」を使用することを主張するならば、R1は一過性の神経生理学的精神状態であるCOS1を持っており、公然と言語的に表現可能な状態のCOS2(縦横の形)を持つR2とは全く異なり、そのような言語ゲームは明確な意味を欠いているので、無意識の精神状態の概念は違法であると言うべきです。

悲しいことに、p211サークルでは、おそらく彼の著作の10回目(そして彼の講義で延々と)、「自由意志」は幻想的かもしれないと言います。しかし、30年代のWが指摘したように、私たちの選択のような「ヒンジ」を一貫して否定または判断したり、私たちが見たり、聞いたり、眠ったり、手を持ったりすることはできません。

p219底と222トップで-それは彼の作品の中でWであり、行動は証拠的根拠を持つことができず、その基盤は疑いと確実性の基礎であり、疑うことができない私たちの動物の確実性または行動方法であると指摘した「確実性」で最高潮に達しました(S1の蝶番)彼はまた、公的なCOSを持たない、そして(S2のものとは異なり)テストできない私たちの基本的な認識(S1)の「間違い」は、それが主要であるか持続するならば、さらなるテストではなく狂気につながると何度も指摘しました。

驚異的主義p227トップ:サークルの優れたエッセイ「新世紀の哲学」のレビューでサークルの優れたエッセイ「現象学的幻想」に関する私の広範なコメントを参照してください。私的な経験を「現象」「見る」などと呼ぶ令状さえありません。Wが有名に私たちに示したように、言語は公的なテスト可能な活動(私有言語なし)に過ぎません。そして、p230の問題は、「理論」が不十分であるように見えるということではなく、(すべての哲学的理論ではないにしても)支離滅裂であるということです。明確なCOSを持たない言語を使用します。Wが主張したように、私たちにできることは、理論を作ることができるのは科学者たちです。

要するに、これは古典的なサークルです - 素晴らしく、少なくとも他の誰もが作り出すことができるのと同じくらい良いですが、後のヴィトゲンシュタインの基本的な洞察を理解していない、そして思考フレームワークの2つのシステムを把握していない可能性があります。それを華麗にしました。

私は再び、Wがいくつかの「精神的現象」を示唆することによって、これらの「パズル」のいくつかに興味深い解決策を提起していることに注意してください(すなわち、公共の行為につながる性質の言葉)は、脳内の混沌としたプロセスに由来し、メモリトレースに対応するものも、単一の意図または行動として識別できる単一の脳プロセスに対応するものも、因果鎖が跡形もなく終了し、「原因」、「イベント」および「時間」が適用されなくなる(有用である)その後、多くの人々が物理学と複雑さと混乱の科学に基づいて同様の提案をしました。しかし、現代の意味での「混沌とした」は、法律によって決定されるが予測できない意味であり、混乱の科学は彼の死後ずっと後まで存在しなかったことを思い出さなければならぬ。そして、againカオス理論は(ゴデルの意味では)デシッドできない、不完全であることが証明されていることを再び私に指摘させてくださいGodel's。

私たちの行動(またはあなたが望む場合は脳機能)はすべて私たちの生来の心理学に起源を持っているので、哲学、社会学、人類学、政治学、心理学、歴史、文学、宗教などの「人間科学」とand物理学、数学、生物ロジ学の「ハードサイエンス」は、私がここで議論した言語ゲームの質問のミックスです。は。サイエンティズムは今までに存在し、私はヴィトゲンシュタインがずっと前に私たちに言ったことを繰り返します。

哲学者は常に科学の方法を目の前で見えており、科学のように質問をして答え、たまらなく誘惑されています。この傾向は形而上学の本当の源であり、哲学者を完全な闇に導く」(BBB p18)

ここで顕著に特徴付ける意図的性(合理性、心、思考、言語、人格など)のテーブルは、多かれ少なかれ正確に記述されているか、少なくともヒューリスティックとして機能し、私たちがどのように考え、振る舞うか、そしてそれは包含されないという私の主張です。単なる哲学と心理学、しかし、他のすべて(歴史、文学、数学、政治など)。

社会の鍵societyは生物学であり、地球上の地獄に容赦なく導く自殺ユートピアの理想を配偶者に世界の大部分をリードしているのは、それに気づかないものです。私は私の著書「21世紀のan自殺ユートピアの妄想」(2019年)と「民主主義による自殺:アメリカと世界のための死刑執行人nd」(2019年)で詳細に説明しています。